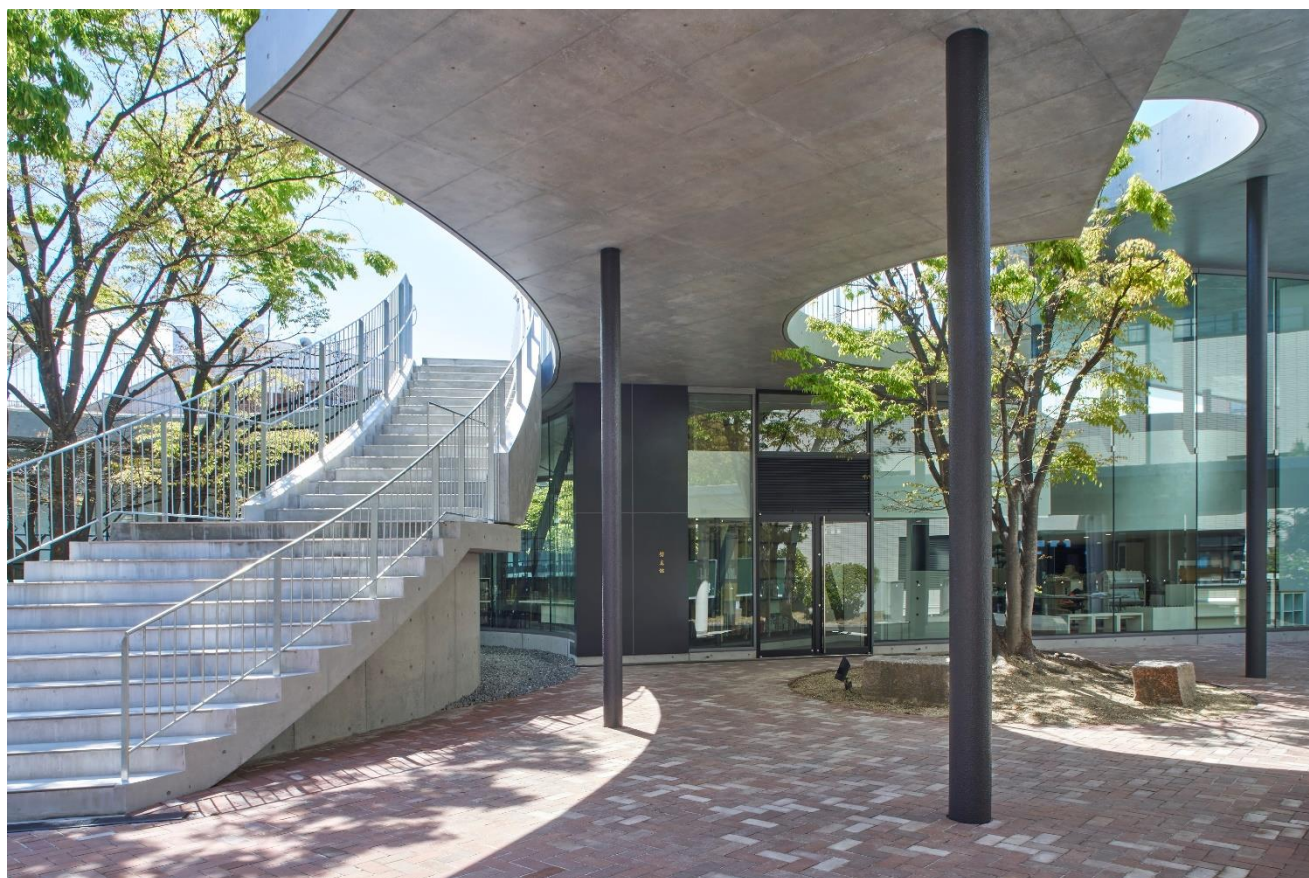


高等学校 2023年度生

シラバス



高校	学年	組	番	氏 名
	1年			
	2年			
	3年			

同志社香里高等学校

I. はじめに

本校は1951(昭和26)年に学校法人同志社傘下の中等教育機関として誕生しました。同志社は「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」の3つを建学の精神を掲げており、本校もそれらを体現する教育活動を行ってきました。それをより明確にするため入学者の受け入れ方針、教育課程編成・実施方針、卒業認定の方針を簡潔に記した「同志社香里中学校・高等学校 教育方針(スクールポリシー)」を2021年5月に策定しました。

今日の社会においては、2030年の「持続可能な開発目標(SDGs)」達成に向けて、すべての人々が対話を通じて利害関係を調整し、「持続可能な世界」の実現を図ることが求められています。そのためには知識の獲得はもちろんのこと、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力等の技能のほか、生涯に渡り学び続ける姿勢や豊かな人間性等を身に付けることが必要不可欠です。

高等学校の学習指導要領が全面改訂され、2022年度より各教科とも科目・内容・時間等が大幅に変更されました。本校からはここ数年約98%の生徒が同志社大学・同志社女子大学へ校内推薦制度で進学していますので、大学も含めた7年一貫の教育が求められています。そこで本校のカリキュラムは、中学校で学んだ基礎の上に高校での学びを積み上げて、大学での専門的な学問や研究の基礎となる学力の定着を目指すとともに、将来の多様な進路に対応できるように構成しています。特に「総合的な探究の時間」においては、大学のようなゼミ形式により、自分で課題を見つけてテーマを設定し、情報を収集・分析して解決策を見出す手法を取り入れ、主体的に学ぶ姿勢を身につけることを目標としています。

シラバスとは、学習内容を教科、学年毎に具体的に示したもので、いわば生徒の皆さんの学びの羅針盤となるものです。ここに記されている内容をあらかじめ確認し、勉強の目標を立ててください。その積み重ねが将来の「夢」の実現に繋がることになります。そのうえ課外活動にも積極的に参加し、同志社香里ならではの豊かな学園生活を過ごしてほしいと願っています。

II. シラバス(授業計画)の活用について

- 1) シラバスは、高校3年間でどのようなことを学び、どのようなことが出来るようになるか(ならないか)を示したもので、教科書や副教材、学習目標、到達目標、学習方法、学習内容とその実施時期、成績の評価方法などが記されています。ただし、2024年度(第3学年)以降に開設される科目で、教科書や副教材が明記されていない場合は後日改めて連絡します。
- 2) 日頃の学習を計画的、効率的に進めるためにシラバスを活用して学習計画を立てましょう。予習や復習時にもシラバスを用いて、これから学習する単元やすでに学習した単元内容等を確認しましょう。毎日の学習時間を確保し、学び続ける習慣と学力を身に付けるようにしましょう。

スクールポリシー	・ ・ ・ ・ ・	2
国語	・ ・ ・ ・ ・	3
地理歴史	・ ・ ・ ・ ・	15
公民	・ ・ ・ ・ ・	31
数学	・ ・ ・ ・ ・	41
理科	・ ・ ・ ・ ・	61
英語	・ ・ ・ ・ ・	75
保健体育	・ ・ ・ ・ ・	89
芸術科(音楽)	・ ・ ・ ・ ・	95
芸術科(美術)	・ ・ ・ ・ ・	99
芸術科(書道)	・ ・ ・ ・ ・	101
家庭	・ ・ ・ ・ ・	103
情報	・ ・ ・ ・ ・	105
聖書	・ ・ ・ ・ ・	108
総合的な探究の時間	・ ・ ・ ・ ・	112

※ 学習内容や進度等に変更がある場合は、授業担当者より説明があります。

同志社香里中学校・高等学校 教育方針（スクールポリシー）

同志社は、1875 年の同志社英学校開校以来、今日に至るまで「良心の全身に充満したる丈夫(ますらお)」を世に送り出すことを目指してきたキリスト教主義学校です。私たち同志社香里中学校・高等学校は、その同志社の精神を唯一大阪で体現する学校として、約 70 年の歴史を重ねてきました。生徒が本校での学びを通じて広い視野と深い思考力、篤い他者貢献の志を備え、世界へと歩み出していってくれることを願い、日々の教育活動を行っています。

アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

- ・ 知的好奇心を持って、多様な学びに積極的に挑戦していける生徒
- ・ 自分と異なる他者と関わり、違いを受け入れつつ、自らの個性を伸ばしていこうと志す生徒
- ・ キリスト教主義教育の本質を理解し、自他を愛する心を育もうと望む生徒

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施方針）

- ・ リベラルアーツの精神に則って幅広い学びを提供し、基礎的な知識と思考力を身につけることを目指します。
- ・ 興味を持ったことに集中して探究できる、指導体制と環境を整えます。
- ・ チームティーチングや補講、各種検定試験受検など、きめ細かい指導で、確かな基礎学力を養います。
- ・ 情報収集、資料整理、課題設定などの手法に習熟できるよう、中高 6 年間を通して調べ学習やプレゼンテーション、探究的な教育活動を段階的に行います。
- ・ 実物教育、ICT 教材、社会人講師、外部コンクールへの応募、高大連携講座など、多様な学びの機会を積極的に取り入れることで、知的好奇心を育み、広く社会で通用する論理的思考力、表現力の涵養を目指します。
- ・ 海外修学旅行、多数の語学研修プログラム、交換留学等を実施し、グローバルな価値観、コミュニケーション能力、深い他者理解を促す教育を行います。
- ・ 日々の礼拝や聖書の授業、宗教行事等を通して、キリスト教精神に則った自律心と、他者を支える心を育みます。
- ・ 単にリーダーシップを育むのではなく、他者を支え、弱さを抱えた人に寄り添い、互いに許し合うことのできる、キリスト教の愛の精神を涵養します。そして、それらを実践する力を備えた「良心を手腕に運用する人物」となるべく、学級活動や部活動を展開します。
- ・ 他者と協働できつつも、互いの個性を尊重し、周囲に流されない独立心を持つ「自治自立」の人となるため、学校行事や課外活動を通じて、様々な人との関わり方、自らの活かし方を学びます。

ディプロマポリシー（卒業認定の方針）

- ・【自治自立】周囲に流されず、責任感を持って「良心を手腕に」行動する力
- ・【倜儻不羈】人と違うことを恐れない、個性や独立心豊かな人格
- ・【利他の精神】損得に囚われなくて「世に与えんと欲する」、広く人に奉仕する心
- ・【学問、知的好奇心】自ら知識や教養を身につけ、それらを活用して学び問い続ける姿勢
- ・【国際精神】多様な価値観を知ったうえで、自らの指針を見出し、広い世界へ向かって行動できる主体性

2021 年 5 月 26 日制定

高等学校 国語科 シラバス

3年間のねらい、学習目標

人間が人間たるゆえんはどこにあるのか。それは、我々が「考える」存在である、というところにある。

我々は、一人一人が違った考えを持つ存在である。自らの考えを他者に伝える手段として、また他者の考えを理解する手段として「言葉」が必要になる。我々は、「言葉」を通して他者と自己の違いを知り、精神的に成長していく。

考えもしなかった新しい視点で物事を切り取った文章に触れたとき、我々の世界は広がる。想像もつかない遠い時代の詩に出会ったとき、我々の人生は深みを増す。

「言葉」は、人生を豊かな、立体的なものにしてくれる、かけがえのない「出会い」でもある。

このようなことに思いを巡らせるとき、自ずと「国語」を学ぶ目的が見えてくる。すなわち、説明的文章を学ぶ目的は、新しい視野や考える道筋を獲得し、思考力と判断力を高めることにある。文学的文章を学ぶ目的は、人間存在に対する理解を深め、自らの生き方を見つめ直す糧とすることである。古典を学ぶ目的は、古人の生き方や価値観に触れることで、人間存在にとって不変のものを確認する、または変化するものに気づき、そこから現代という時代について考えを深めることにある。そうして生み出される自らの思索の結果を、ただ内面に沈殿させるのではなく、他者に伝えて活きたものとするために、表現力を鍛える。

優れた詩や文章に多く出会うことで、自らの内面と言葉を磨き、確固たる自己と豊かな感受性を備えた人間となって、この同志社香里高校を巣立って行ってほしい。そして、広い世界で自らを発信し、他者とつながることで、豊かな人生を送ってほしいと願っている。

第1学年	教科書	大修館書店「言語文化」（言文 705）
言語文化 （3単位）	副教材	国語便覧、古典文法テキスト、古文単語集

学習到達目標

1. 文学的文章 文学的表現を味わい、人間についての理解を深める。また、詩や短歌を通して、新しい視点で日常を見つめる表現世界を味わう。
2. 古文 用言・助動詞を習得する。和歌の表現方法を学んで古人の思いに触れ、また説話・軍記物・歌物語を通して、古文独特の世界に親しむ。
3. 漢文 使役形・受身形・否定形の句法を習得する。また、漢詩や思想・史話・故事成語の短文を通して、漢文の世界に親しむ。
4. 表現 書く作業を通して、観察力・表現力をつける。また、グループ発表や質疑応答の作業を通して、筋道を立てて話す力・聞く力をつける。
5. 主体的に学ぶ力 他者との対話を通じて自分の考えを深め、言葉を通して積極的に他者や社会と関わろうとする態度を身に付ける。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学習方法

授業を大切にすることが基本である。授業前には必要なものを準備し、着席しておく習慣を付ける。授

業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、授業の流れに沿って学習するのは勿論のこと、教材に応じて国語辞典あるいは古語辞典を引き、自ら学ぼうとする姿勢で臨む。ノートは板書や教師の説明を丁寧な字で確実に書くことに加え、自分なりの疑問や気づきをメモする習慣も付ける。

授業時に出された課題は、丁寧に仕上げ、期限を守って提出することを心掛ける。

年間シラバス （1年間の学習予定表）

<週3時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 古文入門 2. 古典説話 3. 漢文入門 4. 故事成語 5. 古典随筆 6. 漢文寓話 7. 現代小説	- 本文の音読・朗読を通して、古文のリズムに慣れる。 - 歴史的仮名遣い・古語の意味・品詞の種類・係り結びといった基礎知識を系統的に学習する。 - 短い物語を読み、話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 - 用言と基礎的な助動詞を理解する。 - 漢文の構造を理解する。 - 訓読のきまり・書き下し文のきまりを理解する。 - 短編の故事成語を読んで、まとまった漢文の読みに慣れる。 - 故事成語の現在使われている意味について理解する。 - 随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。 - 話の展開や登場人物の言動を読み取り寓話に込められた意図について考える。 - 小説の基本的な読解方法を習得する。 - 近代の代表的な小説を読み、短編小説について理解を深め、面白さを味わう。	【評価の観点】 - 知識、技能 - 思考、判断、表現 - 主体的に学習に取り組む態度 【評価方法】 - 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解や読む能力に偏ることなく、書く能力をみる出題もある。 - 平常点 (1) 授業時などの学習過程で、評価の観点の3項目について評価する。 (2) 課題などの提出状況・復習テスト・小テストの成績などを評価する。
2 学期	1. 古典歌物語 2. 古典日記文学 3. 和歌 4. 古典作り物語 5. 漢詩 6. 散文詩 7. 俳句	- 歌物語における和歌の役割を理解し、作品全体を深く味わう。 - 日記文学の表現の特徴を踏まえて、作品に込められた意図を理解する。 - 表現の特色に注意しながら和歌の内容を読み取る。 - 作り物語に表れた多様な思いを、叙述を基に的確に捉える。 - 漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。 - 散文詩の特徴を理解し、独特な表現やリズムを味わう。 - 俳句独自の特徴と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る。	

3 学 期	1. 古典軍記物語 2. 詩	・軍記物語特有の表現に注目しながら、登場人物の描かれ方を読み取る。 ・散文とは異なる詩ならではのイメージを味わい、感受性を養う。	
-------------	-------------------	---	--

第1学年	教科書	東京書籍「精選現代の国語」
現代の国語 (2単位)	副教材	国語便覧、漢字検定対策問題集

学習到達目標

1. 漢字 常用漢字を概ね習得し、日本漢字能力検定2級または準2級の取得を目指す。
2. 説明的文章 さまざまな意見に触れることを通して、自らの考えを形成する。また、すぐれた文章を読み解くことで、言語能力を高める。
3. 表現 書く作業を通して、観察力・表現力をつける。また、発表や質疑応答の作業を通して、筋道立てて話す力や聞く力をつける。
4. 読書 実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深め、自己を向上させる契機とする。
5. 主体的に学ぶ力 他者の意見を自らの意見の形成に役立て、言葉を通して積極的に他者や社会と関わろうとする態度を養う。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	漢字検定2級もしくは準2級を取得し、実社会に必要な国語の知識や技能を十分に身に付けている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を十分に身につけ、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に積極的に関わろうとしている。

学習方法

授業を大切にすることが基本である。授業前には必要なものを準備し、着席しておく習慣を付ける。授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、授業の流れに沿って学習するだけでなく、教材に応じて国語辞典を引き予習するなど、自ら学ぼうとする姿勢で臨む。ノートは板書や教師の説明を丁寧な字で確実に書くことに加え、疑問や気づきを書き留めるなど、復習時に要点が理解できる工夫を凝らす。授業時に出された課題は、丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。また、自分が調べた成果や自分の考えが伝わるような工夫を心掛ける。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週2時間>

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
--------	---------	--------------	-----------

1 学 期	1. 評論 ◇漢字 ◇読書	・評論の書かれ方を理解し、読み方を知る。 ・日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。 ・読んだ文章から問いを立て、構成を工夫して意見をまとめる。 ・意見交換を経て形成された自分の考えを整理し、的確に伝える。 ・問題集を用いて、漢字検定2級の合格を目指す。 ・新書などを読み、さまざまな分野における考え方に触れる。 ・読書を通じて、自分の考えを広げたり深めたりする。	【評価の観点】 ○知識・技能 ○思考・判断・表現 ○主体的に学習に取り組む態度 【評価方法】 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解や読む能力に偏ることなく、書く能力をみる出題もある。 2. 平常点 (1)授業時などの学習過程で、評価の観点の3項目について評価する。 (2)課題などの提出状況・復習テスト・小テストの成績などを評価する。
2 学 期	1. 評論 ◇漢字 ◇読書	・筆者の主張を的確に読み取り、文章の内容を要約する。 ・比喩や具体例に注意して内容を読み取り、文章の主題について考えを深める。 ・文章の読み比べ方を学び、比較する方法を理解する。 ・グラフや写真の読み方を理解し、情報を適切に読み取れるようにする。 ・情報の信頼性を吟味し、伝える相手や目的に応じてまとめる。 ・問題集を用いて、漢字検定2級の合格を目指す。 ・新書などを読み、さまざまな分野における考え方に触れる。 ・読書を通じて、自分の考えを広げたり深めたりする。	
3 学 期	1. 評論 ◇漢字 ◇読書	・文章中に挙げられた事例に即して内容を的確に読み取る。 ・筆者独自の表現に注意して内容を読み取り、文章の主題について考えを深める。 ・読んだ文章から自らの考えを広げ、構成を工夫して意見をまとめる。 ・意見交換を経て形成された自分の考えを整理し、的確に伝える。 ・問題集を用いて、漢字検定2級の合格を目指す。 ・新書などを読み、さまざまな分野における考え方に触れる。 ・読書を通じて、自分の考えを広げたり深めたりする。	

第2学年	教科書	指定なし
国語演習 (1単位)	副教材	国語便覧など

学習到達目標

1. 現代文・古典の枠にとらわれず、様々な時代・分野の作品に触れ、語彙力や読解力を高め、社会で役立つ国語の知識・技能を身に付ける。
2. 小論文作成や創作活動、発表等を行うことで、論理的思考力や表現力を養う。
3. 様々な作品を読解し、言語による表現活動を行うことで、生涯にわたって読書に親しむ姿勢や言語を通して他者や社会に関わる態度を養う。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	・読解や言語表現に必要な語彙を身に付けている。 ・文章の種類や特色、構成について理解している。 ・文章に応じて適切な表現や言葉遣いを使い分けている。	・文章の構成や展開を捉えながら、的確に内容を読解している。 ・表現や構成に留意しながら、自分の意見を論理的に伝えることができている。 ・他者の意見に触れることで、自らの意見を深めることができている。	文章読解や表現活動に主体的に取り組む、得られた知識や論理的思考力、表現力を実生活で生かそうとしている。

学習方法

授業を大切にすることが基本である。授業前には必要な物を準備しておくのはもちろんのこと、授業中は教師の説明や指示を注意深く聞き、授業の流れに沿って学習できるようにする。ノートは板書や教師の説明等を丁寧な字で確実に書くだけでなく、復習時に要点が理解できるような工夫を凝らす。授業時に出された課題は、丁寧に仕上げ、期限を守って提出することはもちろんのこと、自分で調べた成果や自分の考えが伝わるような工夫を心がける。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<国語演習 週1時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	1. 文章読解 2. 言語表現活動(意見文・小論文など)	・様々な時代・分野の作品を読解し、語彙力と読解力を身に付ける。 ・筆者の生き方や心情・考え方を理解し、ものの考え方、感じ方を豊かにする。 ・文章の種類や特徴、構成について理解する。 ・文章の構成の仕方を学ぶ。 ・文章に応じた文体や言葉遣いを学ぶ。 ・自分の意見を論理的に伝える方法を習得する。	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学ぶ力・人間性等 【評価方法】 1. 定期考査 課題などの提出物 2. 定期考査 課題等の提出物、発表 3. 授業に取り組む姿勢 課題等の提出物、発表
2 学 期	1. 文章読解 2. 言語表現活動(小論文など)	・様々な時代・分野の作品を読解し、語彙力と読解力を身に付ける。 ・筆者の生き方や心情・考え方を理解し、ものの考え方、感じ方を豊かにする。 ・文章の種類や特徴、構成について理解する。 ・様々なタイプの小論文作成に取り組み、社会問題への関心や理解を深める。	

		・本格的な小論文を作成する中で、論理的思考力を養う。	
3 学 期	1. 文章読解 2. 古典の学習	・様々な時代・分野の作品を読解し、語彙力と読解力を身に付ける。 ・筆者の生き方や心情・考え方を理解し、ものの考え方、感じ方を豊かにする。 ・文章の種類や特徴、構成について理解する。 ・古文や漢文の文章を取り上げて精読することで、これまで学習してきた文法事項や単語などの知識を定着させる。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	

第2・3学年	教科書	『古典探究』
古典探究 (4単位)	副教材	国語便覧、古典文法テキスト、古文単語集

学習到達目標

1. 古典に用いられている語句や文法事項、句法等、古典を読解するために必要な知識や技能を身に付け、様々な時代・分野の文章に触れ、伝統的な言語文化に対する理解を深める。
2. 古典を通して古人の生き方やものの考え方を読み取ることで、思考力や想像力を伸ばし、豊かな見識や感性を育む。
3. 様々な作品に触れることで言語文化の担い手としての自覚を深め、生涯にわたり古典に親しむ姿勢を養う。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	・読解に必要な語句や文法事項、句法などを身に付けている。 ・言葉の響きやリズム、修辞など表現の特色を理解している。 ・現代とのつながりの中で古典の言葉を理解できている。	・文章の構成や展開、表現の特色を捉えながら、的確に内容を読解している。 ・書き手の意図や心情を読み取り、文章を解釈することができる。 ・書き手の生き方や考え方を踏まえ、自分のものの考え方・感じ方を広げ深めている。	・古典作品に興味関心を持ちながら主体的に学習に取り組んでいる。 ・作品を多角的な視点から評価し、伝統的な言語文化の価値に対する自らの考えを持つことができている。

学習方法

授業では教員の説明や指示を注意深く聞き、必要に応じて辞書などを用いて調べて積極的に取り組む。ノートは板書や教員の説明等を丁寧に書くだけでなく、復習時に要点が理解できるような工夫を凝らす。授業時に出された課題は、丁寧に仕上げ、期限を守って提出することを心がける。その上、自分で調べた成果や自分の考えが伝わるような工夫を心がける。興味関心を抱いた分野については、自主的に作品を読み進めたり、関連箇所を調べたりすることで理解を深める。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<古典探究 週2時間・第2学年>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 古文「説話」 2. 古文「随筆」 3. 漢文「故事成語」 ◇文法	・構成や展開に即して作品の内容を的確に捉える。 ・説話の面白さを味わい、古人のものの見方、考え方を理解する。 ・作者や作品に関する知識を身に付けた上で、随筆の表現の特徴を理解する。 ・文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・故事成語の生まれた背景や本来の意味を理解する。 ・中国古典に由来する語句が現代生活に多く用いられていることを再認識し、日本文化と中国文化の関係を考える。 ・助動詞や句法を学習する。	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学ぶ力・人間性等 【評価方法】 1. 定期考査 小テスト 課題などの提出物 2. 定期考査 課題等の提出物、発表 3. 授業に取り組む姿勢 課題等の提出物、発表
2 学期	1. 古文「物語」 2. 漢文「史話」 ◇文法	・作品の内容を的確に捉えるとともに、和歌の修辞などを学んだ上で、豊かな表現を味わう。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・長文の漢文を読み慣れることで、文章の構成や展開を正しく理解する ・作品中の様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・文章を読む中で、助動詞・助詞・敬語表現・句法についての理解を深める。	
3 学期	1. 古文「日記」 2. 漢文「思想」 ◇文法	・作者や作品に関する知識を身に付けた上で、仮名の日記が生まれた背景を理解する。 ・文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 ・古代中国の思想家たちの、様々な考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方を豊かにする。 ・古代中国を代表する思想書を読むことで、日本文化との関係について考える。 ・文章を読む中で、助動詞・助詞・敬語表現・句法についての理解を一層深める。	

<古典探究 週2時間・第3学年>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
----	---------	--------------	-----------

1 学 期	1. 古文「作り物語」など 2. 漢文「史話」など	- 基本的な文法事項に加えて発展的な内容についても学習する。 - 中古や中世に書かれた長編作品の一つを一定期間取り上げ、古人の生き方や心情について深く掘り下げる。 - 基本的な漢文の句法に加えて発展的な内容についても学習する。 - 漢文の長編作品の一つを一定期間取り上げ、時代背景や古人の生き方や心情について深く掘り下げる。	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学ぶ力・人間性等 【評価方法】 1. 定期考査 小テスト 課題などの提出物 2. 定期考査 課題等の提出物、発表 3. 授業に取り組む姿勢 課題等の提出物、発表
2 学 期	1. 古文「歴史物語」「軍記物語」など 2. 漢文「小説」など	- 基本的な文法事項に加えて発展的な内容についても学習する。 - 中古や中世に書かれた長編作品の一つを一定期間取り上げ、古人の生き方や心情について深く掘り下げる。 - 漢文の長編作品の一つを一定期間取り上げ、時代背景や古人の生き方や心情について深く掘り下げる。	
3 学 期	古文「上代・近世の文学」	幅広い時代の文学に触れ、古人の生き方や心情・考え方を理解し、自分の意見や主張の形成に役立てる。	

第2・3学年	教科書	『論理国語』
論理国語 (4単位)	副教材	国語便覧、漢字検定2級対策問題集等

学習到達目標

1. 言葉の働きを理解して、学術的な基礎を学ぶために必要な語句の量を増やし、実践的な使用を通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
2. 論理的な文章や実用的な文章、設定された題材に関連する文章や資料の読解を通じて、自分の思いや考えを広げ、深める。また、自分の思いや考えを的確に伝えるように工夫して文章を書く。
3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみをもち、読み続けようとする態度を養う。

評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
評価 規 準	- 学術的な学習に取り組むために必要な語彙を習得している。 - 効果的な文章の構成や展開への理解を深めている。 - 情報と情報との関係、情報の階層的な整理方法、推論の仕方について、理解を深めている。	- 目的や意図に応じた題材を決め、適切な根拠に基づき、自分の立場や論点を明確にした文章を書くことができる。 - 構成や論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが、要旨を把握している。	- 言語や読書の価値に理解を深め、進んで読書に取り組むことができる。 - 難易度の高い課題でも、粘り強く取り組みを行い続けることができる。

学習方法

授業では、教員の説明や指示を注意深く聞き、必要に応じて辞書などを用いて調べ、積極的に取り組む。ノートは板書や教員の説明等を丁寧に書くだけでなく、復習時に要点が理解できるような工夫を凝らす。授業時に与えられた課題は、丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。その上、自分で調べた成果や自分の考えが伝わるような工夫を心がける。興味関心を抱いた分野については、自主的に作品を読み進めたり、関連個所を調べたりすることで理解を深める。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<論理国語 週2時間・第2学年>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 評論 2. 実用的な文章 ◇漢字	- 文章の展開に注意して内容を捉え、筆者の主張や文章の要旨をまとめる。 - 文章を読んで感じたことや考えたことをまとめるなどして、内容への理解・関心を深める。 - 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄を理解し、目的に応じた適切な文章を書く。 - 問題集を用いて、漢字検定2級合格を目指す。	【評価の観点】 - 知識及び技能 - 思考力、判断力、表現力等 - 学びに向かう力、人間性等 【評価方法】 1. 定期考査の成績 定期考査では、知識・理解や読む能力に偏ることなく、書く能力などを評価する問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 授業時などの学習過程で、評価の観点の3項目について評価する。 (2) 課題などの提出状況・小テストの成績などを評価する。
2 学期	1. 実用的な文章 2. 評論 ◇漢字	- 設定された題材について、多角的・多面的な視点から内容を捉え、関連する文章を参考にして、自分の考えを広げたり深めたりする。 - 文章の展開に注意して内容を捉え、筆者の主張や文章の要旨をまとめる。 - 新しい視点を獲得し、自分の考えの幅を広げる。 - 問題集を用いて、漢字検定2級合格を目指す。	
3 学期	1. 小論文 2. 評論 ◇漢字	- 文章の内容を捉え、筆者の主張や内容を捉え、要旨をまとめる。 - 筆者の主張を基に、多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深める。 - 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、理解を深める。 - 評論を読むために必要な語彙力を付け、次の進路に向けての土台を構築する。 - 問題集を用いて、漢字検定2級合格を目指す。	

<論理国語 週2時間・第3学年>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
----	---------	--------------	-----------

1 学 期	1. 評論 2. 小論文・実用的な文章 ◇語句	・構成や論理展開を的確に捉え、論点を明確にしながら、要旨を把握する。 ・表現方法や段落の展開を意識して、自分の主張が的確に伝わる文章を作成する。 ・学術的な学習に取り組むために必要な語句の定義を確認しながら、習得する。	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学ぶ力・人間性等
2 学 期	1. 評論 2. 志望理由書・実用的な文章 ◇語句	・関連の文章や資料に基づいて、筆者の立場や目的を考え、内容の解釈を深める。 ・情報を収集・整理し、根拠を明示することにより、説得力のある文章を作成する。 ・学術的な学習に取り組むために必要な語句を習得し、的確に使用する。	【評価方法】 1. 定期考査 小テスト 課題などの提出物 2. 定期考査 課題等の提出物、発表 3. 授業に取り組む姿勢 課題等の提出物、発表
3 学 期	1. 古典における評論 2. 実用的な文章	・俳論・歌論などを取り扱い、筆者の視点を整理し、主張を把握する。 ・文章構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかを吟味して、文章を整える。	

第3学年	教科書	『文学国語』
文学国語 (3単位)	副教材	国語便覧等

学習到達目標

1. 文学的文章を読解するために必要な知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深める。
2. 文学的文章の学習を通じて、深い共感力や豊かな想像力を育むとともに、他者との関わりの中で伝えある力を高め、自分の思いや考えを広げ、深める。
3. 言葉の価値に対して認識を深め、読書に親しみ自己を向上させる姿勢や、言葉を通じて他者や社会に関わる態度を養う。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	・情景や心情を表す語彙を豊かにするとともに、文体や表現技法への理解を深め、実践的に用いることができる。	・文章の構成や展開、修辞を踏まえて正確に解釈する力を養っている。また、時代背景や他の作品との関連を踏まえて、解釈を深めている。 ・題材に応じて情報を整理し、表現したいことを明確に伝えられる。 ・文章の構成や展開を工夫したり、文体の特徴や修辞を考慮したりして、読み手の関心を得ることができる。	・言語や読書の価値に理解を深め、進んで学習や読書に取り組むことができる。 ・文学的な文章を読むことを通じて、人間・社会・自然などに対するものの見方や感じ方、考え方を豊かにすることができる。

学習方法

授業では、教員の説明や指示を注意深く聞き、必要に応じて辞書などを用いて調べ、積極的に取り組む。ノートは板書や教員の説明等を丁寧に書くだけでなく、復習時に要点が理解できるような工夫を凝らす。授業時に与えられた課題は、丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。その上、自分で調べた成果や自分の考えが伝わるような工夫を心がける。興味関心を抱いた分野については、自主的に作品を読み進めたり、関連箇所を調べたりすることで理解を深める。

年間シラバス（1年間の学習予定表）

<文系：文学国語 週3時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 散文（小説・随筆等） 2. 韻文（詩・俳句） 3. 文学評論 4. 語句・表現 5. 言語表現活動	・文体の特徴や修辞などの表現技法について理解する。 ・構成や展開、描写の仕方などを的確に捉える。語り手の視点や場面設定の仕方などの評価を通して、内容を解釈する。 ・修辞などの表現技法や作者の特色を踏まえて、解釈する。 ・散文または韻文に関する文学評論を取り扱い、内容の解釈への理解を深める。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句や表現を扱い、語彙を豊かにするとともに、場面に応じて適切な選択ができる。 ・題材に応じて情報収集や整理を行い、表現したいことを明確にするとともに構成や展開、修辞を工夫する。	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学ぶ力・人間性等 【評価方法】 1. 定期考査 小テスト 課題などの提出物 2. 定期考査 課題等の提出物、発表 3. 授業に取り組む姿勢 課題等の提出物、発表
2 学期	1. 散文（小説・紀行文等） 2. 韻文（和歌・短歌） 3. 文学評論 4. 語句・表現 5. 言語表現活動	・文体の特徴や修辞などの表現技法について理解し、その効果を評価する。 ・構成や展開、描写の仕方などを的確に踏まえ、解釈の多様性を考察する。 ・修辞などの表現技法や作者の特色を踏まえて、解釈する。 ・散文または韻文に関する文学評論を取り扱い、内容の解釈の多様性を考察する。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句や表現を扱い、語彙を豊かにするとともに、場面に応じて適切な選択ができる。 ・文体の特徴や修辞の働きなどを考慮し、読み手を引き付ける工夫をする。	

3 学 期	1. 散文（小説） 2. 韻文（漢詩） 3. 文学評論	・他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果を客観的に考察する。 ・形式の特徴を理解し、展開や描写の仕方に留意して、心情や情景を解釈する。 ・文学の時代による変遷について、理解を深める。	
-------------	-----------------------------------	--	--

高等学校 地理歴史科 シラバス

3年間のねらい、学習目標

全員が1年生で歴史総合、2年生で地理総合、文系に進む人はそれらに加えて2年生で歴史特論、3年生で日本史探究と世界史特論を学ぶ。歴史は時間の流れに着目し時間を追って、地理は空間の広がりに着目し地点や地域、地形を追って、どのような原因や経緯・関係性の中に我々や我々と関係する他者が現状にあるのかを捉え、説明しようという学びである。時間や空間のなかで、自分や他者、それぞれを取り巻く政治・経済・社会・文化・自然とのかかわりなど特徴をつかみ、適切に描写できるようになることをめざす。

そのような説明や描写の仕方に、数学や理科のように客観的に正しい正解や、正解をみちびく方法があるという考え方と、適切な見方や考え方、それをみちびくための適切なアプローチが時と場合によって、あるいは人との関係性の中で変わらざるを得ないもしくは、変わるべきだとの考え方がせめぎあっている。地理や歴史の楽しいけれども難しい点は、その両方の考えがあるということを踏まえた上で、時間や空間に照らして、適切な方法を選択して人や社会について描けるようになることである。

歴史や地理について何かを述べる時、説明の根拠となる史料や資料を適切に扱えるかどうかは、特に重要なスキルになる。書かれていること、言われていることが読み取れるかどうかだけでなく、書かれた目的、使われ方、他の資料との関係、資料作成者の立場や意図、作成された社会状況などに照らして、批判的に読み、活用できるようになることは、あなたの説明の的確性を担保する上で、とても大切である。国語的な文章の読解とは手法や目的が異なるため、慣れることが必要である。

また、地理歴史科の学びは、公民科で学ぶ政治や経済などのように、刻々と変わる現代社会の諸課題を直接に把握し、解決をめざそうという学びではない。しかし、それらの学びを有意義にするためには、時間や空間に照らして、人や社会について因果・経緯・関係性・比較考察をして適切に説明できるようになることは、大切なことである。どのような因果や関係性・比較考察の中で問題を捉えるかによって、現代の課題が何であるか、望ましい解決方法が何かに関する考え方が変わるからである。

皆さんは家族・友だち・地域・国・世界など、さまざまな単位や広がりの中で世の中を支える大切な存在である。地理歴史科の学びの中で、世の中を適切に語り、共に課題を解決していくために、世の中について、自分と関わりを持つ人が納得できる説明をできるようになることが重要である。

先生や科目によっては、プレゼンテーションやグループワーク・レポートなどが重視されることもある。そのような場合、先生の話をしっかり聞くことも大切だが、友だちの話もしっかり聞き、理解や感覚を確かめることも大切である。自分の理解や考えを、筋道をはっきりさせて人に伝えることも大切である。人がどのような感覚を持って世の中をながめているか、どのような問題意識や感覚で生きているかを知ること、それが自分とどう違うか、その場合、その人の説明として認めるのか、それとも正しい捉え方があるかと説得するのかを見極めることも地理歴史を勉強して養われる重要な資質である。

第1学年	教科書	『明解歴史総合』（帝国書院）
歴史総合 （3単位）	副教材	『明解歴史総合図説シンフォニア 最新版』（帝国書院）など

学習到達目標

近現代におこった様々な出来事や、できあがった政治や経済の仕組み、社会や文化の特徴などについて、時系列や地域間の関係を追った推移や変化、現代の諸課題とのつながりなどに注目し、証拠となることから適切に活用して、理解・説明・分析・総合・他者への説得ができるようになる。授業を中心とする学びのなかで、歴史に関する課題を追究したり解決したりする活動を通して、世の中でおこる出来事や社会的な事象について、様々な角度から検討し、深く考察して、自分が幸せになるために、人の幸せに貢献できる資質や能力を育む。

- (1) ①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成につながるよう知識を獲得し、理解する。
- ②様々な史料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。

- (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) ①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について学んだことをふまえ、どうすればより良い社会を実現できるかを視野に、課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。
- ②近現代史に関連する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、身近な社会や自国の歴史を大切に、他国や他国の文化を尊重することについての自覚を深める。

評価の観点

	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	①近現代の歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、様々な現代的課題の形成に関連する近現代の歴史を理解できる。 ②様々な史資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	①近現代の歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。 ②歴史に見られる課題を把握して解決を視野に入れて構想し、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	①近現代の歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について、よりよい社会の実現を視野に、課題を学習者自身の関心にひきつけて追究・解決しようすることができる。 ②歴史に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、日本国民として、世界の一員として、自国や自文化を大切にするとともに、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めることができる。

学習方法

(1) 授業と予習復習を大切にしよう

- ① 授業に積極的に参加しよう。教員の話をよく聞き、教科書や資料集、板書に書かれていないことで自分が知らないことについて、積極的にメモをとる習慣をつけよう。
- ② 自分以外の生徒の発言もしっかり聞き、人の理解について敏感になるようにしよう。
- ③ 予習復習をこまめにしよう。苦手な人ほど予習も大切で、授業の前に何について勉強するのか、聞く用語が初めてでなくなると親しみがわき、授業を受けやすくなる。
- ④ 歴史が苦手な人ほど、歴史は単純な暗記科目であるという誤解をしている。得意な人ほど、一つの用語を聞いたときに、イメージ豊かにその用語の周辺の知識との関係や、用語の重要性について、授業や学習事項全体の中でなぜ重要かを自分の理解や、用語を提示した人、書かれている書物の理解に照らして説明できる。知っていることが重要なのではなく、理解して使いこなせることが大切である。

(2) 課題にしっかり取り組もう

問題集や調査・ワークシート・レポート・スピーチ・プレゼンテーション・ノート提出など様々な形の課題が課せられる。自身の問題意識や理解を人に分かるように示すことは、地理歴史科・公民科にとって大切な訓練であり、大学に進学し、世の中に出たときの武器にもなる。面倒くさがらずに一生懸命取り組もう。

(3) 授業と世の中の接点を意識してメディアの報道との関係を考えよう

世の中のできごとや、身の回りの不思議なことがらと授業で学ぶことがらは常に関係している。日常的にニュースや新聞に親しみ、授業で勉強したことと関連づけられるようになることが、得意になるための早道である。

(4) ふとした疑問を大切にしよう

なぜ先生はそんな説明をするのか、教科書や資料集にはなぜそのような説明がされているのか、街で見たあの光景はなんだったのか。あなたの理解が足りないのではなく、あなたの見聞きした説明がまずいこと、もっと適切な説明があることはままある。感じた疑問を放置せず、しつこく食い下がって調べてみると、大切な発見が待っているかもしれない。「なぜ」にこだわって調べるのは、様々な学問が大切にするもっとも基本的なアプローチである。

(5) 歴史に関する本を読めるようになろう

いわゆる新書といわれる分類の本を一冊通して読めるようになる。特に推薦入試で同志社大学をと考えている人には必須の技能である。ネットでの情報収集には一長一短がある。特に確実性に問題があるということは押さえておこう。

(6) ご家族や親戚・地域の方が歴史について話していることがあればよく聞こう

博物館や資料館を訪ねてみるのも良い経験である。学校で習う歴史の説明と同じかどうかを良く聞き比べてみよう。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週3時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 歴史の扉 ①歴史と私たち	ア. 身の回りの事象と世界の歴史がつながっていることを理解できる。 イ. 身の回りの事象と世界の歴史とのつながりについて考察し、自分の考えを表現できる。	【評価の観点】 ・近現代史についての知識・理解 ・歴史を理解・解釈するための技能 ・近現代史についての思考・判断・表現 ・歴史総合の学習に主体的に取り組み、歴史総合で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度 【評価方法】 〔各学期共通〕 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、歴史的な見方・考え方、歴史についての判断や表現、歴史に関する知識や理解・技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。 (2) 小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。
	②歴史の特質と資料	ウ. 絵画・史料・数値など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読みとるなどの正しい読み解き方について理解できる。	
	2. 近代化と私たち ①近代化への問い	ア. 近代化に関わる史資料を読み解く技能を身に付けている。 イ. 資料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を統合し、近代化を読み解く問いを表現している。 ウ. 中学校までの学習を踏まえて、見通しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組もうとしている。	
	②江戸時代の日本と結びつく世界 ・アジアの中の江戸幕府 ・成熟する江戸社会 ・清の繁栄と結びつくアジア ・アジア・アメリカに向かうヨーロッパ	ア. 18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について理解している。 イ. 「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容について考察し、自分の言葉で表現している。 ウ. 18世紀の交易と現代の貿易との違いについて考察し、その変化の要因を追究しようとしている。	
	③欧米諸国における近代化 ・イギリスの革命とアメリカの独立 ・フランス革命～ヨーロッパ近代の幕開け ・フランス革命の影響と国民意識の芽生え ・産業革命で変わる社会 ・イギリスの繁栄と国際分業	ア. 市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯を理解している。 イ. 市民革命および産業革命の経緯などから、諸改革の意義と現代社会との関わりを考察し、自分の言葉で表現している。 ウ. 市民革命や産業革命が現代社会に与えた課題について、解決策を追究しようとしている。	

	④近代化の進展と国民国家 ・1848年～近代ヨーロッパの転換点 ・イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化 ・アメリカの拡大と第2次産業革命 ・帝国主義と世界の一体化 ⑤アジア諸国の動揺と日本の開国 ・「西洋の衝撃」と西アジアの変化 ・南・東南アジアの植民地化 ・ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争 ・黒船の来航と日本の対応 ・新体制の模索と江戸幕府の滅亡 ⑥近代化が進む日本と東アジア ・新政府の誕生 ・近代国家を目指す日本 ・日本と清の近代化と日清戦争 ・列強の中国進出と日露戦争 ・日露戦争が与えた影響 ⑦近代化と現代的諸課題	ア. 国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況を理解している。 イ. 国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化について考察し、自分の言葉で表現している。 ウ. 国民国家や帝国主義政策が現代社会に与えた影響について、追究しようとしている。 ア. 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について理解している。 イ. アジア諸国の変容を比較したり関連付けたりして考察し、「西洋の衝撃」の歴史的意義について自分の言葉で表現している。 ウ. 欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が現代社会にどのような課題を生み出したかについて考察し、追究しようとしている。 ア. 明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について理解している。 イ. 明治維新の歴史的な意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察し、自分の言葉で表現している。 ウ. 明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会にどのような課題を与えたかについて考察し、解決策を追究しようとしている。 ウ. 近代化に関連する現代の課題について考察し、歴史的な経緯を踏まえたうえで自分なりの解決策を追究しようとしている。	(1)(2)を総合的に評価する。
2 学 期	2. 国際秩序の変化や大衆化と私たち ①国際秩序の変化や大衆化への問い ②第一次世界大戦と日本の対応 ・ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張 ・総力戦となった第一次	ア. 国際秩序の変化や大衆化に関わる史料を読み解く技能を身に付けている。 イ. 資料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を統合し、国際秩序の変化や大衆化を読み解く問いを表現している。 ウ. 中学校までの学習を踏まえて、見通しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組もうとしている。 ア. 国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について理解している。 イ. 第一次世界大戦の総力戦体制下におい	

世界大戦 ・ロシア革命と大戦の終結 ③国際協調と大衆社会の広がり ・ヴェルサイユ体制の成立 ・東アジアの民族自決の行方 ・中東・インドの民族自決の影響 ・ヨーロッパの復興と大衆の政治参加 ・大衆社会の出現とアメリカの繁栄 ・日本における大衆社会の形成 ④日本の行方と第二次世界大戦 ・世界恐慌が与えた影響 ・ファシズムの台頭と拡大 ・政党政治の断絶と満州事変 ・日中戦争の始まり ・第二次世界大戦の展開 ・戦局の悪化と被害の拡大 ・第二次世界大戦の終結とその惨禍 ⑤再出発する世界と日本 ・戦後の新たな国際秩序 ・冷戦の始まり ・日本撤退後の東アジア ・日本の改革と独立の回復 ⑥国際秩序の変化・大衆化と諸課題	て、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地域の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかを考察し、自分の言葉で表現している。 ウ. 勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現在の社会につながるどのような課題を生み出したのかについて考察し、解決策について追究しようとしている。 ア. ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化を理解している。 イ. 新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、自分の言葉で表現している。 ウ. ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と、20世紀前半における大衆社会の到来が、現代社会においてどのような課題を生み出したのかを考察し、その解決策について追究しようとしている。 ア. 世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら理解している。 イ. ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、ドイツや日本で大衆がなぜ戦争に協力していったのかを考察し、自分の言葉で表現している。 ウ. 大衆の戦争への加担という問題を現代社会における課題としてとらえ、その解決策を追究しようとしている。 ア. 冷戦および冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら理解している。 イ. 国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際関係を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかを考察し、自分の言葉で表現している。 ウ. 大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制における課題が、現代社会にどのような影響を与えているかについて考察し、解決策を追究しようとしている。 ア. 国際秩序の変化や大衆化に関連する現代の課題について考察し、歴史的な経	
--	--	--

		緯を踏まえたうえで自分なりの解決策を追究しようとしている。	
3 学 期	3. グローバル化と私たち ① グローバル化への問い ② 冷戦で揺れる世界と日本 ・アメリカ・ソ連の緊張と緩和 ・冷戦下における日本の復興 ・第三勢力の形成と脱植民地化 ・中東戦争とパレスチナ問題 ③ 多極化する世界 ・揺らぐアメリカと先進各国の変化 ・「経済大国」日本の模索 ・経済発展に取り組むアジア・南米諸国 ・イスラーム復興と冷戦への影響 ④ グローバル化のなかの世界と日本 ・冷戦の終結と変わる世界構造 ・冷戦の終結が与えた世界への影響 ・超大国アメリカと中東情勢 ・国際環境の変化と日本 ・グローバル化による国際社会の変容 ⑤ 現代的な諸課題の形成と展望	ア. グローバル化に関わる史資料を読み解く技能を身に付けている。 イ. 資料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を総合し、グローバル化を読み解く問いを表現している。 ウ. 中学校までの学習を踏まえて、見通しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組もうとしている。 ア. 55 年体制の形成から高度経済成長に至る日本の動きを、冷戦下の国際情勢を踏まえながらその中に位置づけて理解している。 イ. 冷戦下の日本と世界の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、自分の言葉で表現している。 ウ. 冷戦期における各国の動向、現在の社会においてどのような課題を生み出したのか考察し、解決策について追究しようとしている。 ア. 1960 年代から 80 年代を中心に、冷戦下における各国の選択と経済成長について理解している。 イ. 各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し、自分の言葉で表現している。 ウ. 冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会にどのような課題を生み出したのかを考察し、解決策について追究しようとしている。 ア. 冷戦終結の過程とグローバル化の特質について理解している。 イ. グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点を自分の言葉で表現している。 ウ. 冷戦の終結とグローバル化の進展がどのような課題を生み出したのかについて考察し、解決策について追究しようとしている。 ウ. 自ら設定した問いに対し、学習して身に付けた知識や教科書、その他の史資料を活用して、課題の解決のために、主体的・計画的に探究学習に取り組もうとしている。	

第2学年	教科書	『高等学校 新地理総合』（帝国書院）
地理総合 （2単位）	副教材	『新詳地理資料 COMPLETE』（帝国書院） 『高等学校 新地理総合ノート』

学習到達目標

社会にみられる様々なことがらの中から、地理に関わることがらの意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布・場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、地理的な概念などを活用して考察したり、地理的な課題を解決したりする活動を通して、世の中でおこる出来事や社会的事象について、様々な角度から検討し、深く考察して、自分が幸せになるために、人の幸せに貢献できる資質・能力を育む。

- (1) ①地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性、防災、地域や地球的課題への取組などに関する知識・理解を獲得する。
②地図や地理情報システム(GIS)などを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- (2) ①地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目し、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。
②地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) ①地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究し解決しようとする態度を養う。
②地理に関連する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、身近な社会や自国の文化を大切にし、他国や他国の文化を尊重することについての自覚を深める。

評価の観点

	ア.知識・技能	イ.思考・判断・表現	ウ.主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	①地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などに関する知識・理解を獲得できる。 ②地図や地理情報システム(GIS)などを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	①地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布・場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できる。 ②地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	①地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究・解決しようとする態度を身につけられている。 ②地理に関連する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、身近な社会や自国の文化を大切に、他国や他国の文化を尊重することができる。

学習方法

(1) 授業と予習復習を大切にしよう

- ① 授業に積極的に参加しよう。教員の話をよく聞き、メモをとる習慣をつけよう。
- ② 自分以外の生徒の発言もしっかり聞き、人の理解について敏感になるようにしよう。
- ③ 予習復習をこまめにしよう。苦手な人ほど予習も大切である。
- ④ 地理が苦手な人ほど、地理は単純な暗記科目であるという誤解をしている。得意な人ほど、一つの用語を聞いたときに、イメージ豊かにその用語の周辺の知識との関係や、用語の重要について、授業や学習事項全体の中でなぜ重要かを自分の理解や、用語を提示した人、書かれている書物の理解に照らして説明できる。知っていることが重要なのではなく、理解して使いこなせることが大切である。

(2) 課題にしっかり取り組もう

問題集やしらべもの・調査・ワークシート・レポート・スピーチ・プレゼンテーション・ノート提出など様々な形の課題が課せられる。自身の問題意識や理解を人に分かるように示すことは、地理歴史科。公民科にとって大切な訓練である。

(3) 視覚的な気づきを大切にしよう

日常通る場所のちょっとした変化や、旅行したときに見たこと・感じたことを大切にすることは、空間把握の第一歩である。

(4) ふとした疑問を大切にしよう

なぜ先生はそんな説明をするのか、教科書や資料集にはなぜそのような説明がされているのか、街で見たあの光景はなんだったのか。あなたの理解が足りないのではなく、あなたの見聞きした説明がまずいこと、もっと適切な説明があることはまある。感じた疑問を放置せず、しつこく食い下がって調べてみると、大切な発見が待っているかもしれない。「なぜ」にこだわって調べるのは、様々な学問が大切にすることも基本的なアプローチである。

(5) 地図帳や統計、Google Earth や Google Map などの地理情報システム (GIS) を活用しよう

地図や統計情報・GIS に親しみ使っていると、自然に知識が増えて、地理が得意になる。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週2時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 地図でとらえる現代世界 ①地図と地理情報システム ・地球上の位置と時差 ・地図の役割と種類	ア. 日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。 イ. 現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。 エ. 地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途・内容・適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ウ. 地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究・解決しようとしている。	【評価の観点】〔各学期共通〕 ・地理についての知識・理解 ・地理を理解するために地図・統計・GIS 等を用いる技能 ・地理についての思考・判断・表現 ・地理総合の学習に主体的に取り組み、地理総合で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度 【評価方法】〔各学期共通〕 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、地理的な見方、考え方、地理についての判断や表現、地理に関する知識や理解、技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。
	②結び付きを深める現代世界 ・現代世界の国家と領域 ・グローバル化する世界	ア. 現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きについて理解している。 イ. 現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現している。 ウ. 現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究・解決しようとしている。	2. 学習態度等の平常点 (1)個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学

	2. 国際理解と国際協力 ①生活文化の多様性と国際理解 ・生活文化の多様性 ・世界の地形と人々の生活 ・世界の気候と人々の生活 (追究事例 自然) オセアニア 東南アジア など ・世界の言語・宗教と人々の生活 (追究事例 宗教) 中央アジア 西アジア 北アフリカ インド など	ア. 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 ア. 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 イ. 世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ウ. 生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究・解決しようとしている。	習過程で、評価の観点の各項目について評価する。 (2)小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。 (1)(2)を総合的に評価する。
2 学 期	・歴史的背景と人々の生活 (追究事例 歴史) ラテンアメリカ サハラ以南アフリカ ロシア など ・世界の産業と人々の生活 (追究事例 産業) アメリカ合衆国 東アジア ヨーロッパ など ②地球的課題と国際協力 ・複雑に絡み合う地球的課題 ・地球環境問題 ・資源・エネルギー問題 ・人口問題 ・食料問題 ・都市・居住問題	ア. 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。 ア. 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解している。	

		イ. 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ウ. 地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	
3 学 期	3. 持続可能な地域づくりと私たち ①自然環境と防災 ・日本の自然環境 ・地震・津波と防災 ・火山災害と防災 ・気象災害と防災 ・自然災害への備え ②生活圏の調査と地域の展望 ・生活圏の調査と地域の展望	ア. 我が国をはじめ世界でみられる自然災害や生徒の生活圏でみられる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。 ア. さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付けている。 イ. 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ウ. 自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ア. 生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。 イ. 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ウ. 生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。	

第2学年 ＜文系＞ 歴史特論 (1単位)	教科書	『明解歴史総合』（帝国書院）
	副教材	『明解歴史総合図説シンフォニア 最新版』（帝国書院）など

学習到達目標

様々な過去の出来事や、政治や経済の仕組み、社会や文化の特徴などについて、時系列や地域間の関係を追った推移や変化、現代の諸課題とのつながりなどに注目し、証拠となることがらを適切に活用して、理解・説明・分析・総合・他者への説得ができるようになる。歴史に関する課題を追究したり解決したりする活動を通して、現代の社会的事象について、様々な角度から検討し、深く考察して、自分が幸せになるために、人の幸せに貢献できるよう資質・能力を育む。

- (1) ①歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成につながるよう知識を獲得し、理解する。
②様々な史資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。
- (2) 歴史の変化に関わる事象の意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察・構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) ①歴史の変化に関わる諸事象について学んだことをふまえ、どうすればより良い社会の実現ができるかを視野に課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。
②歴史に関連する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、身近な社会や自国の歴史を大切にし、他国や他国の文化を尊重することについての自覚を深める。

評価の観点

	ア.知識・技能	イ.思考・判断・表現	ウ.主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	①歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、様々な現代的課題の形成と関連させ歴史を理解できる。 ②様々な史・資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	①歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。 ②歴史に見られる課題を把握して解決を視野に入れて考察・構想し、自身の考えを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	①歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について、よりよい社会の実現を視野に、課題を学習者自身の関心にひきつけて追究・解決しようすることができる。 ②歴史に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、日本国民として、世界の一員として、自国や自文化を大切にし、他国や他国の文化を尊重する姿勢を備えている。

学習方法

※歴史総合と同じ

年間シラバス（1年間の学習予定表） ＜週1時間＞

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
----	---------	--------------	-----------

1 学 期	1. 学習指導要領に定める「日本史探究」の内容 A 原始・古代の日本と東アジア B 中世の日本と世界 C 近世の日本と世界 D 近現代の地域・日本と世界 E 現代の日本の課題の探究 (歴史資料と各時代の展望、各時代に関する歴史の解釈・説明・論述を含む)	ア. 授業で扱う時代や地域の歴史について、基本的な知識を身につけ、代表的な理解のあり方を再現することができる。 ア. 絵画・史料・数値など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読み取るなどの正しい読み解き方について理解できる。 ア. 史資料を適切に読み解く技能を身に付けている。 イ. 授業で扱う時代や地域の歴史について探究課題を設定し、その時代や地域の社会の特徴について、前後の時代や関連する地域との関係性や現代の社会との対比を考察し、その結果を自分の言葉で説明・表現できる。	【評価の観点】 ・歴史についての知識・理解 ・歴史を理解・解釈するための技能 ・歴史についての思考・判断・表現 ・歴史特論の学習に主体的に取り組み、歴史特論で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度
2 学 期	2. 学習指導要領に定める「世界史探究」の内容 A 世界史へのまなざし B 諸地域の歴史的特質の形成 C 諸地域の交流・再編 D 諸地域の結合・変容 E 地球世界の課題	ウ. 授業で扱う時代や地域の歴史について学んだことがらを、現代の日本や世界の課題、現代人を取り巻く課題の解決と関連づけて活用することができる。	【評価方法】〔各学期共通〕 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、歴史的な見方・考え方、歴史についての判断や表現、歴史に関する知識・理解・技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。
3 学 期	※上記1. 2. の内容・項目から適宜選択する。 その際、第1学年で履修した「歴史総合」の学習内容・事項とその定着度を考慮する。		2. 学習態度等の平常点 (1) 個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。 (2) 小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。 (1)(2)を総合的に評価する。

第3学年 ＜文系＞ 日本史特論 (2単位)	教科書	(未定)
	副教材	(未定)

学習到達目標

様々な過去の出来事や、政治や経済の仕組み、社会や文化の特徴などについて、時系列や地域間の関係を追った推移や変化、現代の諸課題とのつながりなどに注目し、証拠となることがらを適切に活用して、

理解・説明・分析・総合・他者への説得ができるようになる。歴史に関する課題を追究したり解決したりする活動を通して、現代の社会的事象について、様々な角度から検討し、深く考察して、自分が幸せになるために、人の幸せに貢献できるよう資質・能力を育む。

- (1) ①歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成につながるよう知識を獲得し、理解する。
②様々な史資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。
- (2) 歴史の変化に関わる事象の意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察・構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) ①歴史の変化に関わる諸事象について学んだことをふまえ、どうすればより良い社会の実現ができるかを視野に課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。
②歴史に関連する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、身近な社会や自国の歴史を大切にし、他国や他国の文化を尊重することについての自覚を深める。

評価の観点

	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	①歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、様々な現代的課題の形成と関連させ歴史を理解できる。 ②様々な史資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	①歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。 ②歴史に見られる課題を把握して解決を視野に入れて考察・構想し、自身の考えを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	①歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について、よりよい社会の実現を視野に、課題を学習者自身の関心にひきつけて追究・解決しようすることができる。 ②歴史に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、日本国民として、世界の一員として、自国や自文化を大切にし、他国や他国の文化を尊重する姿勢を備えている。

学習方法

※歴史総合と同じ

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週2時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	1. 学習指導要領に定める「日本史探究」の内容 A 原始・古代の日本と東アジア (1) 黎明期の日本列島と歴史的環境 (2) 歴史資料と原始・古代の展望 (3) 古代の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈・説明・論述）	ア. 授業で扱う時代や地域の歴史について、基本的な知識を身につけ、代表的な理解のあり方を再現することができる。 ア. 絵画・史料・数値など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読みとるなどの正しい読み解き方について理解できる。 ア. 史資料を適切に読み解く技能を身に付けている。 イ. 授業で扱う時代や地域の歴史について	【評価の観点】 ・日本史についての知識・理解 ・日本史を理解・解釈するための技能 ・日本史についての思考・判断・表現 ・日本史特論の学習に主体的に取り組み、日本史特論で学んだことがらを主体的に活用しよう

2 学 期	B 中世の日本と世界 (1) 中世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と中世の展望 (3) 中世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈・説明・論述）	て探求課題を設定し、その時代や地域の社会の特徴について、前後の時代や関連する地域との関係性や現代の社会との対比を考察し、その結果を自分の言葉で説明・表現できる。 ウ．授業で扱う時代や地域の歴史について学んだことがらを、現代の日本や世界の課題、現代人を取り巻く課題の解決と関連づけて活用することができる。	とする態度 【評価方法】〔各学期共通〕 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、歴史的な見方・考え方、歴史についての判断や表現、歴史に関する知識や理解・技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。 (2) 小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。 (1)(2)を総合的に評価する。
	C 近世の日本と世界 (1) 近世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近世の展望 (3) 近世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈・説明・論述） D 近現代の地域・日本と世界 (1) 近代への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近代の展望 (3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造 (4) 現代の日本の課題の探究 ※上記 1. の内容・項目から適宜選択する。その際、第 1 学年で履修した「歴史総合」の学習内容・事項とその定着度を考慮し、第 2 学年で履修した「歴史特論」の学習内容と重複しないよう配慮する。		

第 3 学年 ＜文系＞ 世界史特論 (2 単位)	教科書	(未定)
	副教材	(未定)

学習到達目標

世界における様々な過去の出来事や、政治や経済の仕組み、社会や文化の特徴などについて、時系列や地域間の関係をおった推移や変化、現代の諸課題とのつながりなどに注目し、証拠となることから適切に活用して、理解・説明・分析・総合・他者への説得ができるようになる。歴史に関する課題を追究したり解決したりする活動を通して、現代の社会的事象について、様々な角度から検討し、深く考察して、自分が幸せになるために、人の幸せに貢献できるよう資質・能力を育む。

- (1) ①歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成につながるよう知識を獲得し、理解する。
- ②様々な史資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。
- (2) 歴史の変化に関わる事象の意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在と

のつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察・構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) ①歴史の変化に関わる諸事象について学んだことをふまえ、どうすればより良い社会の実現ができるかを視野に課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。

②歴史に関連する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、身近な社会や自国の歴史を大切にし、他国や他国の文化を尊重することについての自覚を深める。

評価の観点

	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	①歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、様々な現代的課題の形成と関連させ歴史を理解できる。 ②様々な史資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	①歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。 ②歴史に見られる課題を把握して解決を視野に入れて考察・構想し、自身の考えを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	①歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について、よりよい社会の実現を視野に、課題を学習者自身の関心にひきつけて追究・解決しようすることができる。 ②歴史に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、日本国民として、世界の一員として、自国や自文化を大切にし、他国や他国の文化を尊重する姿勢を備えている。

学習方法

※歴史総合と同じ

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週2時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1学期	1. 学習指導要領に定める「世界史探究」の内容 A 世界史へのまなざし (1) 地球環境から見る人類の歴史 (2) 日常生活から見る世界の歴史 B 諸地域の歴史的特質の形成 (1) 諸地域の歴史的特質への問い (2) 古代文明の歴史的特質 (3) 諸地域の歴史的特質	ア. 授業で扱う時代や地域の歴史について、基本的な知識を身につけ、代表的な理解のあり方を再現することができる。 ア. 絵画・史料・数値など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読みとるなどの正しい読み解き方について理解できる。 ア. 史資料を適切に読み解く技能を身に付けている。 イ. 授業で扱う時代や地域の歴史について探求課題を設定し、その時代や地域の社会の特徴について、前後の時代や関連する地域との関係性や現代の社会との対比を考察し、その結果を自分の言葉で説明・表現できる。	【評価の観点】 - 世界史についての知識・理解 - 世界史を理解・解釈するための技能 - 世界史についての思考・判断・表現 - 世界史特論の学習に主体的に取り組み、世界史特論で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度 【評価方法】〔各学期共通〕 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、歴史的な見方・考え方、歴史についての判断や表現、
2学期	C 諸地域の交流・再編 (1) 諸地域の交流・再編への問い	ウ. 授業で扱う時代や地域の歴史について学んだことがらを、現代の日本や世界の課題、現代人を取り巻く課題の解	

	(2) 結び付くユーラシアと諸地域 (3) アジア諸地域とヨーロッパの再編 D 諸地域の結合・変容 (1) 諸地域の結合・変容への問い (2) 世界市場の形成と諸地域の結合 (3) 帝国主義とナショナリズムの高揚 (4) 第二次世界大戦と諸地域の変容	決と関連づけて活用することができる。	歴史に関する知識や理解・技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。 (2) 小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。 (1)(2)を総合的に評価する。
3 学期	E 地球世界の課題 (1) 国際機構の形成と平和への模索 (2) 経済のグローバル化と格差の是正 (3) 科学技術の高度化と知識基盤社会 (4) 地球世界の課題の探究 ※上記 1. の内容・項目から適宜選択する。その際、第 1 学年で履修した「歴史総合」の学習内容・事項とその定着度を考慮し、第 2 学年で履修した「歴史特論」の学習内容と重複しないよう配慮する。		

高等学校 公民科 シラバス

2年間のねらい、学習目標

英国には「シチズンシップ」という授業科目がある。それは一人前の大人として社会で権利（選挙権などを含む）を行使し、社会を支えて活躍するための準備教育と位置づけられている。公共をはじめとする公民科の各科目の目的は、まさにそこにある。

全員が2年生で公共、3年生で政治経済、文系に進む人はそれらに加えて3年生で国際関係論を学ぶ。公民は現代社会に関わる様々な問題について、政治、経済、文化、倫理、国際関係などの視点から、自分や他者、両者の関係をつかみ、適切に説明できるようになることをめざす。

現代社会をとらえる方法については、政治学や経済学、社会学、倫理学、心理学、国際法、国際政治学、国際経済学などの学問的なアプローチの基礎を学ぶが、それらの学問的なアプローチだけでは十分に現代社会の諸問題をとらえきれず、解決を目指す上で不十分なこともしばしばである。それだけに、学問的なアプローチを踏まえつつも、その限界を認識しつつ、適切な方法を選択して人や社会について描けるようになることが大切である。

社会について何かを述べる時、説明の根拠となる資料を適切に扱えるかどうかは、特に重要なスキルとなる。国語的なテキストの読解や、数学的な統計読解と、公民的なテキスト読解はスキルが異なる。書かれていること、言われていることが読み取れるかどうかだけでなく、書かれた目的、使われ方、他の資料との関係、資料作成者の立場や意図、作成された社会状況などに照らして、批判的に読み、活用できるようになることは、あなたの説明の的確性を担保する上で、とても大切だといえよう。いわばテキスト周辺情報、統計周辺情報を同時に分析的に読む力が求められるのである。

また、みなさんはまもなく18歳を迎える。最近、成人年齢が引き下げられ、早ければみなさんは高校3年生で、選挙や裁判員制度などの担い手となる。社会で自分の意志を表明し、自身の判断と行動によってさまざまな社会的活動に関わっていくことになるだろう。不安やわずらわしさを感じる人もいるかもしれないが、どのような場面で社会と積極的に関わろうとし、関わろうとしないかが、そもそも重要な分かれ目となる。この成人年齢が18歳になったという世の中の変化に合わせて、高校生として学ぶべきことがたくさんあるなかで、本校ではあえて文系・理系にかかわらず、3年生で政治経済を必修にしている。公共と必要な知識や理解が重なる部分も多いにもかかわらず、あえて全員が勉強することにしてるのは、社会的な課題について、より深く実践的な思考や判断をする機会をなるべく多く確保したいと考えたからである。

大人になったら選挙で誰に投票するか迷わず、政治的に間違いのない行動がとれるというものではない。日々行っている日常の買い物がSDGsに照らして正しいと確信して行動しているわけでもない。しかし、意識して、あるいは無意識での判断や行動の積み重ねが、少しずつ私たちを取り巻く様々な社会を維持し、変えていく原動力となるのである。だから、刻々と変わる現代社会の諸課題を的確に把握し、解決をめざそうとする学びは重要である。人や社会について因果、経緯、関係性等を比較考察して適切に説明できるようになることは大切で、どのような因果や関係性、比較考察の中で問題を捉えるか、現代の課題が何であるか、望ましい解決方法が何かに関する考察を、トライ・アンド・エラーを繰り返しつつできるようになってほしい。

先生や科目によっては、プレゼンテーションやグループワーク、レポートなどが重視されることもあるだろう。そのような場合、先生の話をしっかり聞くことも大切だが、友だちの話もしっかり聞き、理解や感覚を確かめることも大切である。自分の理解や考えを、筋道をはっきりさせて、人に伝えることも大切である。人がどのような感覚を持って世の中をながめているか、どのような問題意識や感覚で生きているかを知ること、それが自分とどう違うか、その場合、その人の説明として認めるのか、それとも正しい捉え方があると説得するのかを見極めることも公民を勉強して養われる重要な資質だといえよう。

第2学年 公共 (2単位)	教科書	『高等学校 公共』(帝国書院)
	副教材	『クローズアップ公共』(第一学習社) 『高等学校 公共ノート』(帝国書院)

学習到達目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動

を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。

- (1) ①現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。
②諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。
- (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を身につける。
- (3) ①どうすればより良い社会の実現ができるかを視野に、現代の諸課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身につける。
②現代社会の諸問題に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、日本と各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。

評価の観点

	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	①政治・社会・文化など現代社会に関わる様々な問題や課題について、代表的な概念や理論を踏まえて理解できる。 ②様々な資料を活用し、どうすることが自分にとって、社会にとって望ましいかをふまえて活動するために、必要となる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につけている。	①現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を身につけている。	①より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身につけている。 ②諸問題に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担い、主権の相互尊重や、国際協力の大切さについての自覚を深められる。

学習方法

- (1) 授業と予習復習を大切にしよう
 - ① 授業に積極的に参加しよう。教員の話をよく聞き、教科書や資料集、板書に書かれていないことで自分が知らないことについて、積極的にメモをとる習慣をつけよう。
 - ② 自分以外の生徒の発言もしっかり聞き、人の理解について敏感になるようにしよう。
 - ③ 予習復習をこまめにしよう。苦手な人ほど予習も大切で、授業の前に何について勉強するのか、聞く用語が初めてでなくなると親しみがわき、授業を受けやすくなる。
 - ④ 苦手な人ほど、公民は単純な暗記科目であるという誤解をしている。得意な人ほど、一つの用語を聞いたときに、イメージ豊かにその用語の周辺の知識との関係や、用語の重要性について、授業や学習事項全体の中でなぜ重要かを自分の理解や、用語を提示した人、書かれている書物の理解に照らして説明できる。知っていることが重要なのではなく、理解して使いこなせることが大切である。
- (2) 課題にしっかり取り組みましょう。

問題集や調べもの・調査・ワークシート・レポート・スピーチ・プレゼンテーション・ノート提出など様々な形の課題が課せられる。自身の問題意識や理解を人に分かるように示すことは、地理歴史科・公民科にとって大切な訓練であり、大学に進学し、世の中に出たときの武器にもなる。面倒くさがらずに、一所懸命取り組もう。
- (3) 授業と世の中の接点を意識してメディアの報道との関係を考えよう

世の中のできごとや、身の回りの不思議なことがらと授業で学ぶことがらは常に関係している。日常的にニュースや新聞に親しみ、授業で勉強したことと関連づけられるようになることが、得意になるための早道である。
- (4) ふとした疑問を大切にしよう

なぜ先生はそんな説明をするのか、教科書や資料集にはなぜそのような説明がされているのか。街で見たあの光景はなんだったのか。あなたの理解が足りないのではなく、あなたの見聞きした説明がまずいこ

と、もっと適切な説明があることはまあある。感じた疑問を放置せず、しつこく食い下がって調べてみると、大切な発見が待っているかもしれない。「なぜ」にこだわって調べるのは、様々な学問が大切にするものとも基本的なアプローチである。

(5) 家庭や地域で、政治や経済・国際関係について誰かが話していたら、その話を良く聞いてみよう。学校で習って疑問に思ったことを、お家の方に尋ねるのも、公民では大切な勉強になる。

(6) 政治や経済、国際関係などに関する本を読めるようになるろう。

いわゆる新書といわれる分類の本を一冊通して読めるようになるろう。特に推薦入試で同志社大学をと考えている人には必須の技能である。ネットでの情報収集には一長一短がある。特に確実性に問題があるということは押さえておこう。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週2時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 私たちがつくる社会 ①社会の中の私たち ・青年期と社会参画 ・宗教・思想・伝統文化と社会 ②思想から学ぶべきもの ・倫理的な見方・考え方	ア. 体験の振り返りを通し、自らを成長させるあり方・生き方について理解できる。 ア. 自主的によりよい公共的な空間を作り出す自立した主体になることが、自らのキャリア形成とよりよい社会の形成に結び付くことについて理解できる。 イ. 社会に参画する自立した主体とは、様々な集団の一員として、他者との協働により国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現できる。 ア. 人間は、個人として相互に尊重される存在であるとともに、対話を通して様々な立場を理解し合える存在であること、伝統や文化、先人の知恵に触れたりすることなどを通し自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重できるようになる存在であることを理解できる。 ア. 現代の諸課題について、自らも他者も納得できる解決方法を見い出すことに向け、個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、公正などの考え方を活用して、自身の人間としてのあり方生き方についての探求が、よりよく生きていく上で重要であることについて理解する。 ア. 選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解できる。 ア. 諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 イ. 倫理的価値の判断において、行為の結	【評価の観点】〔各学期共通〕 ・現代社会の諸問題についての知識・理解 ・現代社会の諸問題を適切に理解するために諸資料を用いる技能 ・現代社会の諸問題についての適切な思考・判断・表現 ・公共の学習に主体的に取り組む、公共で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度 【評価方法】〔各学期共通〕 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、現代社会の諸問題についての見方、考え方、判断や表現、学習事項に含まれる知識や理解、技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。 (2) 小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振

	③私たちの社会の基本原則 ・社会の基本原則と憲法の考え方	果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見い出すことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としてのあり方生き方を多面的・多角的に考察し、表現できる。 ウ. 公共的な空間における課題解決を視野に、主体的に社会に関わろうとできる。 ア. 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解できる。 ア. 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について憲法を踏まえて理解できる。 イ. 公共的な空間における基本的原理について、思考実験などで概念的な枠組みを活用し、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現できる。 ウ. 公共的な空間における基本的原理について、憲法を踏まえて現代社会の諸課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとできる。	り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。 (1)(2)を総合的に評価する。
2 学 期	2. 社会のしくみと諸課題 ①私たちと法 ・法の意義と司法参加	ア. 憲法の下、適正な手続き、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解できる。 ア. 社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した法的主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 イ. 自立した法的主体として解決が求められる主題について、合意形成や社会参画を視野に入れ、解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できる。 ウ. 法の意義と役割、多様な契約、消費者	

	3. 持続可能な社会の実現に向けて	必要な情報を適切に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 イ. 自立した経済主体として解決が求められる主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを適切に表現できる。 ウ. 経済のグローバル化と相互依存関係の深まりに関わる課題解決を視野に、主体的に社会に関わろうとできる。 ア. 地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和な国際社会の形成へ参画し、共に生きる社会という観点から課題を見い出せる。 イ. 課題解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標に、論拠を基に考えを説明、論述できる。 ウ. 幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動に積極的に取り組み、持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体として、現代社会に見られる課題解決を視野に主体的に社会に関わろうとできる。	
--	-------------------	---	--

第3学年	教科書	(未定)
政治・経済 (2単位)	副教材	(未定)

学習到達目標

社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。

(3) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

評価の観点

	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学ぶ力・人間性等
--	----------	-------------	-----------------

評価規準	①現実社会の諸課題の解決に向けて探究するため、手がかりとなる政治、法、経済などに関する概念や理論などについて理解できる。 ②諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につける。	①幸福・正義・公正などの考え方や政治・法・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明することができる。 ②身につけた判断基準を根拠に構想し、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し、表現することができる。	①よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を自らに引きつけ解決しようとする態度を身につける。 ②現実社会の諸問題に関し、政治・法・経済についての多面的・多角的な考察や深い理解を通し、国民主権を担い、国際社会に貢献することの大切さについての自覚を深める。
------	---	---	---

学習方法

※「公共」を参照のこと。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週2時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 現代日本における政治・経済の諸課題 ①現代日本の政治 - 政治と法の意義と機能 - 基本的人権の保障と法の支配 - 権利と義務との関係 - 議会制民主主義 - 地方自治 ②現代日本の経済 - 経済活動と市場 - 経済主体と経済循環 - 国民経済の大きさと経済成長 - 物価と景気変動 - 財政の働きと仕組み - 租税の意義 - 金融の働きと仕組み ③現代日本における政治・経済の諸課題の探究 - 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化 - 地域社会の自立と政府 - 多様な働き方・生き方を可能にする社会 - 産業構造の変化と起業 - 歳入・歳出両面での財政健全化 - 食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造	ア. 政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解できる。 ア. 経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解できる。 ア. 現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切に収集し、読み取る技能を身に付ける。 イ. 次の各事項について多面的・多角的に考察し、表現できる。 - 民主政治の本質 - 日本国憲法と現代政治の在り方との関連 - 政党政治や選挙と望ましい政治の在り方、主権者としての政治参加の在り方 - 経済活動と福祉の向上との関連 - 市場経済の機能と限界 - 持続可能な財政及び租税の在り方	【評価の観点】〔各学期共通〕 - 政治・経済的諸問題や政治・経済的概念についての知識・理解 - 政治・経済的諸問題を適切に理解するために諸資料を用いる技能 - 政治経済的諸問題についての適切な思考・判断・表現 - 政治・経済学習に主体的に取り組む、政治・経済で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度 【評価方法】〔各学期共通〕 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、政治・経済に関する諸問題についての見方、考え方、判断や表現、学習事項に含まれる知識や理解、技能を活用して、政治経済に関連する諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点

	の実現 ・防災と安全・安心な社会の実現	・金融を通じた経済活動の活性化 イ. 次の各事項について多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化 ・地域社会の自立と政府 ・多様な働き方・生き方を可能にする社会 ・産業構造の変化と起業 ・歳入・歳出両面での財政健全化 ・食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現 ・防災と安全・安心な社会の実現 ウ. 政治及び経済の基本的な概念や理論などの理解を活用し、理論と現実の相互関連を踏まえながら、課題とする特定の社会事象について、事実を基に多面的・多角的に探究した上で、他者と協働して持続可能な社会の形成に積極的に関わろうとすることができる。	(1)個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。 (2)小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。 (1)(2)を総合的に評価する。
2 学 期	2. グローバル化する国際社会の諸課題 ①現代の国際政治 ・国際社会の変遷 ・国際法の意義 ・国際連合をはじめとする国際機構の役割 ・日本の安全保障と防衛 ・国際貢献について ②現代の国際政治・経済 ・貿易の現状と意義 ・為替相場の変動 ・国民経済と国際収支 ・国際協調の必要性 ・国際経済機関の役割 ③グローバル化する国際社会の諸課題の探究 ・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変	ア. 国際社会の変遷、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、日本の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解できる。 ア. 貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解できる。 ア. 現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想するのに必要な情報を適切に収集し、読み取る技能を身に付ける。 イ. 国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現できる。 イ. 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。 イ. 相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現できる。 イ. 国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。 ウ. グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、イノベーションと成長市場、人種・	

容	・地球環境と資源・エネルギー問題 ・国際経済格差の是正と国際協力 ・イノベーションと成長市場 ・人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組み ・持続可能な国際社会づくり	民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組、持続可能な国際社会づくりなどについて、国際政治、国際法、国際経済の基本的な概念や理論などの理解を活用し、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを積極的に説明、論述することができる。	
---	---	--	--

第3学年 ＜文系＞ 国際関係論 (1単位)	教科書	(未定)
	副教材	(未定)

学習到達目標

現代の国際社会に関係する諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会の形成者として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 国際社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて、探究するための手掛かりとなる国際法・国際政治・国際経済などの概念や理論について理解するとともに、諸資料から国際社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 国際法・国際政治・国際経済に関する概念や理論などを活用して、現実の国際社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し、公正に判断して、国際社会における合意形成や参画に向かう力を養う。
- (3) よりよい国際社会の実現のために、現実の国際社会に見られる諸課題に主体的に関わり、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、日本の平和と繁栄を図ることや、国際社会においてより積極的な役割を果たそうとする態度を養う。

評価の観点

	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	①国際社会の諸課題の解決に向けて探究するため、手がかりとなる国際政治・国際法・国際経済などに関する概念や理論などについて理解できる。 ②諸資料から、国際社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につけられる。	①国際社会における幸福・正義・公正などの考え方や国際政治・国際法・国際経済に関する概念や理論などを活用して、現実の国際社会に見られる複雑な課題を把握し、説明することができる。 ②身につけた判断基準を根拠に構想し、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し、表現することができる。	①よりよい国際社会の実現のために現実の諸課題を自らに引きつけ解決しようとする態度を身につけることができる。 ②現実の国際社会の諸問題に関し、国際政治・国際法・国際経済についての多面的・多角的な考察や深い理解を通し、日本の平和と繁栄を図ると同時に、国際社会に貢献することの大切さについての自覚を深めることができる。

学習方法

※「公共」を参照のこと。

年間シラバス (1年間の学習予定表)
 <週1時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 国際社会の諸課題 ①現代の国際政治 例えば ・国際関係史 ・国際法の意義 ・集団安全保障と国際連合 ・地域統合と国際機関 ・個別的自衛権と集団的自衛権 ・日本の国際貢献 など ②現代の国際経済 例えば ・貿易の意義と日本を取りまく現状 ・国際収支の動向 ・日本企業の海外展開 ・国民経済と多国籍企業 ・国際資本の動向 など	ア. 現代の国際社会と日本に関わる諸事象について、国際政治・国際法・国際経済等の概念や理論をふまえて、深く理解できる。 ア. 現代の国際社会と日本に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切に収集し、読み取る技能を身に付ける。 イ. 現代の国際社会と日本に関わる諸事象について多面的・多角的に考察し、表現できる。 ウ. 現代の国際社会と日本に関わる諸事象について、事実を基に多面的・多角的に探究した上で、他者と協働して持続可能な社会の形成に積極的に関わることができる。	【評価の観点】〔各学期共通〕 ・政治・経済的諸問題や政治・経済的概念についての知識・理解 ・政治・経済的諸問題を適切に理解するために諸資料を用いる技能 ・政治経済的諸問題についての適切な思考・判断・表現 ・政治・経済学習に主体的に取り組み、政治・経済で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度 【評価方法】〔各学期共通〕 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、政治・経済に関する諸問題についての見方、考え方、判断や表現、学習事項に含まれる知識や理解、技能を活用して、政治経済に関連する諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1)個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。 (2)小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。 (1)(2)を総合的に評価する。
2 学期	2. 国際社会の諸課題の探究 例えば ・グローバリゼーションに伴う諸地域の動向と日本の課題 ・東アジア国際関係の現状と日本の課題 ・国際プラットフォーム企業の事業展開と日本政府や日本企業の課題 ・国際標準としてのSDGs と日本政府や日本企業の課題 など	ア. 現代の国際社会と日本に関わる諸課題について、国際政治・国際法・国際経済等の概念や理論をふまえて、深く理解できる。 ア. 現代の国際社会と日本に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切に収集し、読み取る技能を身に付ける。 イ. 現代の国際社会と日本に関わる諸課題について多面的・多角的かつ深く考察し、表現できる。 イ. 国際社会における日本や自身の立場や役割について多面的・多角的に深く考察、構想し、表現できる。 ウ. 国際社会における日本や自身の立場や役割に関する多面的・多角的で深い理解を前提に、自身が主体的に国際社会とどのように向き合うべきか考え、他者との協働によって課題の解決を展望することができる。	定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、政治・経済に関する諸問題についての見方、考え方、判断や表現、学習事項に含まれる知識や理解、技能を活用して、政治経済に関連する諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1)個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。 (2)小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。 (1)(2)を総合的に評価する。

※1 学期・2 学期とも具体的な学習テーマの設定については、担当教員や生徒の関心、他の公民科・地理歴史科の科目の既習内容に応じて、その都度決定する。

高等学校 数学科 シラバス

3年間のねらい、学習目標

数学は端的に言えば、「自然科学・社会科学を記述するための言語である」と言える。イタリアの天文学者であるガリレオ・ガリレイも、「宇宙という本は数学という言葉で書かれている」と指摘しており、その意味で、数の世界の拡張、文字の利用が必要である。物体の運動、星の運動、化学物質の構成やそれらの反応を分析するなどの自然科学分野だけにとどまらず、コンピュータや携帯電話の内部構造、暗号を用いたメールの送受信、アンケートの集計結果から全体の様子を知る、などさまざまな場面で数学が「言語」として用いられている。

数学を学習することによって、計算力、論理的思考力、発想力、創造力などが身につく、筋道をたてて論理的に思考し、その論理に基づいて表現する能力（論証力）が養える。これらの力を利用し、宇宙などの自然界の様子から人間の社会の仕組みまで見ることができる。大学での専門教養を身に付けるためにも数学は必要不可欠な教科であり、しっかり学習に取り組んでほしい。

高等学校では中学校3年間で学んできた数学の基礎知識をもとにして、数学力の応用と発展を目指す。また、これまでは高校2年生で週5単位、高校3年生で文系、理系で共通した週2単位の数学の授業を行っていたが、2013年度より高校2年生で週6単位、高校3年生で文系週2単位、理系週8単位の授業を行うよう変更する。それにより、理系の生徒には大学教養に繋がる深い確かな数学力を身に付け、文系の生徒には数学の基本的な概念や原理・法則を定着させ、大学進学に向けて幅広い学部・学科に対応できる力を養っていく。

第1学年	教科書	「数学Ⅰ」（数研出版）
数学Ⅰ （3単位）	副教材	「体系数学3 数式・関数編」「体系問題集数学3 数式・関数編」 「体系数学3 論理・確率編」「体系問題集数学3 論理・確率編」 (数研出版)

学習到達目標

1. 話を聞きながら理解し板書や必要なメモは自分で判断し、まとめる力をつける。
2. 課題などを計画立ててやりこなし自主的に学習を進める姿勢を身につける。
3. 2次関数、式と証明、複素数と方程式、三角関数、及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
4. 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに粘り強い取り組みを行うことができる。
5. うまく答えを導けないときには、もう一度問題文に戻り、自分がとった解法が正しいかを振り返り、その方法では解決が難しいと判断すれば、どの地点に戻って考え直すかを吟味し、それを見極めて再び問題に挑むことができる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	2次関数、集合と論理、データの分析及びいろいろな式についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表す式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

		などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力、数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力を養う。	
--	--	--	--

学習方法

1. 授業を大切にしよう

- ① 学習の基本は授業である。常に真剣な気持ちで取り組む。
- ② 予習→授業→復習のサイクルが大切である。授業は1回目の復習という意識を持つ。
- ③ 始業のチャイムが鳴るまでに授業の準備をし、着席して待機する。

2. 数学の楽しさ・面白さを意識しよう

数学に対してははじめから苦手意識を持っていたり、数学をおもしろいとは感じない。いつも新鮮な気持ちで数学に取り組んでもらいたい。考えることを楽しみ、数学を楽しもう。

3. 必ず予習・復習をしよう

数学はなぜそうなるのかの論理を理解しないと本当に理解したとはいえない。日々の授業で「わかった」と感じるために、家庭学習で予習をやった上で授業に臨むと、授業の内容がわかりやすいはずである。授業は1回目の復習である。さらに、授業で理解できなかったところを友人にきいたり先生に質問して理解するようにしたり、もう一度自分で考えてみて理解しているかどうかを確認したりするとよい。きちんと復習することが次の授業内容の理解へつながっていく。

4. 必ず自分で解こう

数学の勉強では、答えを眺めてわかったつもりになっても、実際に問題を解くと解けないこと（書けないこと）がよくあり、それでは数学の力を伸ばしていくことは難しい。数学の勉強をするときには、必ずノートにきちんと計算したり図を描いたりしながら解いていくようにしてほしい。そうすることで、自分自身が本当に理解できているかどうかを確認することができ、自分の力を伸ばしていくことにつながっていく。「急がば回れ」と思って頑張ろう。

5. 計算力をつけよう

数学は論理と計算によって解を導くものである。論理を考えることは何より大切だが、計算がきちんとできないと解には到達しない。内容を理解した上で確実な計算力を養っていくことは数学ができるようになるための必要条件である。高い目的意識を持って問題を解いていけば、必ず計算力は身についていくはずである。また、計算では反復練習が重要である。

6. わからない問題でもあきらめない

わからない問題にぶつかったとき、簡単にあきらめてはいけない。解けない問題を解こうとする過程が大切であり（解けなかったとしても、考える過程は決して無駄にはならない）、それが本当の勉強であり力を伸ばす源となる。難しい問題が解けたときは本当にうれしいものである。どうしてもわからない問題があるときには、遠慮せずに質問に来ること。絶対にそのままにしておかないことが大切である。疑問点を解決して、自分でできるようになったとき、数学の力がきっと伸びている。

年間シラバス（1年間の学習予定表）

<週3時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 導入	高等学校における数学について、学習の意義や内容を理解する。授業の進め方、課題の提出や評価の方法について確認する。	【評価の観点】 ・ 数学的な知識・技能 ・ 数学的な思考・判断・表現 ・ 主体的に学習に取り組む態度
	2. 2次関数のグラフ ・ 2次関数のグラフ	2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化	

	- 関数のグラフの移動 2次関数の最大値, 最小値 2次関数の決定 2次関数のグラフと方程式 2次不等式 2次不等式の応用	を表現することの有用性を認識するとともに, それらを事象の考察に活用できるようにする。 そのために, ア. 2次関数のグラフの軸, 頂点について理解し, 2次関数$y = ax^2 + bx + c$のグラフをかくことができる。さらに, グラフの平行移動や対称移動について理解し, 得られる放物線の方程式を求められる。 イ. $y = a(x - p)^2 + q$ の形に変形し, 最大値, 最小値を求められる。さらに, 2次関数の最大値, 最小値の応用問題を解くことができる。 ウ. 与えられた条件から2次関数を決定することができる。 エ. 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を, $D = b^2 - 4ac$ の符号から考えることができる。 オ. 2次関数の値の符号と2次不等式の解を相互に関連させて考察し, 2次の方程式, 不等式, 2次の連立不等式を解くことができる。	【評価方法】 1. 定期考査の成績 定期考査においては, 知識・理解に偏ることなく, 数学的な考え方, 表現・処理をみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 授業時などの学習過程で, 評価の観点の3項目について評価する。 (2) 課題ノートやレポートの提出状況・復習テスト・小テストの成績などを評価する。 (1)(2)を総合的に評価する。 【補講】 復習テスト・定期考査等の成績不振者を対象に, 以下の補講を実施する。 (1) 週1回, 平日の7限目 (2) 長期休暇中 約50名を対象に実施するが, 時により変動する場合がある。また, (1)(2)以外にも必要に応じて補講, 追試等を実施する場合がある。
2 学 期	3. 集合と論理 - 集合 - 命題と集合 - 命題と証明 - 集合の要素と個数 4. データの分析 - データの代表値 - データの散らばりと四分位範囲 - 分散と標準偏差 2つの変量の間関係 - 仮説検定の考え方	集合と命題に関する基本的な概念を理解して, それらを活用できるようにする。 そのために, ア. 集合の表現方法や基本的性質を理解する。 イ. 命題の真偽と真理集合の包含関係が対応することを理解し, 命題の真偽が判断できるようにする。また, 必要条件, 十分条件, 必要十分条件および同値について理解する。 ウ. 命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解し, それらの真偽を判断できるようにする。また, 対偶による証明法や背理法のしくみを理解する。 エ. 集合の要素の個数の公式を利用でき, 具体的な日常の事象に対して, 集合を考えることで, 人数などを求めることができるようにする。 統計の基本的な考えを理解するとともに, それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。 そのために, ア. 平均値や中央値, 最頻値, 四分位範囲の定義やその意味を理解し, それらを求められる。また, 箱ひげ図をかき, データの分布を考察することができる。 イ. 偏差, 分散, 標準偏差, 相関係数の定	

	義と意味を理解し、それらを求めることができる。 ウ. 具体的な事象において仮説検定の考え方を理解するとともに、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。	
	5. 式と証明 ・ 恒等式 ・ 等式の証明 ・ 不等式の証明	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 そのために、 ア. 恒等式の性質を理解し、恒等式となるよう係数を決定したり、恒等式$A = B$の証明を適切な方法で行ったりすることができる。 イ. 実数の大小関係の基本性質を理解し、不等式$A > B$を証明することができる。また、等号の成り立つ場合について、考えることができる。また、平方の大小関係や、相加平均・相乗平均など実数の性質を利用して、不等式を証明することができる。
	6. 複素数と方程式 ・ 複素数 ・ 2次方程式の解と判別式	方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 そのために、 ア. 複素数の必要性、定義を理解し、四則計算ができる。また、共役な複素数、負の数の平方根を理解する。 イ. 2次方程式の解の公式を利用して、2次方程式を解くことができ、判別式を利用して、2次方程式の解を判別したり、係数を求めたりできる。
3 学 期	・ 解と係数の関係 ・ 因数定理 ・ 高次方程式 ・ いろいろな方程式	ウ. 解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求められる。 エ. 2次方程式の解を利用して、2次式を因数分解できる。 オ. 剰余の定理を利用して、整式を式で割ったときの余りを求められる。因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。 カ. 1の3乗根ωについて理解し、ωを用いた式の値を求められる。 キ. 高次方程式の既知の解や、虚数解から、方程式の係数を決定することができる。

		ク. 3次方程式の解と係数の関係を利用して、対称式の値を求められる。 ケ. 連立3元1次方程式、対称式で表された連立方程式、分数式を含む方程式を解くことができる。	
--	--	--	--

第1学年 数学A (2単位)	教科書	「数学Ⅰ」「数学A」(数研出版)
	副教材	「体系数学3 数式・関数編」「体系問題集数学3 数式・関数編」 「体系数学3 論理・確率編」「体系問題集数学3 論理・確率編」 (数研出版)

学習到達目標

- 話を聞きながら理解し板書や必要なメモは自分で判断し、まとめる力をつける。
- 課題などを計画立ててやりこなし自主的に学習を進める姿勢を身につける。
- 三角比、及び確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
- 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに粘り強い取り組みを行うことができる。
- うまく答えを導けないときには、もう一度問題文に戻り、自分がとった解法が正しいかを振り返り、その方法では解決が難しいと判断すれば、どの地点に戻って考え直すかを吟味し、それを見極めて再び問題に挑むことができる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	図形と計量、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習方法 第1学年 数学Ⅰの項を参照

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週2時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1学期	1. 三角比 ・ 三角比 ・ 三角比の相互関係 ・ 三角比の拡張 ・ 三角形と正弦定理、余弦定理	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 そのために、 ア. 直角三角形において、正弦、余弦、正接が求められる。また、直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解し、測量などの応用問題に利用できる。	数学Ⅰと同様

		イ. 三平方の定理をもとに、三角比の相互関係を考えることができる。 ウ. 既知である鋭角の三角比を、鈍角の場合に拡張して考えることができる。 エ. 正弦定理や余弦定理について理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。	
2 学 期	- 三角形の面積 2. 場合の数と確率 - 場合の数 - 順列 - 組み合わせ - 二項定理 - 試行と事象 - 確率とその基本性質 - 独立な試行の確率	オ. 三角比を用いて、三角形の面積や正四面体の体積などを求めることができる。 場合の数を集合の要素の個数としてとらえ、ある事柄が起こると期待される割合（確率）について理解できるようにする。 そのために、 ア. 事象が集合で表されることを理解し、集合の要素の個数について成り立つ性質により計算をすることができる。 イ. 順列・組み合わせの基本公式を用いて具体的な事象における場合の数を求めることができる。 ウ. 確率の基本性質を理解し、加法定理と余事象の確率を求めることができる。	
3 学 期	- 条件付き確率 - 期待値 - 事象の独立と従属	エ. 反復試行や条件付き確率の意味を理解し、その内容に即した方法で計算することができる。 オ. 期待値の定義を理解し、確率の性質などに基づいて期待値を求めることができる。	

第2学年	教科書	「数学Ⅱ」（数研出版）
数学Ⅱ （3単位）	副教材	「体系数学3 数式・関数編」「体系問題集数学3 数式・関数編」 「体系数学4」「体系問題集数学4」（数研出版）

学習到達目標

1. 三角関数、指数関数・対数関数、微分・積分及び関数の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。
2. 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに粘り強い取り組みを行うことができる。
3. うまく答えを導けないときには、もう一度問題文に戻り、自分がとった解法が正しいかを振り返り、その方法では解決が難しいと判断すれば、どの地点に戻って考え直すかを吟味し、それを見極めて再び問題に挑むことができる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解	関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考

積したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
--	-------------------------------------	---

学習方法 第1学年 数学Ⅰの項を参照

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週3時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 三角関数 - 一般角と弧度法 - 一般角の三角関数 - 三角関数の性質 - 三角関数のグラフ - 三角関数の応用 - 三角関数の加法定理 - いろいろな公式	角の概念を一般角まで拡張して，三角関数及び三角関数の加法定理について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。 そのために， ア. 一般角を表す動径を図示でき，動径の表す角を$\alpha + 360^\circ \times n$の形で表すことができる。 イ. 弧度法の定義を理解し，度数法と弧度法の換算をすることができる。 ウ. 弧度法で表された角の三角関数の値を求めることができる。 エ. 単位円上の点の座標を，三角関数を用いて表すことができる。 オ. 三角関数の相互関係を理解し，それらを利用して様々な値を求め，式変形をすることができる。 カ. $\sin(-\theta)$や$\sin(\theta \pm \pi)$などの公式を理解し，それらを用いて三角関数の値を求めることができる。 キ. 三角関数の性質とそのグラフの特徴を理解する。さらに，いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解する。 ク. 三角関数を含む方程式・不等式を解く際に単位円やグラフを図示して考察することができる。 ケ. 三角関数を含む方程式・不等式の解き方を理解する。 コ. 加法定理を利用して，様々な三角関数の値を求めることができる。 サ. 加法定理から，2倍角の公式，半角の公式を導くことができる。また，それらを利用して，三角関数の値を求めたり，三角関数を含む方程式・不等式を解いたりできる。 シ. 和と積の公式を用いて，三角関数の値を求めたり，三角方程式の解を求めたりすることができる。 ス. 三角関数の合成について理解し，三角関数の方程式や不等式を解くことができる。またxの関数$y = a \sin x +$	【評価の観点】 - 数学的な知識・技能 - 数学的な思考・判断・表現 - 主体的に学習に取り組む態度 【評価方法】 1. 定期考査の成績 定期考査においては，知識・理解に偏ることなく，数学的な考え方，表現・処理をみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 授業時などの学習過程で，評価の観点の3項目について評価する。 (2) 課題ノートやレポートの提出状況・復習テスト・小テストの成績などを評価する。 (1)(2)を総合的に評価する。 【補講】 復習テスト・定期考査等の成績不振者を対象に，以下の補講を実施する。 (1) 週1回，平日の7限目 (2) 長期休暇中 約50名を対象に実施するが，時により変動する場合がある。また，(1)(2)以外にも必要に応じて補講，追試等を実施する場合がある。

	2. 指数関数と対数関数 ・ 指数の拡張 ・ 指数関数 ・ 対数とその性質 ・ 対数関数 ・ 常用対数	$b \cos x$の式を変形して、関数の最大値・最小値を求めることができる。 指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 そのために、 ア. 指数を自然数から整数に拡張したときも、指数法則が成り立つことを学び、指数に関する理解を深める。 イ. 指数法則が成り立つように、指数の範囲を正の整数から実数にまで拡張して考えることができる。 ウ. 指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。 エ. 指数関数のグラフの概形、特徴を理解し描くことができる。 オ. 指数方程式・不等式を解くことができる。	
2 学 期	3. 微分法 ・ 微分係数 ・ 関数の極限值 ・ 導関数 ・ 接線 ・ 関数の値の変化 ・ 最大値, 最小値 ・ 関数のグラフと方程式, 不等式	微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 そのために、 ア. 平均変化率, 微分係数の定義, 極限値の性質を理解し, それらを求めることができる。 イ. 導関数の性質を理解して, 種々の導関数の計算ができる。 ウ. 微分係数の値などから関数を決定することができる。 エ. 接線の方程式の公式を利用して, 接線の方程式を求めることができる。また, 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式を求めることができる。 オ. 導関数を利用して, 関数の増減を調べることができる。また, 導関数を利用して, 関数の極値や最大値・最小値を求めたり, グラフをかいたりできる。 カ. 導関数を利用して, 方程式の実数解の個数を求める問題, 不等式の証明問題を解くことができる。	
	4. 積分法 ・ 不定積分 ・ 定積分 ・ 面積 ・ 体積	積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 そのために、 ア. 不定積分の定義や性質を理解し, その計算ができる。与えられた条件を満たす関数や曲線の方程式を不定積分を利用して求めることができる。 イ. 定積分の定義や性質を理解し, その計	

		算ができる。また、定積分を含む関数を求めることができる。 ウ. 上端が変数xである定積分で表された関数を微分して処理することができる。 エ. 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 オ. 絶対値のついた関数の定積分の計算ができる。 カ. 曲線とy軸との間の面積を定積分を利用して求めることができる。 キ. 立体の断面積を積分することで体積が求められることを理解し、体積を求めることができる。	
3 学 期	5. 関数 ・ 分数関数 ・ 無理関数 ・ 逆関数と合成関数	分数関数・無理関数および逆関数と合成関数を学び、関数概念について理解を深める。 そのために、 ア. 分数関数・無理関数の定義について理解し、グラフをかくことができる。 イ. 分数関数・無理関数のグラフと直線の共有点の座標を求めたり、分数不等式・無理不等式を解いたりできる。 ウ. 逆関数の定義を理解し、種々の関数の逆関数を求められる。さらに、逆関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。 エ. 合成関数の定義を理解し、種々の関数の合成関数を求めることができる。	

第2学年	教科書	「数学Ⅱ」「数学B」(数研出版)
数学B (3単位)	副教材	「体系数学3 数式・関数編」「体系問題集数学3 数式・関数編」 「体系数学4」「体系問題集数学4」(数研出版)

学習到達目標

1. 図形と方程式、数列及び統計的な推測の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。
2. 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに粘り強い取り組みを行うことができる。
3. うまく答えを導けないときには、もう一度問題文に戻り、自分がとった解法が正しいかを振り返り、その方法では解決が難しいと判断すれば、どの地点に戻って考え直すかを吟味し、それを見極めて再び問題に挑むことができる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	図形と方程式、数列及び統計的な推測の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈した	座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考

	り、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりできるようにする力を養う。	察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
--	--------------------------------	---	------------------------------------

学習方法 第1学年 数学Ⅰの項を参照

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週3時間>

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	1. 図形と式 ・ 直線上の点 ・ 座標平面上の点 ・ 直線の方程式 ・ 円の方程式 ・ 円と直線 ・ 軌跡と方程式 ・ 不等式と領域	座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 そのために、 ア. 座標平面上において、2点間の距離を求め、それを利用して図形の性質を証明できる。 イ. 座標平面上において、線分の内分点、外分点、重心の座標を求めることができる。 ウ. 直線が x, y の1次方程式で表されることを理解し、与えられた条件を満たす直線の方程式を求められる。 エ. 2直線の平行・垂直条件を理解し、それを利用できる。 オ. 直線に関して対称な点の座標を求められる。 カ. 連立方程式の実数解の個数と、2直線の共有点の個数の関係を理解する。 キ. 点と直線の距離の公式を理解し、それを利用できる。 ク. 直線の方程式を利用して、図形の性質を証明したり、与えられた条件を満たす円の方程式を求めたりできる。 ケ. 円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数で考察することができる。 コ. 円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで、円と直線の位置関係を考えることができる。 サ. 円の接線の公式を理解し、円外の点から引いた接線の方程式を求めたり、2つの円の交点の座標や、交点を通る円の方程式を求めたりできる。 シ. 点が満たす条件から得られた方程式	数学Ⅱと同様

		を図形として考え、点の軌跡を求められる。 ス. 媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解する。 セ. 不等式・連立不等式の表す領域を図示したり、領域を利用する1次式の最大値・最小値を求めたりできる。	
2 学 期	2. 数列 ・ 数列 ・ 等差数列 ・ 等比数列 ・ 和の記号Σ ・ いろいろな数列 ・ 漸化式と数列 ・ 数学的帰納法	簡単な数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 そのために、 ア. 数列の表記、定義について理解する。 イ. 等差数列・等比数列の一般項、和の公式を理解して、利用することができる。 ウ. 和の記号Σの意味を理解し、数列の和が求められる。 エ. 階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 オ. 数列の和S_nと第n項a_nの関係を理解し、数列の一般項が求められる。 カ. 求め方を工夫して、数列の和が求められる。 キ. 群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。 ク. 漸化式の意味を理解し、初項と漸化式から、数列の一般項が求められる。 ケ. 数学的帰納法を用いて、等式の証明や、整数の性質を証明できる。また、一般項を推測し、それが正しいことを数学的帰納法を用いて証明できる。	
3 学 期	3. 統計的な推測 ・ 確率変数と確率分布 ・ 確率変数の期待値と分散 ・ 確率変数の性質 ・ 二項分布 ・ 正規分布 ・ 母集団と標本 ・ 推定 ・ 仮説検定	統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 そのために、 ア. 標本調査の考え方について理解を深める。 イ. 確率変数と確率分布について理解する。 ウ. 二項分布と正規分布の性質や特徴について理解する。 エ. 確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察できるようにする。 オ. 正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解する。	

<理系>

第3学年	教科書	「数学Ⅲ」(数研出版)
------	-----	-------------

＜理系＞ 数学Ⅲ (5単位)	副教材	『サクシード 数学Ⅲ＋C』(数研出版)
----------------------	-----	---------------------

学習到達目標

1. 極限，微分法および積分法についての理解を深め，知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを積極的に活用する態度を育てる。
2. 知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに粘り強い取り組みを行うことができる。
3. うまく答えを導けないときには，もう一度問題文に戻り，自分がとった解法が正しいかを振り返り，その方法では解決が難しいと判断すれば，どの地点に戻って考え直すかを吟味し，それを見極めて再び問題に挑むことができる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	極限，微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し，極限について考察したり，関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し，数学的に考察したりする力，いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性基礎を養う。

学習方法 第1学年 数学Ⅰの項を参照

年間シラバス

＜週5時間＞

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講・備考
1 学 期	1. 極限 ・ 無限等比数列 ・ 無限級数 ・ 無限等比級数 ・ 無限級数の性質 ・ 関数の極限(1) ・ 関数の極限(2) ・ 三角関数と極限 ・ 関数の連続性	微分法，積分法の基礎として極限の概念を理解し，それを数列や関数値の極限の考察に活用できるようにする。 そのために， ア. 無限等比数列の極限を求めることができる。また，無限等比数列の収束条件を理解し，それを利用できる。 イ. 漸化式で表された数列の一般項を求め，その極限值が求められる。 ウ. 無限級数の収束，発散をその部分和から調べることができる。また，無限等比級数の収束条件を理解し，それを利用できる。 エ. 無限級数の和の性質について理解し，それを用いて無限級数の和が求められる。また，無限級数の収束，発散を判定する条件を理解し，それを利用できる。 オ. 関数の極限値の性質を理解して，種々の関数の極限値を求めたり，極限値を	【評価の観点】 ・ 数学的な知識・技能 ・ 数学的な思考・判断・表現 ・ 主体的に学習に取り組む態度 【評価方法】 1. 定期考査の成績 定期考査においては，知識・理解に偏ることなく，数学的な考え方，表現・処理をみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1) 授業時などの学習過程で，評価の観点の3項目について評価する。

		もつ関数の係数を決定したりできる。 カ. 関数の右側極限・左側極限を調べ、関数の極限の有無を調べられる。 キ. 指数関数、対数関数の極限が求められる。 ク. 関数の極限が、正・負の無限大に発散する場合について調べられる。 ケ. $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sin x}{x} = 1$ を利用して、三角関数を含む関数の極限值を求めることができる。 コ. 定義に基づき、様々な関数の連続性、不連続性を判定できる。 サ. 中間値の定理を利用して、方程式の実数解の存在を示すことができる。 いろいろな関数についての微分法を理解する。 そのために、 ア. 微分係数、微分可能の定義とその図形的意味を理解する。さらに、微分可能性と連続性の関係を理解し、連続であるが微分可能でないことを示すことができる。 イ. 導関数の定義を理解し、定義に基づき微分できる。さらに、導関数の性質、積・商の導関数、合成関数・逆関数の微分法を利用して、様々な導関数の計算ができる。 ウ. 三角関数や対数関数・指数関数を含む様々な導関数を計算できる。対数微分法を利用して、複雑な関数を微分できる。 エ. 高次導関数の定義と表し方を理解し、様々な高次導関数を求められる。 オ. 曲線の媒介変数表示を理解し、媒介変数で表された関数の導関数が求められる。 カ. 陰関数 $F(x, y) = 0$ を合成関数の導関数を利用して微分できる。	(2) 課題ノートやレポートの提出状況・復習テスト・小テストの成績などを評価する。 (1)(2)を総合的に評価する。 【補講】 復習テスト・定期考査等の成績不振者を対象に、以下の補講を実施する。 (1) 週1回、平日の7限目 (2) 長期休暇中 約50名を対象に実施するが、時により変動する場合がある。また、(1)(2)以外にも必要に応じて補講、追試等を実施する場合がある。
2. 微分法	- 微分係数と導関数 - 導関数の計算 - 合成関数と導関数 - 三角関数と導関数 - 対数関数、指数関数の導関数 - 高次導関数 - 関数のいろいろな表し方と導関数		
3. 微分法の応用	- 接線と法線 - 平均値の定理 - 関数の値の変化 - 関数のグラフ - 方程式、不等式への応用 - 速度と加速度 - 近似式	微分法を用いて関数値の増減やグラフの凹凸などを考察し、微分法の有用性を認識するとともに、具体的な事象の考察に活用できるようにする。 そのために、 ア. 微分法を用いて関数値の増減やグラフの凹凸などを考察し、微分法の有用性を認識するとともに、具体的な事象の考察に活用できるようにする。そのために、微分係数の意味を理解し、接線の方程式を求めたり、法線の方程式を求	

		めたりできる。 イ. 曲線外の定点から曲線に引いた接線の方程式や、$F(x, y) = 0$で表された曲線の接線の方程式を求められる。 ウ. 曲線どうしが共通な接線をもつことから、曲線を決定することができる。 エ. 平均値の定理と、その図形的意味を理解する。平均値の定理を利用して、不等式を証明できる。 オ. 導関数の符号と関数の増減の関係を理解し、関数の増減を調べられる。導関数を利用して、関数の極値が求めたり、関数の極値の条件から関数を決定したり、増減表をかいて、関数の最大値・最小値を求めたりできる。 カ. 導関数、第2次導関数を利用して、増減、凹凸、変曲点、漸近線などを調べて関数のグラフをかくことができる。 キ. 関数の定義されていないところや、$x \rightarrow \pm\infty$の状態を調べ、関数のグラフをかくことができる。さらに、グラフを利用して不等式の証明問題、方程式の実数解の個数問題を解くことができる。 ク. 点の位置を表す関数の導関数が点の速度、第2次導関数が点の加速度を表すことを理解する。また、ベクトルの成分を微分し、速度ベクトル、加速度ベクトルを求めることができる。 ケ. 等速円運動、角速度の定義を理解し、等速円運動をしている点の速度、加速度の関係を調べられる。 コ. 導関数を利用して、関数の近似式を作ったり、近似式を求めたりすることができる。	
2 学 期	4. 積分法 - 不定積分とその基本性質 - 置換積分法 - 部分積分法 - いろいろな関数の不定積分 - 定積分とその基本性質 - 定積分の置換積分法 - 定積分の部分積分法 - 定積分と関数 - 定積分と和の極限 - 定積分と不等式	いろいろな関数についての積分法を理解し、活用できるようになるとともに、定積分と和の極限の関係を理解する。 そのために、 ア. 不定積分の定義や基本性質を理解し、様々な関数の不定積分を求められる。 イ. 置換積分・部分積分について理解し、複雑な関数の不定積分を求められる。また、様々な工夫によって被積分関数を変形し、不定積分を求められる。 ウ. 定積分の定義や性質を理解し、様々な定積分の計算ができる。 エ. 定積分の置換積分法、偶関数・奇関数の性質、部分積分法を理解し、複雑な関数の定積分の計算ができる。また、定積分を含む関数を求めることができる。 オ. 区分求積法について理解し、定積分の和の極限を計算することができる。	

	5. 積分法の応用 - 面積 - 体積 - 曲線の長さ - 速度と道のり	カ. 定積分を用いて不等式の証明ができる。 積分法の有用性を認識するとともに、図形の求積などに活用できるようにする。 そのために、 ア. 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求められる。 イ. 立体の断面積を積分することで体積が求められることを理解し、体積を求めることができる。 ウ. 回転体の体積を求める方法を理解し、回転体の体積が求められる。 エ. 定積分を用いて、曲線の長さを求めることができる。 オ. 座標平面上の点が動く道のりを、定積分を用いて求めることができる。	
3 学期	大学への準備演習	大学進学に向け、既習内容の復習や、大学教養レベルの演習をする。	

<理系>

第3学年 〈理系〉 数学C (3単位)	教科書	「数学C」(数研出版)
	副教材	『サクシード 数学Ⅲ+C』(数研出版)

学習到達目標

- ベクトル及び平面上の曲線と複素数平面についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。
- 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに粘り強い取り組みを行うことができる。
- うまく答えを導けないときには、もう一度問題文に戻り、自分がとった解法が正しいかを振り返り、その方法では解決が難しいと判断すれば、どの地点に戻って考え直すかを吟味し、それを見極めて再び問題に挑むことができる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統一的・発展的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習方法 第1学年 数学Ⅰの項を参照

年間シラバス

<週3時間>

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講・備考
1 学 期	1. 平面のベクトル ・ 平面上のベクトル ・ ベクトルの演算 ・ ベクトルの成分 ・ ベクトルの内積 ・ 位置ベクトル ・ ベクトルと図形 ・ ベクトル方程式	ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 そのために、 ア. ベクトルの向き，相等，加法，減法，実数倍，ベクトルの平行条件，ベクトルの分解について理解する。 イ. 成分表示されたベクトルの大きさ，和，差，実数倍の計算ができる。 ウ. 点の座標とベクトルの成分の関係について理解する。 エ. ベクトルの内積を計算したり，内積からベクトルのなす角を求めたりできる。さらに，ベクトルの垂直条件を理解する。 オ. 線分の内分点，外分点，三角形の重心の位置ベクトルを表す公式を理解し，さらに位置ベクトルを用いて平面図形についての命題を証明する。 カ. 図形の性質をベクトルで表現して扱うことができる。 キ. 直線のベクトル方程式の媒介変数処理ができる。また，直線のベクトル方程式と法線ベクトル，円のベクトル方程式について理解する。	数学Ⅲと同様
	2. 空間のベクトル ・ 空間の座標 ・ 空間のベクトル ・ 空間のベクトルの成分 ・ 空間のベクトルの内積 ・ 空間の位置ベクトル ・ 空間のベクトルの利用 ・ 座標空間における球面，直線，平面	ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 そのために、 ア. 座標空間において，点の座標，2点間の距離が求められる。 イ. 空間のベクトルを，与えられた3つのベクトルで表すことができる。 ウ. 成分表示されたベクトルの大きさ，和，差，実数倍の計算ができる。 エ. 成分表示されたベクトルを，3つのベクトルの和，差に分解することができる。 オ. ベクトルの内積を計算でき，ベクトルのなす角を内積を利用して求めることができる。 カ. 内分点，外分点，三角形の重心を空間の位置ベクトルを用いて表すことができる。また，位置ベクトルの一意性を用いて，図形の性質を証明できる。 キ. 空間において，3点が同一直線上にあるための条件を理解する。 ク. 3点で定まる平面上の点の位置ベクトルについて考えることができる。	

		ケ. 内積を利用して、空間の図形の性質を証明できる。 コ. 球面の方程式、球の中心、半径を読み取ることができる。 サ. 空間における直線、平面のベクトル方程式について理解する。	
2 学 期	3. 複素数平面 - 複素数平面 - 複素数平面の極形式と乗法、除法 - ド・モアブルの定理 - 複素数と図形 4. 式と曲線 - 放物線 - 楕円 - 双曲線 2次曲線の平行移動 2次曲線と直線 2次曲線の離心率と準線 - 曲線の媒介変数表示 - 極座標と極方程式	複素数を複素数平面を用いて図形的に表現することで、複素数の諸演算が平面上の図形的な性質として表されることを理解するとともに、複素数を用いて図形の性質を考察できるようになる。 そのために、 ア. 複素数の実数倍、加法、減法の複素数平面における図形的意味を理解する。 イ. 共役な複素数、複素数の絶対値の定義、図形的意味を理解する。 ウ. 極形式の定義を理解し、複素数を極形式で表すことができる。 エ. 複素数の乗法、除法の図形的意味を理解し、活用できる。 オ. ド・モアブルの定理を利用して、複素数のn乗根を求めることができる。また、複素数のn乗根の定義と図形的意味を理解し、n乗根を求めることができる。 カ. 線分の内分点・外分点や、複素数の方程式で表される図形を、意味を考えると計算で求めることができる。 キ. 半直線のなす角を複素数で表すことを理解し、それを用いて図形の性質を証明したり、角度を求めたりできる。 2次曲線の基本的な性質および曲線がいろいろな式で表現できることを理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。 そのために、 ア. 放物線の方程式から、焦点、軸、準線、頂点などを求め、概形をかいたり、焦点がy軸上にある放物線の方程式が求めたりできる。 イ. 楕円の方程式から、焦点、長軸、短軸の長さなどを求め、概形をかいたり、焦点がy軸上にある楕円の方程式が求めたりできる。 ウ. 双曲線の方程式から、焦点、頂点、漸近線などを求め、概形を描いたり、焦点がy軸上にある双曲線の方程式が求めたりできる。 エ. 曲線 $F(x-p, y-q) = 0$ は 曲線 $F(x, y) = 0$ を平行移動したものであることを理解する。	

		オ. 2次曲線と直線の交点や接線, 弦の中点を2次方程式の実数解を利用して求められる。 カ. 2次方程式の弦の中点の座標や, 接線の方程式が求められる。 キ. 楕円や双曲線の方程式を離心率eをもとに求められる。 ク. 曲線を媒介変数表示にしたり, 媒介変数表示の曲線を, 媒介変数を消去した式で表したりすることができる。サイクロイドなどの媒介変数表示でないと表しにくい曲線などいろいろな曲線について考察する。 ケ. 極座標, 直交座標の相互関係を理解し, 極方程式で表された曲線を直交座標に関する方程式で表したり, 直交座標に関する方程式を極方程式で表したりできる。また, 2次曲線を離心率eを用いて極方程式で表せる。	
3 学 期	大学への準備演習	大学進学に向け, 既習内容の復習や, 大学教養レベルの演習をする。	

<文系>

第3学年 <文系> 文系数学 (2単位)	教科書	「数学C」(数研出版)
	副教材	授業担当者より別途指示

学習到達目標

- ベクトルについての理解を深め, 知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに, それらを積極的に活用する態度を育てる。
- 知識及び技能を獲得したり, 思考力, 判断力, 表現力等を身に付けたりすることに粘り強い取り組みを行うことができる。
- うまく答えを導けないときには, もう一度問題文に戻り, 自分がとった解法が正しいかを振り返り, その方法では解決が難しいと判断すれば, どの地点に戻って考え直すかを吟味し, それを見極めて再び問題に挑むことができる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 数学的な表現の工夫について認識を深め, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	大きさと向きをもった量に着目し, 演算法則やその図形的な意味を考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習方法 第1学年 数学Ⅰの項を参照

年間シラバス

<週 2 時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講・備考
1 学期	1. 平面のベクトル ・ 平面上のベクトル ・ ベクトルの演算 ・ ベクトルの成分 ・ ベクトルの内積 ・ 位置ベクトル ・ ベクトルと図形 ・ ベクトル方程式	ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 そのために、 ア. ベクトルの向き，相等，加法，減法，実数倍，ベクトルの平行条件，ベクトルの分解について理解する。 イ. 成分表示されたベクトルの大きさ，和，差，実数倍の計算ができる。 ウ. 点の座標とベクトルの成分の関係について理解する。 エ. ベクトルの内積を計算したり，内積からベクトルのなす角を求めたりできる。さらに，ベクトルの垂直条件を理解する。 オ. 線分の内分点，外分点，三角形の重心の位置ベクトルを表す公式を理解し，さらに位置ベクトルを用いて平面図形についての命題を証明する。 カ. 図形の性質をベクトルで表現して扱うことができる。 キ. 直線のベクトル方程式の媒介変数処理ができる。また，直線のベクトル方程式と法線ベクトル，円のベクトル方程式について理解する。	数学Ⅲと同様
2 学期	2. 空間のベクトル ・ 空間の座標 ・ 空間のベクトル ・ 空間のベクトルの成分 ・ 空間のベクトルの内積 ・ 空間の位置ベクトル ・ 空間のベクトルの利用 ・ 座標空間における球面	ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 そのために、 ア. 座標空間において，点の座標，2点間の距離が求められる。 イ. 空間のベクトルを，与えられた3つのベクトルで表すことができる。 ウ. 成分表示されたベクトルの大きさ，和，差，実数倍の計算ができる。 エ. 成分表示されたベクトルを，3つのベクトルの和，差に分解することができる。 オ. ベクトルの内積を計算でき，ベクトルのなす角を内積を利用して求めることができる。 カ. 内分点，外分点，三角形の重心を空間の位置ベクトルを用いて表すことができる。また，位置ベクトルの一意性を用いて，図形の性質を証明できる。 キ. 空間において，3点が同一直線上にあるための条件を理解する。 ク. 3点で定まる平面上の点の位置ベク	

		トルについて考えることができる。 ケ. 内積を利用して, 空間の図形の性質を証明できる。 コ. 球面の方程式, 球の中心, 半径を読み取ることができる。 サ. 空間における直線, 平面のベクトル方程式について理解する。	
3 学 期	大学への準備演習	大学進学に向け, 既習内容の復習や, 大学教養レベルの演習をする。	

高等学校 理科 シラバス

3年間のねらい 学習目標

第1学年では「物理基礎」(2単位)、「化学基礎」(2単位)を履修し、物理・化学分野の基礎学力を身につけるとともに、自然に対する関心を高める。第2学年では文系・理系共通で「生物基礎」(2単位)を履修し、より幅の広い科学の基礎を身につける。また、理系では「物理」(2単位)、「化学」(2単位)を履修し、基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、第3学年で履修する「物理」、「化学」への接続をよりスムーズにできるようにする。第3学年では、文系・理系共通で「地学と防災」(1単位)を履修し、自然災害についての正しい知識を身につけ、防災に対する意識を高める。また、理系では「物理」(3単位)、「化学」(3単位)、「生物」(3単位)の中から2科目を選択履修し、進路にあわせてより深く科学を探究する能力と態度を育てるとともに、科学的な自然観を育成する。

《 物理 》

物理学は、大きく分けて3つの柱からなる。すべての基礎をなしかつ最も大きな柱となるのは、物体の運動や空間に起こるいろいろな現象を、少数の原理・原則にもとづいて説明する、力学と電磁気学である。2番目の柱は、物質の示す熱や温度・発光などの性質を、個々の原子にまで階層をさかのぼって予測する、熱学や原子物理学である。さらに、すべての分野において、波動という普遍的な現象が3番目の柱となる。

第1学年の「物理基礎」で扱う力学は、物理学の特徴が最もよく表れた分野であり、実験などを通して先人たちがどのような問題意識をもって自然に問いかけ、どのように法則をつくってきたかを追体験する。また、必要な計算を数学的に処理する方法として、基礎演習を通して身につける。

第2学年以降は理系コース選択者を対象とし、力学以外の分野にも学習を拡大していく。実験あるいは一つの課題を深く探究する活動を通して、自然への問いかけ方を学び、大学進学に向けて興味関心の幅を広げる。物理学の多様な側面に触れ、大学進学後も持続できる知的好奇心と基礎力を育てる。

《 化学 》

自然界は、物質が『もと』となっていてできている。そのさらに『もと』となる原子の構造を理解することにより、これらの物質の仕組みは霧が晴れるようにわかってくる。また、自然界の多様性は、物質の変化に基づいているが、これも原子の離合集散によって説明することができる。物質の仕組み・変化を原子レベルで科学的に理解しようとするのがこの分野である。

「化学基礎」では物質の構造や性質を中心に、物質の変化についての知識をしっかりと学習する。

第2学年の「化学」では「化学基礎」で身につけた物質の変化について実験・観察を通して、さらに知識を深めていく。

第3学年の「化学」では、近年急速に発展した科学技術など高度でかつ工業的な分野についても理解を深め、2年間を通して、日常活動や社会活動へとつなげていけるよう学習する。

《 生物 》

高校生物では、中学時代の個体や細胞レベルでの話から、より大きな群集や生態系のレベルから、小さな分子レベルにまでその幅が広がり、より高度に生命現象を理解する。特に今回の学習課程の改変により、生物の現代化が図られ、今までなら大学レベルであった内容が新たに取込まれたり、新しい研究分野が登場したりする。これらの最新の内容を理解することが、大学での必要事項となってきている。

「生物基礎」は第2学年で、「生物」は第3学年で履修する。全員が履修する「生物基礎」では、「生物基礎」からの発展的な内容にも触れ、より深く生物や生命現象について学んでいく。理系の選択科目である「生物」は4単位であるが、「生物基礎」に一部を下ろすことで、ほぼ全範囲を網羅し、生物系に進学する生徒に必要な知識を提供する。

《 地学 》

日本列島は世界有数の地震大国かつ火山大国である一方で、災害リスクの高い原子力発電に大きく依存している国でもある。また、近年の地球温暖化に伴い、台風や大雨による気象災害も頻発化・甚大化してきている。第3学年で履修する「地学と防災」では、災害を引き起こす自然現象の発生メカニズムに加え、近畿地方の地質構造や地理・地形の特徴について学習する。これにより、自然災害の姿を地形学・地質学・気象学の3つのアプローチによって多角的に捉える力を養うとともに、個々の生活圏内においてどのような災害リスクがあるのかを検証し、それらに対する効果的な備えを考案する力を身につける。

《 物理 》

第1学年	教科書	『物理基礎』(啓林館)
物理基礎 (2単位)	副教材	『サンダイヤル・物理基礎の基本練習』(啓林館)

学習到達目標

- (1) 物理を学んでいく上で必要とされる、基本的な数学計算の方法と能力を身につける。
- (2) 物体の運動を数式で表現できるとともに、物体にはたらく力を見つけ、運動方程式を立てられるようになる。
- (3) おもな熱現象や電気現象を原子・分子のレベルで説明できる。
- (4) 実験を通して、自ら問題意識をもって自然に問いかける内容と方法の基礎を習得する。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

学習方法

1学期間に少なくとも1～2回の実験を取り入れ、自然に問いかけることの楽しさを体験する。また、自力で適切な図を描き、力学の基本的な問題を解くのに必要なエッセンスを見いだす訓練をする。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 物体の運動 ①速度の表し方 ②相対速度と速度の合成 ③加速運動の表し方 ④落下運動 ⑤放物運動 2. 力と運動(1) ①力の表し方 ②フックの法則 ③力の合成分解 ④つりあいと作用反作用	・速度をベクトルとして表現し、その加法と減法ができる。 ・変位、速度、加速度の間の基本的な計算ができる。 ・等加速度運動の考え方を落下運動に適用し、基本的な計算ができる。 ・重力下で起こる2次元の運動を適切に分解し、基本的な計算ができる。 ・力をベクトルとして表現し、加法と減法、分解を利用した計算ができる。 ・ばねモデルにもとづいて、物体の変形量と生じる力の大きさとの変換ができる。 ・力は2物体間のやりとりであることをふまえ、つりあいと作用反作用の概念を区別することができる。	【評価の観点】 ・物理事象に対する知識、観察や実験に対する技能 ・物理事象に対して科学的な思考や判断を行い、表現する力 ・主体的に物理事象と関わり、科学的に探究しようとする態度 【評価方法】 ・実験レポート ・授業ノート・宿題 ・定期考査
2 学期	3. 力と運動(2) ①運動の三法則 ②質量と重力のちがい ③運動方程式 ④斜面上の物体の力学 ⑤圧力と浮力 4. 仕事とエネルギー	・運動の三法則を、運動方程式としてまとめることができる。 ・水平運動において1物体ごとに着目し、正確に運動方程式をつくれる。 ・力の単位[N]の成り立ちをふまえ、重力が関わる運動の運動方程式を正しくつくれることができる。 ・物理学上の「仕事量」および「仕事率」	

	①仕事と仕事率 ②仕事の原理 ③運動エネルギー ④位置エネルギー ⑤エネルギーの保存 ⑥温度の表し方 ⑦内部エネルギー	を正しく表現できる。 ・運動の法則を、運動エネルギーと仕事の関係として言い換える。 ・力学的エネルギーの保存則を適用して、物体の運動を予測できる。 ・温度と熱量のちがいを説明できる。
3 学 期	5. 熱とエネルギー ①熱量・熱容量・比熱 ②潜熱 ③熱量の保存 ④熱と仕事の関係 6. 電気とエネルギー ①静電気とその正体 ②電流と電圧 ③電流の熱作用	・熱容量と比熱の概念を明確に区別し、熱量に関わる基本的な計算ができる。 ・熱量の保存を適切な式で表し、最終温度の予測ができる。 ・熱量をエネルギーの一種としてとらえ、仕事量との換算ができる。 ・静電気現象を、+-の電気の授受により説明できる。 ・オームの法則を簡単な回路に適用して、電流や電圧の計算ができる。 ・電気回路の発熱を、電流による仕事という見方でとらえ、発熱量を計算できる。

第2学年 〈理系〉 物理 (2単位)	教科書	『物理基礎』、『物理』を併用（啓林館）
	副教材	『サンダイヤル・物理基礎の基本練習』（啓林館） 『サンダイヤル・ステップアップノート物理』（啓林館）

学習到達目標

- (1) 第1学年で学んだ数学的な処理法と力学の考え方を基礎にして、より高度な力学などの法則と、その表現方法を体得する。
- (2) 波動という、自然界に広く起こる現象の性質をいろいろな角度から学び、第3学年で本格的に学ぶ「場」の考え方に入門する。
- (3) 実験を通して、自然へのより高度な問いかけ方を学び、大学進学に向けて興味関心を高める。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

学習方法

1学期間に少なくとも1～2回の実験を取り入れ、より高度な問題意識をもって自然に問かける内容と方法を習得する。また、適切な図を描いて考えることを習慣化し、基本的な法則やその公式を正しく使い分けられるように、反復訓練を意識づける。

年間シラバス（1年間の学習予定表）

学	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
---	---------	--------------	-----------

期			
1 学 期	1. 波とエネルギー ①波形と媒質の振動 ②正弦波と位相 ③縦波・横波 ④波の重ね合わせ ⑤定常波 ⑥波の反射 ⑦2次元以上の波の性質 ⑧波の干渉 ⑨音波の性質 ⑩ドップラー効果 ⑪固有振動と定常波 2. 電気とエネルギー (2) ①電流と磁界 ②電磁誘導 ③交流 ④電磁波	・波形の情報と、ある点の振動の情報とを正しく変換できる。 ・数式を用いて波動現象を表せる。 ・波の重ね合わせの作図ができる。 ・節と腹によって定常波の特徴を表現できる。 ・ホイヘンスの原理を用いた作図により、屈折や反射、回折現象を説明できる。 ・波の強め合いと弱めあいの起こる位置、およびその条件を指摘できる。 ・ドップラー効果の現象を、波長の変化という観点から説明・表現できる。 ・物体の固有振動の特徴と、それを制約する条件について、定常波の視点から説明できる。 ・電流のまわりの「磁界」や、磁石のまわりの「磁界」を磁力線で表現できる。 ・フレミングの左手の法則を正しく用いて、磁界中の電流がうける力を説明できる。また、モーターのしくみを説明できる。 ・交流や電磁波の発生のしくみを、電磁誘導によって説明できる。	【評価の観点】 ・物理事象に対する知識、観察や実験に対する技能 ・物理事象に対して科学的な思考や判断を行い、表現する力 ・主体的に物理事象と関わり、科学的に探究しようとする態度 【評価方法】 ・実験レポート ・授業ノート・宿題 ・定期考査
2 学 期	3. 物体の運動とつりあい ①力のモーメント ②力の合成と重心の考え方 ③大きさのある物体のつりあい 4. 運動量と力積 ①運動量と力積の関係 ②運動量の保存 ③反発係数 ④衝突問題とエネルギー 5. 単振動と円運動(1) ①等速円運動の表し方 ②非慣性系(慣性力)の考え方	・力のモーメントの定義を正しく数式で表せる。 ・力のモーメントの考え方をを用いて、重心の位置を正しく求めることができる。とともに、棒などの物体が静止する条件を正しく表すことができる。 ・運動方程式の時間積算として、運動量の概念をとらえることができる。 ・運動量の保存をさまざまな物理現象に正しく適用して、事後の物体の運動を予測できる。 ・力学的エネルギーの損失という観点から、衝突現象を分類・説明できる。 ・角速度などの概念を用いて、円運動を記述することができる。 ・等速円運動の運動方程式を正確につくれる。また、等速円運動が起こる条件を指摘することができる。 ・非慣性系という視点で、今まで学習してきた力学現象の方程式を書き換える。	

3 学 期	6. 単振動と円運動 (2) ③単振動の表し方 ④単振動の条件	・振幅や位相、角振動数などの概念を用いて、単振動を記述することができる。 ・単振動が起こる条件を指摘することができる。
	7. エネルギーとその利用 ①エネルギーと発電 ②原子力利用と放射線	・いろいろな発電の利点と欠点について、エネルギー効率の視点から考察できる。 ・放射線の正体を原子核の変化により説明し、安全基準など科学技術社会に必要な知識を正しく身につける。

第3学年 〈理系〉 物理 (3単位)	教科書	『物理』(啓林館)
	副教材	『サンダイヤル・ステップアップノート物理』(啓林館)

学習到達目標

- (1) 第1学年と第2学年で学んだ、力学や波動の基礎的な考え方の活かしどころを理解する。
- (2) 熱や発光といった、わたしたちの目に見えるマクロな現象と、原子レベルのミクロな世界のつながりを記述する独特な方法になじむ。
- (3) 物理学のもつ多様な側面や、それぞれの分野のつながりを知り、大学進学に向けて興味関心を広げる。
- (4) 実験や課題探究を通して、大学進学後にも通用する表現力を開発する。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

学習方法

1学期間に少なくとも2回程度の実験または課題探究を取り入れ、高度な問題意識をもって自然に問いかける内容と方法を習得するとともに、他者に正確に内容を伝える訓練をする。また、実験にしても問題演習にしても、これまでに学んできた物理学の各分野とどうつながっているかを常に意識づける。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	1. 万有引力 ①惑星の運動法則 ②万有引力 ③万有引力位置エネルギー ④万有引力下での運動	・万有引力の大きさと、その位置エネルギーを、中心天体からの距離の関数として、正しく表現できる。 ・万有引力のもとで物体や他の天体が起こす運動を、力学的エネルギー保存と、いくつかの固有な物理法則を組み合わせで予測できる。	【評価の観点】 ・物理事象に対する知識、観察や実験に対する技能 ・物理事象に対して科学的な思考や判断を行い、表現する力

	2. 気体分子の運動 ①気体分子運動論 ②気体の状態方程式 ③熱力学第一法則 ④気体の状態変化とエネルギーの収支 ⑤熱効率 ⑥不可逆変化 3. 光の性質 ①屈折率 ②光の性質 ③レンズ・鏡と像 ④ヤングの実験 ⑤光の干渉条件	・温度や圧といった目に見える熱力学的な量は、気体の分子運動がどのように表れたものかを説明できる。 ・気体の状態方程式を正しく用いて、状態変化の方向性を正しく予測できる。 ・さまざまな状態変化の前後での圧や温度のふるまいを、熱力学第一法則をふまえたエネルギー収支の視点から予測できる。 ・さまざまな熱機関の熱効率を正しく評価することができる。 ・屈折率にもとづいて、物質境界での光の進路を正しく予測できる。 ・消光や分散など、光に特有な現象の起こる原因を、偏光や屈折率など光の性質にもとづいて説明できる。 ・レンズの公式を適用して、レンズや鏡でつくられる像の情報を正確に得られる。 ・ヤングの実験装置や回折格子などによって起こる光の干渉のようすと、その条件を表現できる。	・主体的に物理事象に関わり、科学的に探究しようとする態度 【評価方法】 ・実験レポート ・授業ノート・宿題 ・定期考査 【補講】 成績不振者に対して、毎週補講を行う。
2 学 期	4. 静電気・電流 ①電界・電気力線 ②電位 ③コンデンサーの容量 ④コンデンサーの合成 ⑤電流とは ⑥電流回路の基本法則 ⑦半導体 5. 磁気・電磁誘導（1） ①磁界・磁力線 ②電流・磁界と力 ③磁界中の荷電粒子の運動 ④電磁誘導の法則 ⑤電磁誘導とエネルギー収支 ⑥自己誘導	・電界の強さと向きを、電気力線や数式によって表現できる。 ・電界と電位の関係がわかる。 ・コンデンサー上の電気のふるまいを、電界や電位の概念を用いて説明できる。 ・複数のコンデンサーを含む回路を正しく扱うことができる。 ・電気回路における2つの基本法則をやや複雑な電気回路に適用して、回路各部の電流や電位差を求めることができる。 ・半導体のしくみを電子モデルで説明し、科学技術上の応用例を挙げることができる。 ・電流や磁石のまわりの磁界の強さと向きを、磁力線や数式で表現できる。 ・磁界中にある個々の荷電粒子にはたらくローレンツ力の向きと大きさを表すことができ、フレミングの法則を説明できる。 ・電磁誘導現象を数式により表現できる。 ・エネルギー収支の視点から、電磁誘導現象を含む電流のふるまいを考察できる。	

	6. 磁気・電磁誘導 (2) ①コイルの誘導現象とその表し方 ②交流のしくみ ③交流における回路素子のふるまい ④インピーダンス ⑤電磁波	・コイルが含まれている回路のふるまいを説明できる。 ・交流発生 of しくみを、電磁誘導にもとづき、数式を用いながら説明できる。 ・交流回路におけるコイルとコンデンサーの抵抗としてのふるまいを、インピーダンスという形で表現できる。 ・電磁波の発生と伝播のしくみを電磁誘導にもとづいて説明できる。
3 学期	7. 原子物理入門 ①陰極線 ②比電荷 ③光電効果と光子の考え方 ④X線の散乱 ⑤粒子の波動性 ⑥原子モデルによるスペクトルの説明 ⑦原子崩壊と放射線 ⑧原子核の物理	・電子が1個の不可分な粒子であることを、比電荷の測定実験結果から説明できる。 ・光を粒子の集まりとみなして、光電効果の特徴を説明できる。 ・粒子としての運動量を波長に換算して、散乱など波としてのふるまいを説明できる。 ・水素原子のボーアモデルにもとづき、水素原子に固有な光の波長を説明できる。 ・放射線の正体を説明でき、原子核の変化や、一定期間経過後の核数を予測できる。

《 化学 》

第1学年	教科書	化学基礎 (啓林館)
化学基礎 (2単位)	副教材	サンダイヤル 化学基礎の基本マスター新訂版 (啓林館)

学習到達目標

- (1) 自然界を形づくっている物質の成り立ちを、原子の構造より明らかにする。
- (2) 物質を定量的に扱う方法を理解する。
- (3) 目的意識を持って観察や実験などを行い、科学的に探求する力を育て、科学的な見方や考え方を養う。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

学習方法

書き込み式のプリントを用いて授業を行う。授業で行った内容について、自宅でもしっかり復習することが大切である。問題集は、授業時に解説する機会はありませんが、定期考査では問題集から一定量出題するので、各自で取り組むこと。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 物質の構成 ①原子とイオン ②周期表 ③化学結合 2. 物質の変化 ①原子量・分子量・式量 ②質量	- 原子、イオンの構造について理解する。 - 原子の周期的な性質の変化が、原子の構造に基づくことを理解する。 - イオンの生成を電子配置と関連づけて理解する。 - イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解する。 - 金属結合及び金属の性質を理解する。 - 共有結合を電子配置と関連づけて理解する。 - 分子からなる物質の性質を理解する。 - 物質の質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。	【評価の観点】 - 化学の基本的な概念や原理・法則に対する知識、観察や実験に対する技能 - 化学的な事象に対して科学的な思考や判断を行い、表現する力 - 主体的に物質の構成や物質の変化に関わり、観察・実験などを通して、科学的に探究しようとする態度
2 学期	③化学反応式 3. 酸と塩基 ①酸と塩基 ②水の電離とpH ③中和反応と塩	- 化学反応式を立てられるようにする。 - 化学反応式を使って、物質の変化量を計算できるようにする。 - 酸と塩基の性質及び中和反応について理解する。 - 中和反応での量的関係を理解する。 - pHの定義及びpHと水素イオン濃度、水の電離との関係について理解する。 - 中和滴定実験の原理、操作を理解する。 - 反応する塩の強弱と、生成する塩の性質との関係を理解する。	【評価方法】 - 実験レポート - 授業ノート・宿題 - 定期考査【補講】
3 学期	4. 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤 ③金属の酸化還元反応	- 酸化還元反応が、電子の授受によることを理解する。 - 酸化還元反応を、酸化数の増減によって説明できる。 - 酸化剤、還元剤の反応式から、全反応式がつくれる。 - 酸化還元滴定実験の原理、操作法を理解する。 - 金属において、イオン化傾向の違いから、反応性に違いが生じることを理解する。	

第2学年 〈理系〉 化学 (2単位)	教科書	化学 (啓林館)
	副教材	センサー化学 (啓林館)

学習到達目標

- (1) 「化学基礎」の学習を踏まえ、さらに詳しく物質の性質や変化を構造や、結合、エネルギーなどと関連付けて理解する。
- (2) 身近にある薬品や、工業・産業を支えている物質についても扱い、日常生活や社会に物質の性質がどのように生かされているかを理解する。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

学習方法

1 年次と同様、書き込み式のプリントを用いて授業を行う。授業で行った内容について、自宅でもしっかり復習することが大切である。問題集は、授業時に解説する機会はあまり取らないが、定期考査では問題集から一定量出題するので、各自で取り組むこと。

年間シラバス（1 年間の学習予定表）

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 物質の変化 ①電気分解と電池	- 電気分解反応の原理を理解し、その反応に関与した物質の変化量と電気量の関係を理解する。 - 電池は、酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出す仕組みであることを理解する。	【評価の観点】 - 化学の基本的な概念や原理・法則に対する知識、観察や実験に対する技能 - 化学的な事象に対して科学的な思考や判断を行い、表現する力 - 主体的に物質の構成や物質の変化と関わり、観察・実験などを通して、科学的に探究しようとする態度 【評価方法】 - 実験レポート - 授業ノート・宿題 - 定期考査
2 学期	2. 有機化合物 ①有機化合物とは ②脂肪族炭化水素 ③酸素を含む脂肪族炭化水素 ④芳香族炭化水素	- 有機化合物と無機化合物の分類、相違点について理解する。 - 脂肪族炭化水素の性質や反応を、構造と関連づけて理解する。 - 官能基をもつ脂肪族炭化水素化合物の性質や反応について理解する。 - 芳香族炭化水素の構造、性質及び反応について理解する。	
3 学期	3. 物質の変化 ①熱化学方程式	- 化学反応における熱や光の発生・吸収は、反応前後における物質の持つ化学エネルギーの差から生じることを理解する。 - 熱化学方程式を立てられるようにする。	

第3学年 〈理系〉 化学 (3単位)	教科書	化学（啓林館）
	副教材	センサー化学（啓林館）

学習到達目標

- (1) 2 学年の「化学」の学習に引き続き、無機化合物、高分子化合物を扱い、日常生活や社会にこれらの物質の性質がどのように生かされているかを理解する。
- (2) 大学へつながる高度な内容にも触れ、科学の基本概念、原理や法則を「活用する」能力を身につける。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
--	-------	----------	--------------

評価規準	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
------	--	--	--

学習方法

2年次と同様、書き込み式のプリントを用いて授業を行う。授業で行った内容について、自宅でもしっかり復習することが大切である。問題集は、授業時に解説する機会はあまり取らないが、定期考査では問題集から一定量出題するので、各自で取り組むこと。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 無機化合物 ①非金属元素と周期表 ②典型金属元素 ③遷移元素 2. 物質の状態 ①物質の状態変化 ②気体の性質 ③固体の構造 ④液体の性質	・典型元素の単体と化合物の性質や反応を周期表と関連づけて理解する。 ・遷移元素の単体と化合物の性質や反応について理解する。 ・物質の沸点や融点を分子間力や化学結合と関連づけて理解する。 ・気体の体積と圧力や温度との関係を理解する。 ・結晶格子の概念及び結晶の構造を理解する。 ・溶解の仕組みを理解する。 ・溶解度と溶解平衡を関連づけて理解する。 ・コロイド溶液の性質について理解する。	【評価の観点】 ・化学の基本的な概念や原理・法則対する知識、観察や実験に対する技能 ・化学的な事象に対して科学的な思考や判断を行い、表現する力 ・主体的に物質の構成や物質の変化と関わり、観察・実験などを通して、科学的に探究しようとする態度
2 学期	3. 物質の変化と平衡 ①反応速度 ②化学平衡 ③電離平衡 4. 高分子化合物	・反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解する。 ・可逆反応、化学平衡及び化学平衡の移動を理解する。 ・水のイオン積、pH及び弱酸、弱塩基の電離平衡について理解する。 ①高分子化合物とは ②合成高分子化合物 ③天然高分子化合物 ・合成高分子化合物の構造、性質及び合成について理解する。 ・天然高分子化合物の構造や性質について理解する。	【評価方法】 ・実験レポート ・授業ノート・宿題 ・定期考査
3 学期	5. 大学へ向けて	・理系進学者に必要な「考える化学」を学ぶ。	

《 生物 》

第2学年	教科書	生物基礎 （第一学習社）
生物基礎 （2単位）	副教材	セミナー生物 、スクエア最新図説生物 （ともに第一学習社）

学習到達目標

- （1）「バイオームの多様性と分布」では、世界に数種類あるバイオームについて理解し、自然といわれるものの違いを理解する。
- （2）「生物の特徴」については、生物の体が細胞できていることを念頭に、様々な現象を理解する。また、「遺伝子とその働き」ではまず DNA についての理解を深める。その後細胞分裂についての理解へと進んでいく。このとき、細胞内での分子の働きをしっかりと理解する。
- （3）「生物の体内環境」では、我々自身の体についての理解を深めるとともに、発展的な内容として神経について詳しく学習するので、あわせてしっかりと理解すること。
- （4）「生態系とその保全」については、生態系についての理解を深め、保全する価値について十分理解できるようにする。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

学習方法

生物基礎の教科書に基づき、それぞれの単元について適当な実験や観察を行ない、学習内容についての理解を深める。適宜授業内容を補うプリントの配布や、図説を用いる。また、試験前には問題集の利用を促す。

年間シラバス （1年間の学習予定表）

【生物基礎】

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	1. バイオームの多様性と分布	・校内にみられる樹木の特徴を学習し、それらの樹木が本来所属するバイオームの特徴について理解する。 ・校内に見られる様々な植生から、遷移についての理解を深める。 ・校内樹木の観察を行う。	【評価観点】 ・生物現象について関心・意欲・態度 ・生物現象に対する観察・実験 ・生物現象に対する知識理解、基本的な概念や原理・法則の理解 【評価方法】 ・実験レポート ・授業ノート・宿題 ・定期考査
	2. 生物の特徴特に細胞について	・ミトコンドリア、葉緑体、核、リボソーム、膜などの細胞の構造を学ぶとともに、原核細胞、真核細胞について理解を深める。 ・原核細胞と真核細胞の観察を行う。	
	3. 遺伝子とその働き・DNAについて	・DNAの構造やセントラルドグマについて学習し、タンパク質合成について理解する。 ・一塩基多型とゲノムについて学習し、細胞内での遺伝子発現について理解す	

		る。 ・DNAの抽出実験およびアカムシの唾腺染色体の観察を行う。	
2 学 期	1. 遺伝子とその働き・細胞分裂について 2. 生物の体内環境	・分子生物学の観点から体細胞分裂と減数分裂について学習し、細胞周期や配偶子形成を理解する。 ・受精後に起こる初期発生についても発展的に学習する。 ・ニワトリ胚の観察を行う。 ・体液に関する恒常性の維持と生体防御について理解する。 ・骨髄の観察を行う。	
3 学 期	3. 生物の体内環境 4. 生態系とその保全	・神経系について学習し、自律神経やホルモンによる調節について理解する。 ・ハマグリの神経伝達物質について実験を行う ・生態系の生物について学習し、環境保全について理解する。	

第3学年 〈理系〉 生物 (3単位)	教科書	生物 (第一学習社)
	副教材	セミナー生物、スクエア最新図説生物 (ともに第一学習社)

学習到達目標

- (1) 各単元について、理系選択であることを考慮し、十分な理解を求める。具体的には、問題集の基本レベルにとどまらず、発展レベルまでの理解を求める。
- (2) 各実験については十分な考察ができるレベルとなること。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

学習方法

生物の教科書に基づき、それぞれの単元について適当な実験や観察を行ない、学習内容についての理解を深める。適宜授業内容を補うプリントの配布や、図説を用いる。また、試験前には問題集の利用を促す。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
--------	---------	--------------	-----------

1 学 期	1. 細胞と分子	・細胞の構成物質や小器官について分子レベルで学習し、その働きを理解する。	【評価観点】 ・生物現象について関心・意欲・態度 ・生物現象に対する観察・実験 ・生物現象に対する知識理解、基本的な概念や原理・法則の理解 【評価方法】 ・実験レポート ・授業ノート・宿題 ・定期考査
	2. 代謝	・光合成および化学合成、呼吸について学習し、代謝について理解する。 ・光合成色素についての実験を行う。	
	3. 動物の発生	・ウニやカエルの初期発生から、胚葉の分化や器官形成、体軸の決定などを学習し、動物発生について理解する。	
	4. 植物の発生	・植物の配偶子形成と胚発生について学習し、器官の分化を理解する。 ・花粉の発芽実験を行う。	
2 学 期	5. 植物の環境応答	・植物ホルモンやフィトクローム、フロリゲンなどについて学習し、植物の環境応答について理解する。 ・レタスの光発芽実験を行う。	
	6. 動物の反応と行動	・耳や眼などの受容器と筋肉などの効果器について学習する。 ・動物の行動や、学習について学習し、動物の反応や行動について理解する。 ・ナメクジの学習実験を行う。	
	7. 個体群と生物群集	・個体群動態やメタ個体群について学習し、包括適応度や生物群集について理解する。	
	8. 生物の進化	・共進化や分子進化について学習し、生物の多様性と進化について理解する。	
3 学 期	9. 生物の系統	・五界説とドメインについて学習し、生物の系統を理解する。	

《 地学 》

第3学年	教科書	なし
地学と防災 (1単位)	副教材	ニューステージ地学図表 (浜島書店)

学習到達目標

- (1) 災害を引き起こす自然現象の特性と発生メカニズムを理解し、説明できる。
- (2) 地形図、地質図等に含まれる情報を正しく読み取り、活用できる。
- (3) 自身の生活地域の地形・地質を把握し、起こりうる災害の種類と特性を推測できる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
--	-------	----------	--------------

評価規準	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
------	---	--	---

学習方法

書き込み式のプリントを用いて授業を行う。また、随所で情報機器を用いて、地形図・地質図など、公開されている様々な図を閲覧・活用する。さらに、自然現象の特性やメカニズムを理解するための演習・実習を取り入れる。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	地形学的アプローチ ①地形図、各種情報図 ②地形の種類と成因 ③災害の種類と特徴 ④各種地形の災害リスク ⑤生活地域の災害リスク	・各種の図の特徴を理解し、目的に応じて使い分けられる。 ・土地をつくる地形の成因と特徴を理解する。 ・災害を引き起こす自然現象の発生メカニズムと特性を理解する。 ・それぞれの地形に潜む災害リスクを把握する。 ・自分が生活する地域で起こりうる災害の種類と特性を推測し、説明できる。	【評価の観点】 ・自然現象に対する知識、観察や実験に対する技能 ・自然現象に対して科学的な思考や判断を行い、表現する力 ・主体的に自然現象と関わり、科学的に探究しようとする態度 【評価方法】 ・実習レポート ・課題 ・定期考査
2 学期	地質学的アプローチ ①火成岩の風化作用 ②リニアメントと断層 ③プレート運動と地震 ④地層の堆積と続成作用 ⑤近畿の地殻変動 ⑥大阪地域の地質	・風化による地盤特性の変化を理解する。 ・活断層の位置とずれを読み取ることができる。 ・プレート運動による地震の分布と発生メカニズムを理解する。 ・続成作用と地盤の強度の関係を調べる。 ・近畿地方の形成史を理解する。 ・大阪地域の地質構造と地盤の強度との関係を理解する。	
3 学期	気象学的アプローチ ①水害の種類 ②積乱雲の発達 ③大雨の種類と特徴 ④停滞前線	・水害の種類を知り、場所に応じた危険性を予測できる。 ・積乱雲の発生と発達のメカニズムを理解する。 ・局地的大雨と集中豪雨の違いを理解する。 ・停滞前線に伴う豪雨災害の実例を知る。	

高等学校 英語科 シラバス

3年間のねらい、学習目標

英語によるコミュニケーションを行うための力を育成する。具体的には英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る素質・能力を育成することを目指す。

第1学年

【1】英語コミュニケーションⅠ（4単位）

【2】論理と表現Ⅰ（2単位）

第1学年	教科書	検定教科書
英語コミュニケーションⅠ （4単位）	副教材	後日案内

学習方法

- ・英語コミュニケーションⅠでは、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の4技能5領域の力を育成することを目的とします。聞いたり読んだりしたことについての内容や、自分の考えを話したり書いたりする言語活動を行います。
- ・学習していく語彙や文法は、実際のコミュニケーションではどのように使われるのかを意識しながら取り組んでください。

学習到達目標

聞くこと	読むこと	話すこと （やり取り）	話すこと （発表）	書くこと
・日常的に必要な事柄について、内容を聞き取ることができる。 ・自分自身や家族、学校など身の回りのことに関する会話や説明を聞き、イラストや写真などを参考にしながら理解できる。	・基本的な語彙や文法事項の知識を使って、簡単な文章を理解できる。 ・身近な事柄について書かれた文章をイラストや写真などを参考にしながら内容を理解できる。 ・自分の調べたい事柄について、おおまかな内容と要点が理解できる。	・自分のことや身近なことを、基本的な文を使って相手に理解してもらえる。 ・相手の言っていることが理解できないときに、簡単な表現で相手に質問ができる。 ・相手の言ってきたことに対して、自分の考えを簡単に述べることができる。	・自分の調べたことに対して、内容を踏まえて基本的な文章で発表できる。 ・聞き手にわかりやすいように伝えることができる。 ・聞き手からの質問に対して、簡単な答えを述べることができる。	・自分のことや身近なことに対して、自分の書きたいことを基本的な文法や語彙を使って書くことができる。 ・読み手に、自分が伝えたい内容を簡単な文章で書くことができる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	基本的な英語の音声・語彙・表現・文法などの理解を深め、これらの知識を実際のコミュニケーション（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）に生かすことができる技能を身につけている。	身につけた英語の知識や技能を用いて、目的や状況に応じた基本的な対応ができ、話し手や書き手の意図をおおまかに理解できる。また、それに対しての自分の考えを簡単に述べるができる。	・基本的な文法や表現などを積極的に身につけて、自分の考えを簡単な英語で表現しようとする意欲がみられる。 ・話し手や書き手の意図をしつかりと理解しようとする姿勢がみられる。

年間シラバス 英語コミュニケーションⅠ（1年間の学習予定表）＊詳細は担当者から後日連絡

学	教	領域	学習のポイントと到達目標	評価方法
---	---	----	--------------	------

期	材			
通年	検定教科書・副教材など	聞くこと	a. 基本的な語彙や表現を聞き取ることができ、話し手の意図や話の内容を大まかに理解できる。 b. 基本的な文章や会話を聞き、内容を理解して、そのことについての自分の考えを持てる。 c. 話されている内容を積極的に聞こうとする姿勢が見られる。	定期考査（リスニング） 授業での取り組み 小テスト・提出物など
		読むこと	a. 基本的な語彙や文法事項の知識を身につけて、簡単な文章を理解できる。 b. 身近な事柄について書かれた文章をイラストや写真などを参考にしながら内容を理解でき、自分の考えを持つことができる。 c. 書き手の意図や文章の内容を積極的に理解しようとする姿勢が見られる。	定期考査（リーディング） 授業での取り組み 小テスト・提出物など
		話すこと（やり取り）	a. 自分のことや身近なことを述べるために、基本的な語彙や文法を身につけ、相手に述べるができる。 b. 基本的な表現を使い、相手の言ったことに対して自分の考えを述べるができる。 c. 基本的な語彙や表現を用いて、相手に伝えようとする姿勢が見られる。	授業での取り組み ペアワーク スピーキングテストなど
		話すこと（発表）	a. 自分の調べたことに対して、相手に伝えるための基本的な語彙や文法を身につけている。 b. 基本的な語彙や表現を用いて、相手に自分の考えを伝えることができる。 c. 基本的な語彙や表現を使い、相手に自分の考えを伝えようとする積極的な姿勢が見られる。	授業での取り組み ペアワーク プレゼンテーションなど
		書くこと	a. 自分のことや身近なことに対して書くための、基本的な文法や語彙を身につけている。 b. 基本的な語彙や表現を用いて、読み手に自分の考えを伝えることができる。 c. 基本的な語彙や表現を用いて、読み手に自分の考えを伝えようとする積極的な姿勢が見られる。	定期考査（ライティング） レポート 授業での取り組みなど

第1学年 論理と表現Ⅰ (2単位)	教科書	検定教科書
	副教材	後日案内

学習方法

- ・論理と表現では、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の4技能5領域の力を、探究学習を通じて育成することを目的とする。ディスカッションによって、テーマについての意見を相手に伝えられるようになり、自らの興味関心のある分野に知識を深め、作文やプレゼンテーションで表現します。
- ・学習していく語彙や文法は、実際のコミュニケーションではどのように使われるのかを意識しながら取り組んでください。また、情報収集のスキルを身に付け、論理的に意見をまとめる力をつけさせます。

学習到達目標

聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
・身近なテーマについての必要な事柄、内容を聞き取ることができる。 ・自分自身や家族、	・テーマ学習に必要な語彙や文法事項の知識を使って、簡単な文章を理解できる。	・自分のことや身近なことを、基本的な文法を使って相手に理解してもらえる。	・自分の調べたことに対して、内容を踏まえて基本的な文章で発表できる。	・自分のことや身近なことに対して、自分の書きたいことを基本的な文法や語彙を使っ

学校など身の回りのことに関する会話や説明を聞き、イラストや写真などを参考にしながら理解できる。	・身近な事柄について書かれた文章をイラストや写真などを参考にしながら内容を理解できる。 ・自分の調べたい事柄について、おおまかな内容と要点が理解できる。	・相手の言っていることが理解できないときに、簡単な表現で相手に質問ができる。 ・相手の言ってきたことに対して、自分の考えを簡単に述べることができる。 ・グループワークに必要な助言、反応ができる。	・聞き手にわかりやすいように伝えることができる。 ・聞き手からの質問に対して、簡単な答えを述べることができる。 ・グループ活動で役割分担ができる。 ・効果的なプレゼンテーションに必要なスキルを身につける。	・書くことができる。 ・読み手に、自分が伝えたい内容を簡単な文章で書くことができる。 ・論理的に意見を述べることができる。 ・効果的なプレゼンテーションをするために必要な原稿を書くことができる。
---	---	---	---	--

評価の観点

	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	基本的な英語の音声・語彙・表現・文法などの理解を深め、これらの知識を実際のコミュニケーション（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）に生かすことができる技能を身につけている。	身につけた英語の知識や技能を用いて、目的や状況に応じた基本的な対応ができ、話し手や書き手の意図をおおまかに理解できる。また、それに対しての自分の考えを簡単に述べることができる。	・基本的な文法や表現などを積極的に身につけて、自分の考えを簡単な英語で表現しようとする意欲がみられる。 ・話し手や書き手の意図をしつかりと理解しようとする姿勢がみられる。

年間シラバス 論理と表現Ⅰ （1年間の学習予定表）＊詳細は担当者から後日連絡

学期	教材	領域	学習のポイントと到達目標	評価方法
通年	検定教科書・副教材など	聞くこと	a. 基本的な語彙や表現を聞き取ることができ、話し手の意図や話の内容を大まかに理解できる。 b. 基本的な文章や会話を聞き、内容を理解して、そのことについての自分の考えを持てる。 c. 話されている内容を積極的に聞こうとする姿勢が見られる。	定期考査（リスニング） 授業での取り組み 小テスト・提出物など
		読むこと	a. 基本的な語彙や文法事項の知識を身につけて、簡単な文章を理解できる。 b. 身近な事柄について書かれた文章をイラストや写真などを参考にしながら内容を理解でき、自分の考えを持つことができる。 c. 書き手の意図や文章の内容を積極的に理解しようとする姿勢が見られる。	定期考査（リーディング） 授業での取り組み 小テスト・提出物など
		話すこと（やり取り）	a. 自分のことや身近なことを述べるために、基本的な語彙や文法を身につけ、相手に述べるができる。 b. 基本的な表現を使い、相手の言ったことに対して自分の考えを述べるができる。 c. 基本的な語彙や表現を用いて、相手に伝えようとする姿勢が見られる。	授業での取り組み ペアワーク、グループワーク スピーキングテストなど
		話すこと（発表）	a. 自分の調べたことに対して、相手に伝えるための基本的な語彙や文法を身につけている。 b. 基本的な語彙や表現を用いて、相手に自分の考えを伝えることができる。 c. 基本的な語彙や表現を使い、相手に自分の考えを伝えようとする積極的な姿勢が見られる。	授業での取り組み ペアワーク プレゼンテーションなど
		書くこと	a. 自分のことや身近なことに対して書くための、基本的な文法や語彙を身につけている。	定期考査（ライティング）

		b. 基本的な語彙や表現を用いて、読み手に自分の考えを伝えることができる。 c. 基本的な語彙や表現を用いて、読み手に自分の考えを伝えようとする積極的な姿勢が見られる。	レポート 授業での取り組み など
--	--	---	------------------------

第2学年

(文理共通) 【1】英語コミュニケーションⅡ (3時間) 【2】論理と表現Ⅱ (2時間)

(文系のみ) 【3】英語特論A (2時間)

第2学年	教科書	検定教科書
英語コミュニケーションⅡ (3単位)	副教材	後日案内

学習方法

- ・英語コミュニケーションⅡでは、昨年度に続いて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の4技能5領域を扱い、さらに伸ばすことを目的とします。引き続き、聞いたり読んだりしたことについての内容を理解したり、自分の考えを話したり書いたりする言語活動を行います。
- ・学習していく語彙や文法は、これまでに学んだことの復習も含め、実際のコミュニケーションでどのように使われるのか、また目的に応じた使い方を意識しながら取り組んでください。

学習到達目標

聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
・身近なトピックについて内容を聞き、自分に必要な情報を理解することができる。 ・英文を聞き、イラストや写真、資料などを参考にしながら内容を理解できる。	・学んできた語彙や文法事項の知識を使って、様々な文章を理解できる。 ・様々なテーマについて書かれた文章や物語などをイラストや写真、資料などを参考にしながら内容を理解できる。 ・自分の調べたい事柄について必要な情報を理解し、要点が整理できる。	・自分のことや身近なこと、興味関心のあるテーマについて、様々な表現を使って相手にわかりやすく理解してもらえらる。 ・相手の言っていることが理解できないときに、様々な表現で相手に質問ができる。 ・相手の言ってきたことに対して、自分の考えをわかりやすく述べるることができる。	・自分の調べたことに対して、内容を踏まえて様々な表現でわかりやすく発表できる。 ・聞き手にわかりやすいように、内容の軽重も考えながら伝えることができる。 ・聞き手からの質問に対して、答えを相手にわかりやすく述べることができる。	・身近なトピックについて、自分の書きたいことを学んできた語彙や表現を使って書くことができる。 ・読み手に、自分が伝えたい内容をわかりやすい文章で書くことができる。

評価の観点

	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	学んできた英語の音声・語彙・表現・文法などの理解をさらに深め、実際のコミュニケーション（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）に生かすことができる技能を身につけている。	これまでに身につけた英語の知識や技能を用いて、目的や状況に適した対応ができ、話し手や書き手の意図を理解できる。また、それに対しての自分の考えを相手にわかりやすく述べるることができる。	・学んできた文法や表現などを用いて、自分の考えを英語でわかりやすく表現しようとする意欲がみられる。 ・話し手や書き手の意図をしっかりと理解しようとする姿勢がみられる。

年間シラバス 英語コミュニケーションⅡ (1年間の学習予定表) *詳細は担当者から後日連絡

学期	教材	領域	学習のポイントと到達目標	評価方法
通年	検定教科書・副教材など	聞くこと	a.様々な語彙や表現を聞き取ることができ、話し手の意図や話の内容を理解できる。 b.身近なトピックに関する文章や会話を聞き、イラストなども参考にしながら内容を理解して、そのことについての自分の考えを持てる。 c.話されている内容を積極的に理解しようとする姿勢が見られる。	定期考査（リスニング） 授業での取り組み 小テスト・提出物など
		読むこと	a.様々な語彙や文法の知識を身につけて、いろんな種類の文章を理解できる。 b.身近なトピックに関する文章をイラストや写真などを参考にしながら内容を理解でき、自分の考えを持つことができる。 c.書き手の意図や文章の内容を積極的に理解しようとする姿勢が見られる。	定期考査（リーディング） 授業での取り組み 小テスト・提出物など
		話すこと（やり取り）	a.自分のことや身近なことを述べるために、基本的な語彙や表現を身につけ、相手に述べるができる。 b.基本的な表現を使い、相手の言ったことに対して自分の考えを述べるができる。 c.基本的な語彙や表現を用いて、相手に伝えようとする姿勢が見られる。	授業での取り組み ペアワーク スピーキングテストなど
		話すこと（発表）	a.自分の調べたことに対して、相手に伝えるための様々な語彙や文法を身につけている。 b.様々な語彙や表現を用いて、相手に自分の考えをわかりやすく伝えることができる。 c.様々な語彙や表現を使い、相手に自分の考えをわかりやすく伝えようとする積極的な姿勢が見られる。	授業での取り組み ペアワーク プレゼンテーションなど
		書くこと	a.身近なトピックについて書くための、様々な語彙や表現を身につけている。 b.様々な語彙や表現を用いて、読み手に自分の考えをわかりやすく伝えることができる。 c.様々な語彙や表現を用いて、読み手に自分の考えをわかりやすく伝えようとする積極的な姿勢が見られる。	定期考査（ライティング） レポート 授業での取り組みなど

第2学年 論理と表現Ⅱ (2単位)	教科書	検定教科書
	副教材	後日案内

学習方法

- ・論理と表現では、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の4技能5領域の力を、探究学習を通じて育成することを目的とします。ディスカッションによって、テーマについての意見を相手に伝えられるようになり、自らの興味関心のある分野に知識を深め、作文やプレゼンテーションで表現します。
- ・学習していく語彙や文法は、実際のコミュニケーションではどのように使われるのかを意識しながら取り組んでください。また、情報収集のスキルを身に付け、論理的に意見をまとめる力をつけさせます。

学習到達目標

聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
・グローバルなテーマについての必要な事柄、内容を聞き取ることができ	・テーマ学習に必要な語彙や文法事項の知識を使って、簡単な文章を	・自分のことや身近なことを、基本的な文を使って相手に理解してもら	・自分の調べたことに対して、内容を踏まえて基本的な文章で発表でき	・自分のことや身近なことに対して、自分の書きたいことを基本的な

ける。 ・自分自身や家族、学校など身の回りのことに関する会話や説明を聞き、イラストや写真などを参考にしながら理解できる。 ・情報収集のために知識を得ることができる。	理解できる。 ・身近な事柄について書かれた文章をイラストや写真などを参考にしながら内容を理解できる。 ・自分の調べたい事柄について、おおまかな内容と要点が理解できる。	える。 ・相手の言っていることが理解できないときに、簡単な表現で相手に質問ができる。 ・相手の言ってきたことに対して、自分の考えを簡単に述べることができる。 ・共有作業に必要な助言、反応ができる。	る。 ・聞き手にわかりやすいように伝えることができる。 ・聞き手からの質問に対して、簡単な答えを述べることができる。 ・グループ活動で役割分担ができる。 ・効果的なプレゼンテーションに必要なスキルを身につける。	文法や語彙を使って書くことができる。 ・読み手に、自分が伝えたい内容を簡単な文章で書くことができる。 ・論理的に意見が述べることができる。 ・効果的なプレゼンテーションをするために必要な原稿を書くことができる。
--	---	---	---	--

評価の観点

	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	基本的な英語の音声・語彙・表現・文法などの理解を深め、これらの知識を実際のコミュニケーション（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）に生かすことができる技能を身につけている。	身につけた英語の知識や技能を用いて、目的や状況に応じた基本的な対応ができ、話し手や書き手の意図をおおまかに理解できる。また、それに対しての自分の考えを簡単に述べることができる。	・基本的な文法や表現などを積極的に身につけて、自分の考えを簡単な英語で表現しようとする意欲がみられる。 ・話し手や書き手の意図をしつかりと理解しようとする姿勢がみられる。

年間シラバス 論理と表現Ⅱ（1年間の学習予定表）＊詳細は担当者から後日連絡

学期	教材	領域	学習のポイントと到達目標	評価方法
1 学期	検定教科書・副教材など	聞くこと	a. 基本的な語彙や表現を聞き取ることができ、話し手の意図や話の内容を大まかに理解できる。 b. 基本的な文章や会話を聞き、内容を理解して、そのことについての自分の考えを持てる。 c. 話されている内容を積極的に聞こうとする姿勢が見られる。	定期考査（リスニング） 授業での取り組み 小テスト・提出物など
		読むこと	a. 基本的な語彙や文法事項の知識を身につけて、簡単な文章を理解できる。 b. 身近な事柄について書かれた文章をイラストや写真などを参考にしながら内容を理解でき、自分の考えを持つことができる。 c. 書き手の意図や文章の内容を積極的に理解しようとする姿勢が見られる。	定期考査（リーディング） 授業での取り組み 小テスト・提出物など
		話すこと（やり取り）	a. 自分のことや身近なことを述べるために、基本的な語彙や文法を身につけ、相手に述べるができる。 b. 基本的な表現を使い、相手の言ったことに対して自分の考えを述べるができる。 c. 基本的な語彙や表現を用いて、相手に伝えようとする姿勢が見られる。	授業での取り組み ペアワーク、グループワーク スピーキングテストなど
		話すこと（発表）	a. 自分の調べたことに対して、相手に伝えるための基本的な語彙や文法を身につけている。 b. 基本的な語彙や表現を用いて、相手に自分の考えを伝えることができる。 c. 基本的な語彙や表現を使い、相手に自分の考えを伝えようとする積極的な姿勢が見られる。	授業での取り組み ペアワーク プレゼンテーションなど
		書くこと	a. 自分のことや身近なことに対して書くための、基本的	定期考査

		な文法や語彙を身につけている。 b. 基本的な語彙や表現を用いて、読み手に自分の考えを伝えることができる。 c. 基本的な語彙や表現を用いて、読み手に自分の考えを伝えようとする積極的な姿勢が見られる。	(ライティング) レポート 授業での取り組み など
--	--	--	------------------------------------

第2学年 (文系) 英語特論A (2単位)	教科書	検定教科書
	副教材	後日案内

学習方法

- ・英語特論Aでは、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱや論理と表現Ⅰ・Ⅱで学んできたことを踏まえて、様々な教材を用いながら「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」の4技能5領域をさらに伸ばし、文法事項の復習・応用も学習しつつ、実際のコミュニケーションの場面で応用できる力を育成することを目的とします。
- ・英語多読用の本なども用いて、4技能5領域の力の伸長を図ります。目標としているスコアの取得や検定の合格を目指す取り組みも行います。

学習到達目標

聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
・身近な内容のトピックや簡単な海外のニュースなどを聞き、自分に必要な情報を理解することができる。 ・英文を聞き、イラストや写真、資料などを参考にしながら内容を理解できる。	・学んできた語彙や文法事項の知識を整理し、様々なレベルの文章を理解できる。 ・幅広いテーマについて書かれた文章や物語などを、書き手の心情にも触れながら内容を理解できる。 ・目的に応じた読み方ができ、必要な情報を理解し、要点が整理できる。	・幅広いテーマについて、様々な表現を使って相手にわかりやすく理解してもらえる。 ・相手の言っていることが理解できないときに、的確な表現で相手に質問ができる。 ・相手の言ってきたことに対して、自分の考えをわかりやすく的確に述べることができる。	・取り組んでいるトピックについて、要点をおさえながら、様々な表現で的確に発表できる。 ・聞き手にわかりやすいように、展開も考えながら伝えることができる。 ・聞き手からの質問に対して、答えを相手にわかりやすく述べることができる。	・取り組んでいるトピックについて、自分の書きたいことを的確な語彙や表現を使って書くことができる。 ・読み手に、自分が伝えたい内容をわかりやすい文章で的確に書くことができる。

評価の観点

	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	英語の音声・語彙・表現・文法などの理解をさらに深め、実際のコミュニケーション(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)に生かすことができる技能を身につけている。	身につけた英語の知識や技能を用いて、様々なトピックについて内容の把握や話し手や書き手の意図を理解でき、それに対しての自分の考えを相手にわかりやすく的確に述べるができる。	・取り組んでいるトピックについて、その内容をしっかりと理解し、自分の考えを組み立てようとする姿勢が見られる。 ・資格取得のための学習に積極的に励んでいる。

年間シラバス 英語特論A (1年間の学習予定表) *詳細は担当者から後日連絡

学期	教材	領域	学習のポイントと到達目標	評価方法
通年	指定	聞くこと	a. 取り組んでいるトピックに関する語彙や表現を聞き取ることができ、話し手の意図や話の内容をおおまかに	定期考査(リスニング)

された教科書・副教材など		理解できる。 b.取り組んでいるトピックを聞き、資料なども参考にしながらその内容を理解して、そのことについての自分の考えを持てる。 c.話されている内容を積極的に理解しようとする姿勢が見られる。	授業での取り組み 小テスト・提出物など
	読むこと	a.取り組んでいるトピックに関する語彙や表現・文法の知識を身につけて、いろんな種類の文章を理解できる。 b.取り組んでいるトピックに関する文章をイラストや写真なども参考にしながら内容を理解でき、自分の考えを持つことができる。 c.書き手の意図や文章の内容を積極的に理解しようとする姿勢が見られる。	定期考査（リーディング） 授業での取り組み 小テスト・提出物など
	話すこと（やり取り）	a.取り組んでいるトピックについての基本的な語彙や表現を身につけ、相手に述べることができる。 b.目的に応じた表現を使い、相手の言ったことに対して自分の考えを述べることができる。 c.目的に応じた語彙や表現を用いて、相手に伝えようとする姿勢が見られる。	授業での取り組み ペアワーク スピーキングテストなど
	話すこと（発表）	a.取り組んでいるトピックに対して、相手に伝えるための様々な語彙や文法を身につけている。 b.目的に応じた語彙や表現を用いて、相手に自分の考えをわかりやすく伝えることができる。 c.目的に応じた語彙や表現を使い、相手に自分の考えをわかりやすく伝えようとする積極的な姿勢が見られる。	授業での取り組み ペアワーク プレゼンテーションなど
	書くこと	a.取り組んでいるトピックについて書くための、様々な語彙や表現を身につけている。 b.目的に応じた語彙や表現を用いて、読み手に自分の考えをわかりやすく伝えることができる。 c.目的に応じた語彙や表現を用いて、読み手に自分の考えをわかりやすく伝えようとする積極的な姿勢が見られる。	定期考査（ライティング） レポート 授業での取り組みなど

第3学年

(文理共通) 【1】英語コミュニケーションⅢ (3時間) 【2】論理と表現Ⅲ (2時間)
 (文系のみ) 【3】英語特論B (2時間) 【4】時事英語 (2時間)

第3学年	教科書	検定教科書
英語コミュニケーションⅢ (3単位)	副教材	後日案内

学習方法

- 英語コミュニケーションⅢでは、これまで同様「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の4技能5領域を扱い、それぞれの領域でしっかりと力をつけることを目的とします。聞いたり読んだりしたことについての内容をより深く理解したり、自分の考えを相手にわかりやすく、論理的に話したり書いたりする言語活動を行います。
- これまでに学んできた語彙や文法を応用し、実際のコミュニケーションでどのように使われるのか、どのように応用すると効果的なのかを意識しながら取り組んでください。

学習到達目標

聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
・身近なトピック	・様々な語彙や文	・身近なことや興	・自分の調べたこ	・身近なトピック

や社会的なテーマについて内容を聞き取ることができる。 ・会話やニュース、講義などの内容をイラストや写真、資料などを参考にしながら理解できる。	法の知識を使って、いろんな種類の文章を理解できる。 ・社会的なテーマに関する文章や物語などを、イラストや写真、資料などを参考にしながら内容を理解できる。 ・いろんな種類の読み物を通して、自分の調べたい事柄について必要な情報を理解し、要点が整理できる。	味関心のあるテーマ、また社会的なテーマについて、様々な表現を使って相手にわかりやすく伝えることができる。 ・相手の言っていることが理解できないときに、適した表現で相手に質問ができる。 ・相手の言ってきたことに対して、自分の考えをわかりやすく論理的に述べることができる。	とに対して、内容を踏まえて様々な表現でわかりやすく論理的に発表できる。 ・聞き手にわかりやすいように、聞き手の立場も考えながら伝えることができる。 ・聞き手からの質問に対して、答えを相手にわかりやすく的確に述べるができる。	や社会的なテーマについて、自分の書きたいことを様々な語彙や表現を使って書くことができる。 ・読み手のことを考えながら、自分が伝えたい内容をわかりやすい文章で論理的に書くことができる。
---	---	--	---	--

評価の観点

	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	様々な英語の音声・語彙・表現・文法などの理解を深め、実際のコミュニケーション（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）に生かすことができる技能を身につけている。	様々な英語の知識や技能を用いて、目的や状況に適した対応ができ、話し手や書き手の意図を理解できる。また、それに対しての自分の考えを相手にわかりやすく論理的に述べることができる。	・様々な文法や表現などを用いて、自分の考えを英語でわかりやすく論理的に表現しようとする意欲がみられる。 ・話し手や書き手の意図や心情をしっかりと深く理解しようとする姿勢がみられる。

年間シラバス 英語コミュニケーションⅢ（1年間の学習予定表）＊詳細は担当者から後日連絡

学期	教材	領域	学習のポイントと到達目標	評価方法
通年	検定教科書・副教材など	聞くこと	a.身近なトピックや社会的なテーマについて内容を聞き取ることができ、話の内容を理解できる。 b.ニュースや講義などを聞き、資料なども参考にしながら内容を理解して、そのことについての自分の考えを持てる。 c.話されている内容を積極的に理解しようとする姿勢が見られる。	定期考査（リスニング） 授業での取り組み 小テスト・提出物など
		読むこと	a.幅広い語彙や文法の知識を身につけて、いろんな種類の文章を理解できる。 b.社会的なテーマに関する文章を資料なども参考にしながら内容を論理的に理解でき、自分の考えを持つことができる。 c.書き手の意図や文章の内容を積極的、かつ論理的に理解しようとする姿勢が見られる。	定期考査（リーディング） 授業での取り組み 小テスト・提出物など
		話すこと（やり取り）	a.身近なことや社会的なテーマに関する事柄を述べるための的確な語彙や表現を身につけ、論理的に述べるができる。 b.様々な表現を使い、相手の言ったことに対して自分の考えを論理的に述べるができる。 c.幅広い語彙や表現を用いて、相手に積極的に伝えようとする姿勢が見られる。	授業での取り組み ペアワーク スピーキングテストなど
		話すこと（発表）	a.興味関心のある記事やレポートに対して、相手に要点を伝えるための様々な語彙や文法を身につけている。	授業での取り組み ペアワーク

		b.様々な表現を用いて、相手に自分の考えをわかりやすく論理的に伝えることができる。 c.幅広い語彙や表現を使い、相手に自分の考えをわかりやすく論理的に伝えようとする、積極的な姿勢が見られる。	プレゼンテーションなど
	書くこと	a.社会的なテーマに関する事柄や興味関心のあることについて書くための、幅広い語彙や表現を身につけている。 b.様々な表現を用いて、読み手に自分の考えをわかりやすく論理的に伝えることができる。 c.様々な語彙や表現を用いて、読み手に自分の考えをわかりやすく、論理的に伝えようとする積極的な姿勢が見られる。	定期考査 (ライティング) レポート 授業での取り組みなど

第3学年	教科書	検定教科書
論理と表現Ⅲ (2単位)	副教材	後日案内

学習方法

- ・論理と表現では、探究学習を通じて「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の4技能5領域の力を育成することを目的とします。ディスカッションによって、テーマについての意見を相手に伝えられるようになり、自らの興味関心のある分野に知識を深め、作文やプレゼンテーションで表現します。
- ・学習していく語彙や文法は、実際のコミュニケーションではどのように使われるのかを意識しながら取り組んでください。また、情報収集のスキルを身に付け、論理的に意見をまとめる力をつけさせます。

学習到達目標

聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
・社会問題についての必要な事柄、内容を聞き取ることができる。 ・自分自身や家族、学校など身の回りのことに関する会話や説明を聞き、イラストや写真などを参考にしながら理解できる。 ・情報収集のために知識を得ることができる。	・テーマ学習に必要な語彙や文法事項の知識を使って、簡単な文章を理解できる。 ・身近な事柄について書かれた文章をイラストや写真などを参考にしながら内容を理解できる。 ・自分の調べたい事柄について、おおまかな内容と要点が理解できる。	・自分のことや身近なことを、基本的な文を使って相手に理解してもらえる。 ・相手の言っていることが理解できないときに、簡単な表現で相手に質問ができる。 ・相手の言ってきたことに対して、自分の考えを簡単に述べることができる。 ・共有作業に必要な助言、反応ができる。	・自分の調べたことに対して、内容を踏まえて基本的な文章で発表できる。 ・聞き手にわかりやすいように伝えることができる。 ・聞き手からの質問に対して、簡単な答えを述べることができる。 ・グループ活動で役割分担ができる。 ・効果的なプレゼンテーションに必要なスキルを身につける。	・自分のことや身近なことに対して、自分の書きたいことを基本的な文法や語彙を使って書くことができる。 ・読み手に、自分が伝えたい内容を簡単な文章で書くことができる。 ・論理的に意見が述べるができる。 ・効果的なプレゼンテーションをするために必要な原稿を書くことができる。

評価の観点

	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学ぶ力・人間性等
評価規	基本的な英語の音声・語彙・表現・文法などの理解を深め、これらの知識を実際のコミュニ	身につけた英語の知識や技能を用いて、目的や状況に応じた基本的な対応ができ、話し手や	・基本的な文法や表現などを積極的に身につけて、自分の考えを簡単な英語で表現しようと

準	ケーション（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）に生かすことができる技能を身につけている。	書き手の意図をおおまかに理解できる。また、それに対しての自分の考えを簡単に述べることができる。	する意欲がみられる。 ・話し手や書き手の意図をしっかりと理解しようとする姿勢がみられる。
---	---	---	---

年間シラバス 論理と表現Ⅲ（1年間の学習予定表）＊詳細は担当者から後日連絡

学期	教材	領域	学習のポイントと到達目標	評価方法
通年	検定教科書・副教材など	聞くこと	a.基本的な語彙や表現を聞き取ることができ、話し手の意図や話の内容を大まかに理解できる。 b.基本的な文章や会話を聞き、内容を理解して、そのことについての自分の考えを持てる。 c.話されている内容を積極的に聞こうとする姿勢が見られる。	定期考査（リスニング） 授業での取り組み 小テスト・提出物など
		読むこと	a.基本的な語彙や文法事項の知識を身につけて、簡単な文章を理解できる。 b.身近な事柄について書かれた文章をイラストや写真などを参考にしながら内容を理解でき、自分の考えを持つことができる。 c.書き手の意図や文章の内容を積極的に理解しようとする姿勢が見られる。	定期考査（リーディング） 授業での取り組み 小テスト・提出物など
		話すこと（やり取り）	a.自分のことや身近なことを述べるために、基本的な語彙や文法を身につけ、相手に述べるができる。 b.基本的な表現を使い、相手の言ったことに対して自分の考えを述べるができる。 c.基本的な語彙や表現を用いて、相手に伝えようとする姿勢が見られる。	授業での取り組み ペアワーク、グループワーク スピーキングテストなど
		話すこと（発表）	a.自分の調べたことに対して、相手に伝えるための基本的な語彙や文法を身につけている。 b.基本的な語彙や表現を用いて、相手に自分の考えを伝えることができる。 c.基本的な語彙や表現を使い、相手に自分の考えを伝えようとする積極的な姿勢が見られる。	授業での取り組み ペアワーク プレゼンテーションなど
		書くこと	a.自分のことや身近なことに対して書くための、基本的な文法や語彙を身につけている。 b.基本的な語彙や表現を用いて、読み手に自分の考えを伝えることができる。 c.基本的な語彙や表現を用いて、読み手に自分の考えを伝えようとする積極的な姿勢が見られる。	定期考査（ライティング） レポート 授業での取り組みなど

第3学年 〈文系〉 英語特論B (2単位)	教科書	後日案内
	副教材	後日案内

学習方法

- ・英語特論Bでは、英語特論Aで学んだことをさらに発展させて、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲや論理と表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んできたことも踏まえて、様々な教材を用いながら「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の4技能5領域を引き続き伸ばしていく取り組みを行います。これまで学んできた文法事項の復習・応用も学習し、実際のコミュニケーションの場面での確に英語で表現できる力を育成することを目的とします。
- ・英語特論Aと同じように、英語多読用の本なども用いて、4技能5領域の力の伸長を図ります。目標としているスコアの取得や検定の合格を目指す取り組みも行います。

学習到達目標

聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
- 身近な内容のトピックや英語のニュースや物語などを聞き取り、内容を深く理解できる。 - 英文を聞き、イラストや写真、資料などを参考にしながら内容を理解できる。	- 学んできた語彙や文法事項の知識を整理し、様々なレベルの文章を理解できる。 - 幅広いテーマについて書かれた文章や物語などを、書き手の心情にも触れながら内容を理解できる。 - 目的に応じた読み方ができ、必要な情報を理解し、要点が整理できる。	- 幅広いテーマについて、様々な表現を使って論理的にわかりやすく相手に伝えることができる。 - 相手の言っていることが理解できないときに、的確な表現で相手に質問ができる。 - 相手の言ってきたことに対して、自分の考えをわかりやすく論理的に述べることができる。	- 様々なトピックについて、要点をおさえながら、様々な表現で的確に論理的に発表できる。 - 聞き手にわかりやすいように、構成も考えながら伝えることができる。 - 聞き手からの質問に対して、答えを相手にわかりやすく述べることができる。	- 取り組んでいるトピックについて、自分の書きたいことを的確な語彙や表現を使って論理的に書くことができる。 - 読み手に、自分が伝えたい内容をわかりやすい文章で書くことができる。

評価の観点

	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	様々な英語の音声・語彙・表現・文法などの理解を深め、実際のコミュニケーション（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）に生かすことができる技能を身につけている。	身につけた英語の知識や技能を用いて、様々なトピックについて内容の把握や話し手や書き手の意図を理解でき、それに対しての自分の考えを相手にわかりやすく論理的に述べるができる。	- 取り組んでいるトピックについて、その内容をしっかりと理解し、自分の考えを論理的に組み立てようとする姿勢が見られる。 - 資格取得のための学習に積極的に励んでいる。

年間シラバス 英語特論B（1年間の学習予定表）＊詳細は担当者から後日連絡

学期	教材	領域	学習のポイントと到達目標	評価方法
通年	指定された教科書・副教材など	聞くこと	a.取り組んでいるトピックに関する語彙や表現を聞き取ることができ、話し手の意図や話の内容を理解できる。 b.取り組んでいるトピックを聞き、資料なども参考にしながらその内容を理解して、そのことについての自分の考えを持てる。 c.話されている内容を論理的に理解しようとする積極的な姿勢が見られる。	定期考査（リスニング） 授業での取り組み 小テスト・提出物など
		読むこと	a.取り組んでいるトピックに関する語彙や表現・文法の知識を身につけて、いろんな種類の文章を理解できる。 b.取り組んでいるトピックに関する文章をイラストや写真なども参考にしながら内容を理解でき、自分の考えを持つことができる。 c.書き手の意図や文章の内容を論理的に理解しようとする積極的な姿勢が見られる。	定期考査（リーディング） 授業での取り組み 小テスト・提出物など
		話すこと (やり取り)	a.取り組んでいるトピックについて述べるができる語彙や表現を身につけている。 b.目的に応じた表現を使い、相手の言ったことに対して自分の考えを述べるができる。 c.目的に応じた語彙や表現を用いて、相手に論理的に伝	授業での取り組み ペアワーク スピーキングテストなど

			えようとする積極的な姿勢が見られる。	
		話すこと (発表)	a. 取り組んでいるトピックに対して、的確に相手に伝えるための様々な語彙や文法を身につけている。 b. 目的に応じた語彙や表現を用いて、相手に自分の考えをわかりやすく論理的に伝えることができる。 c. 目的に応じた語彙や表現を使い、相手に自分の考えをわかりやすく論理的に伝えようとする積極的な姿勢が見られる。	授業での取り組み ペアワーク プレゼンテーションなど
		書くこと	a. 取り組んでいるトピックについての的確に書くための、様々な語彙や表現を身につけている。 b. 目的に応じた語彙や表現を用いて、読み手に自分の考えをわかりやすく論理的に伝えることができる。 c. 目的に応じた語彙や表現を用いて、読み手に自分の考えをわかりやすく論理的に伝えようとする積極的な姿勢が見られる。	定期考査 (ライティング) レポート 授業での取り組みなど

第3学年 (文系) 時事英語 (2単位)	教科書	後日案内
	副教材	後日案内

学習方法

- ・時事英語では、世界で何が起こっているのかを英語のニュースや記事を通して知り、それについて自分の考えを述べる取り組みを行います。

学習到達目標

聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
・英語のニュースを聞き取り、内容を深く理解できる。 ・英文を聞き、写真、資料などを参考にしながら内容を理解できる。	・英語のニュース記事などの内容を理解できる。 ・目的に応じた読み方ができ、必要な情報を理解し、要点が整理できる。	・取り組んでいるテーマについて、様々な表現を使って論理的にわかりやすく相手に伝えることができる。 ・相手の意見に対して、自分の考えをわかりやすく論理的に述べることができる。	・取り組んでいるテーマについて、要点をおさえながら、様々な表現で的確に論理的に発表できる。 ・聞き手にわかりやすいように、構成も考えながら伝えることができる。 ・聞き手からの質問に対して、答えを相手にわかりやすく述べることができる。	・取り組んでいるトピックについて、自分の考えを的確な語彙や表現を使って論理的に書くことができる。 ・読み手に、自分が伝えたい内容をわかりやすい文章で書くことができる。

評価の観点

	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	世界で起こっていることなどを英語のニュースや記事を通して理解し、それをコミュニケーションに生かすことができる。	身につけた英語の知識や技能を用いて、様々なトピックについて内容を理解し、自分の考えを相手にわかりやすく論理的に述べることができる。	・取り組んでいるトピックについて、その内容をしっかりと理解し、自分の考えを論理的に組み立てようとする姿勢が見られる。

年間シラバス **時事英語** (1年間の学習予定表) *詳細は担当者から後日連絡

学期	教材	領域	学習のポイントと到達目標	評価方法
通年	指定された教科書・副教材など	聞くこと	a.英語のニュースの語彙や表現を聞き取ることができ、内容を理解できる。 b.英語のニュースを聞き、資料なども参考にしながらその内容を理解して、自分の考えを持てる。 c.内容を論理的に理解しようとする積極的な姿勢が見られる。	定期考査（リスニング） 授業での取り組み 小テスト・提出物など
		読むこと	a.英語ニュース記事の語彙や表現の知識を身につけて、内容を理解できる。 b.英語のニュース記事をイラストや写真なども参考にしながら内容を理解でき、自分の考えを持つことができる。 c.英語のニュース記事の構成や内容を理解しようとする積極的な姿勢が見られる。	定期考査（リーディング） 授業での取り組み 小テスト・提出物など
		話すこと（やり取り）	a.取り扱っている英語のニュース・記事について自分の考えを述べることができる語彙や表現を身につけている。 b.相手の言ったことに対して、適切な語彙や表現を使って自分の考えを述べるができる。 c.目的に応じた語彙や表現を用いて、相手に論理的に伝えようとする積極的な姿勢が見られる。	授業での取り組み ペアワーク スピーキングテストなど
		話すこと（発表）	a.取り組んでいる英語のニュース・記事に対して、的確に相手に伝えるための様々な語彙や文法を身につけている。 b.目的に応じた語彙や表現を用いて、相手に自分の考えをわかりやすく論理的に伝えることができる。 c.ニュース記事で使われている語彙や表現を上手に使い、相手に自分の考えをわかりやすく論理的に伝えようとする積極的な姿勢が見られる。	授業での取り組み ペアワーク プレゼンテーションなど
		書くこと	a.取り組んでいる英語のニュース・記事について自分の意見を的確に書くための、様々な語彙や表現を身につけている。 b.目的に応じた語彙や表現を用いて、読み手に自分の考えをわかりやすく論理的に伝えることができる。 c. ニュース記事で使われている語彙や表現を上手に用いて、読み手に自分の考えをわかりやすく論理的に伝えようとする積極的な姿勢が見られる。	定期考査（ライティング） レポート 授業での取り組みなど

高等学校 保健体育科 シラバス

3年間のねらい 学習目標

本校の体育は6年間一貫教育をふまえて、高校1年においては中学1、2年で学んだ基本技能を基に応用技能を身につけ、さらに高度な身体運動、スポーツに取り組む。高校2年、3年では発展技能として、過去4年間で学んだ技能をさらに発展させて、実際のゲームも取り入れながら、楽しく、効果的な身体運動、スポーツに取り組んでいくため、以下の3点を学習目標とする。

- ①育成を目指す資質・能力を明確にし、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することができるようにする。
- ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進し、発達の段階のまとまりを考慮し、各領域で身に付けさせる。
- ③運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、性別や障がいの有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるようにする。

第1・2・3学年 体育 (7単位)	教科書	大修館書店 現代高等保健体育
	副教材	特になし

学習到達目標

心身の健全な育成をはかり、スポーツの楽しさ、身体活動の爽快さを学習するとともに、ルールを遵守する姿勢や礼儀を学び、習得する。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	運動の技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習の仕方、運動を行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法を理解している。	与えられた課題を解決するために論理的に考え、解決するために正しく判断できている。また、仲間と相談し、より良い解決に導こうとしている。	自ら進んで運動の楽しさや喜びを味わおうとする。健康や安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。

学習方法

第1・第2グラウンド、400mトラック、多目的グラウンド、野球場、第1・第2体育館、プール、ダンス場、卓球場、レスリング場、柔道場、剣道場など、充実した体育施設を活用し、多種多様のスポーツ実技を行い、学習到達目標を達成する。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

〈体育実技〉 ※下記のシラバスは、男子・女子ともに天候や施設環境により変更となる場合がある。

高校1年生(男子) <週2時間>

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
--------	---------	--------------	-----------

1 学 期	集団行動 陸上 球技 水泳 体育理論 体づくり運動	①各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 ②運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ③生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 ※体育理論については、スポーツのルールを理解すること、スポーツの意義について知ること、体の仕組みを理解し体力の向上に意欲を示すことを目標とする。	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 ※上記の3つの観点から種目ごとに総合的に評価する。 【評価方法】 1. 実技テスト ・記録計測 ・チーム戦績 ・技能の完成度 2. 観察及び記録 3. レポート等
2 学 期	球技 武道 体育理論 体づくり運動		
3 学 期	持久走 体育理論 体づくり運動		

高校1年生（女子）

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	集団行動 球技 体育理論 体づくり運動	①各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 ②運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ③生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 ※体育理論については、スポーツのルールを理解すること、スポーツの意義について知ること、体の仕組みを理解し体力の向上に意欲を示すことを目標とする。	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 ※上記の3つの観点から種目ごとに総合的に評価する。 【評価方法】 1. 実技テスト ・記録計測 ・チーム戦績 ・技能の完成度 2. 観察及び記録 3. レポート等
2 学 期	水泳 ダンス 球技 体育理論 体づくり運動		
3 学 期	持久走 体育理論 体づくり運動		

高校2年生（男子） ＜週2時間＞

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	武道 球技 水泳 体育理論 体づくり運動	①各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 ②運動や健康についての自他や社会の課題	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度

2 学 期	球技 体育理論 体づくり運動	を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ③生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 ※体育理論については、スポーツのルールを理解すること、スポーツの意義について知ること、体の仕組みを理解し体力の向上に意欲を示すことを目標とする。	※上記の3つの観点から種目ごとに総合的に評価する。 【評価方法】 1. 観察及び記録 2. 実技テスト ・記録計測 ・チーム戦績 ・技能の完成度 3. レポート等
3 学 期	持久走 体育理論 体づくり運動		

高校2年生（女子）

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	球技 ダンス 体育理論 体づくり運動	①各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 ②運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ③生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 ※体育理論については、スポーツのルールを理解すること、スポーツの意義について知ること、体の仕組みを理解し体力の向上に意欲を示すことを目標とする。	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 ※上記の3つの観点から種目ごとに総合的に評価する。 【評価方法】 1. 実技テスト ・記録計測 ・チーム戦績 ・技能の完成度 2. 観察及び記録 3. レポート等
2 学 期	水泳 球技 体育理論 体づくり運動		
3 学 期	持久走 体育理論 体づくり運動		

高校3年生（男子） <週3時間>

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	球技 水泳 体育理論 体づくり運動	①各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 ②運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ③生涯にわたって継続して運動に親しむと	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 ※上記の3つの観点から種目ごとに総合的に評価する。
2 学 期	球技 体育理論 体づくり運動		

3 学 期	レクリエーション	ともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 ※体育理論については、スポーツのルールを理解すること、スポーツの意義について知ること、体の仕組みを理解し体力の向上に意欲を示すことを目標とする。	【評価方法】 1. 実技テスト ・記録計測 ・チーム戦績 ・技能の完成度 2. 観察及び記録 3. レポート等
-------------	----------	---	---

高校3年生（女子）

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	球技 体育理論 体づくり運動	①各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 ※上記の3つの観点から種目ごとに総合的に評価する。 【評価方法】 1. 実技テスト ・記録計測 ・チーム戦績 ・技能の完成度 2. 観察及び記録 3. レポート等
2 学 期	水泳 球技 体育理論 体づくり運動	②運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	
3 学 期	レクリエーション	③生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	
		※体育理論については、スポーツのルールを理解すること、スポーツの意義について知ること、体の仕組みを理解し体力の向上に意欲を示すことを目標とする。	

【保健】

2年間のねらい 学習目標

日々目まぐるしく変化する社会問題について把握し、正しい情報収集と解決に導く力を身につける。特に年問題となっている環境問題や、体やこころの健康については、成長期の子どもたちにとって大きく影響を受けるため、迅速に対応していく資質や能力を育てる。また、体育授業と深く関連付けて、日々の生活だけではなく、体力や運動機能の向上にも興味をもてるようにする。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評 価 規 準	近年問題視されている健康問題や環境問題について、個人が関心を持ち、適切に意思決定・行動選択を行い、健康で安全な生活を送ることができるよう、日々学習に取り組んでいる。	健康的な生活を送るための適切な行動について、論理的に考え、適切に判断できるようになる。	生涯にわたって健康的な生活を送るために、必要な知識と行動選択の仕方を理解しようとしている。

学習到達目標

健康・安全について理解を深め、ヘルスプロモーションの考え方を身に付ける。また、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、向上させる資質や能力を身につける。

近年、問題視されている様々な問題から、環境・こころや体についての課題を把握し、個人の健康の保持増進に活用していく。

学習方法

教科書と副教材を中心に授業を行う。必要に応じて、黒板やパワーポイント、動画学習を用いて、幅広い知識を習得する。また、応急手当については教室での学習に加えて、心肺蘇生法の実習を行うこともある。

第1・2学年 保健 (2単位)	教科書	大修館書店 現代高等保健体育
	材料用具	大修館書店 保健体育ノート

年間シラバス (1年間の学習予定表)

高校1年生 <週1時間> ※体育理論については保健授業の進行状況によって変更する場合がある。

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1学期	【現代社会と健康】 1. 私たちの健康のすがた 2. 健康のとらえ方 3. 健康と意志決定・行動選択 4. 健康に関する環境づくり 5. 生活習慣病とその予防 6. 食事と健康 7. 運動と健康 8. 休養・睡眠と健康	健康問題や社会の変化とともに、健康のとらえ方や健康問題への対策のありかたも変化してきた。 健康の考え方の変化について学ぶとともに生活習慣病や感染症、さらに薬物乱用、心の問題、交通安全など、現代の健康問題とその対策について学び、理解できるようにする。 ※体育理論については、スポーツのルールを理解すること、スポーツの意義について知ること、体の仕組みを理解し体力の向上に意欲を示すことを目標とする。	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 【評価方法】 1. 期末考査 2. 保健ノート等の提出物 3. 観察及び記録
2学期	9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康 11. 薬物乱用と健康 12. 現代の感染症 13. 感染症の予防 14. 性感染症・エイズとその予防 15. 欲求と適応機制 16. 心身の相関とストレス 17. ストレスへの対処 18. 心の健康と自己実現		
3学期	19. 交通事故の現状と要因 20. 交通社会における運転者の資質と責任 21. 安全な交通社会づくり 22. 応急手当の意義とその		

	基本 23. 心肺蘇生法 24. 日常的な応急手当 【運動・スポーツの文化的特徴】 【運動スポーツの学び方】 【豊かなスポーツライフの設計】		
--	--	--	--

高校2年生 <週1時間> ※体育理論については保健授業の進行状況によって変更する場合がある。

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	【生涯を通じる健康】 1. 思春期と健康 2. 性意識と性行動の選択 3. 結婚生活と健康 4. 妊娠・出産と健康 5. 家族計画と人工妊娠中絶 6. 年齢と健康	心と体は、年齢とともに変化していく。また、健康のために私たちや社会がすべきことも、それにともなって変化する。思春期から中高年期までの健康にかかわることがらについて学ぶとともに、我々の健康を支えている保健・医療のしくみや、それらの活用のしかたなどについて学び、理解できるようにする。	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 【評価方法】 1. 期末考査 2. 保健ノート等の提出物 3. 観察及び記録
2 学期	7. 高齢者のための社会的取り組み 8. 保健制度とその活用 9. 医療制度とその活用 10. 医薬品と健康 11. さまざまな保健活動や対策 【社会生活と健康】 1. 大気汚染と健康 2. 水質汚濁、土壌汚染と健康 3. 健康被害の防止と環境対策 4. 環境衛生活動のしくみと働き		
3 学期	5. 食品衛生活動のしくみと働き 6. 食品と環境の保健と私たち 7. 働くことと健康 8. 労働災害と健康 9. 健康的な職業生活 【運動・スポーツの文化的特徴】 【運動スポーツの学び方】 【豊かなスポーツライフの設計】	※体育理論については、スポーツのルールを理解すること、スポーツの意義について知ること、体の仕組みを理解し体力の向上に意欲を示すことを目標とする。	

高等学校 芸術科(音楽) シラバス

2年間のねらい、学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技術を身に付けるようにする。

(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協動的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

[高等学校学習指導要領(平成30年告示)より]

第1・2学年 (芸術選択) 音楽Ⅰ (2単位)	教科書	「ON!」(音楽之友社 704)
	副教材	五線ノート・タブレットパソコン・※アルトリコーダー他

※アルトリコーダーは新型コロナウイルス感染状況等によって使用出来ない場合があります。

学習到達目標

表現(歌唱、器楽、創作)及び、鑑賞の各活動を通して、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることを育成する。

音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解することを育成する。

学習方法

歌唱においては、斉唱～混声四部合唱までの歌唱曲に取り組む。器楽においては、各種管弦打楽器、邦楽器、鍵盤楽器等を用いて演奏や合奏を体験する。創作においては、旋律の創作と伴奏づけ、歌詞付けや編曲等をおこない、楽譜として仕上げるだけでなく実際に音に表現する。鑑賞では、DVDやCD、教師や生徒各々の実演等を通して音楽の美しさを理解する。いずれにおいても世の中の多様な流れに伴い、コンピュータ機器やICT環境を必要に応じて適時使用しながら学習に取り組む。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	各項目における楽曲等の、歴史的社会的背景やその解釈を交えた適確な知識を基にした歌唱や演奏技能が十分に備わっているかを評価の基準とする。	各項目における楽曲等の、歴史的社会的背景やその解釈を交えた適確な思考力、それに伴う演奏技法を用いた判断力、楽曲演奏にあたっての自己の表現力を評価の基準とする。	主体的及び積極的に授業に参加し、音楽演奏における集団行動の重要性を認識し、他の生徒たちとも協動的に音楽制作が出来ているかを評価の基準とする。

年間シラバス 2年間の学習予定表(本校では「音楽Ⅰ」を2年間に分けて実施。)

※新型コロナウイルス感染状況等により内容については大幅な変更を行う場合があります。

高校1年(週1時間)

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点
1 学期	1. 歌唱	1. ポピュラー曲の取り組み。 身近なポピュラー曲、ミュージカル等から曲を選び、楽しく美しく歌唱する。 [使用教材] ・「翼をください」(村井邦彦)	【評価の観点】 ・音楽に対する思考力、判断力、表現力。 ・音楽やそれを取り巻く背景等の知識。

	2. 器楽 3. 鑑賞	・「A Whole New World」(メンケン) ・「民衆の歌」(シェーンベルク) 他 2. イタリア歌曲の取り組み。 声楽導入曲を通して、文化的・歴史的背景などの知識を得るとともに、曲種に応じた発声を生かして美しく歌う。 [使用教材] ・「O sole mio」(ディ・カープア) ・「Caro mio ben」(ジョルダナーニ) ・「Ombra mai fu」(ヘンデル) 他 1. 管弦楽器等による独奏曲～二重奏曲に取り組む。 [使用教材] ・「喜びの歌」(ベートーヴェン) ・「もろびとこぞりて」(ヘンデル) ・「トリスタンの嘆き」(作者不詳) 他 1. 鑑賞を通して、音楽の知識や美しさを理解させる。 [使用教材] ・オラトリオ「メサイア」(ヘンデル) ・ブランデンブルク協奏曲 (バッハ) ・オペラ「椿姫」(プッチーニ) 他	・歌唱器楽の基本的な技能。 【評価方法】 1. 実技 歌唱においては、曲種に応じた発声や美しい言葉の表現等、曲にふさわしい表現を身につけているか。 器楽においては、ふさわしい音色や基本的な奏法を考えて表現をする技能を身につけているか。 2. 授業の取り組み 集団行動に参加し、主体的・協動的に自己の表現ができているか。 3. ノート プリント教材の整理、学習ノートが作成できているか。
2 学 期	1. 器楽 2. 創作	1. ギターを弾こう ギターの基本的な技能を習得し、独奏曲～重奏曲に取り組む。 [使用教材] ・「喜びの歌」(ベートーヴェン) ・「Edelweiss」(ロジャーズ) ・「前前前世」(前田洋次郎) 他 1. 音階を選んで旋律を創作し、コード付けをおこない、楽譜として仕上げる。 ・二部形式の楽曲の制作。 ・モティーフ、フレーズ、メロディーの理解。 ・主要三和音の理解とその配置。 ・楽器またはコンピューター機器等を用いて創作曲を音に表現させる。	
3 学 期	1. 日本の伝統音楽	1. わたしたちの和楽器。 箏・三味線・篠笛、太鼓・歌い等の基礎的な技能を習得し、我が国の民謡、各地の伝統芸能に親しむ。 [使用教材] ・「さくら」(作曲者不詳) ・「南部牛追歌」(岩手県民謡) ・「木曾節」(長野県民謡) ・「谷茶前」(沖縄県民謡) ・箏曲「新ざらし」(中能島欣一) ・長唄「京鹿子娘道成寺」(3世杵屋正次郎) ・「双魚譜」(吉松隆) 他	

高校2年〈週1時間〉

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点
--------	---------	--------------	-------

1 学 期	1. 器楽 2. 鑑賞	1. 四重奏の取り組み 管弦楽器を用いて同種楽器による四重奏に取り組む。 [使用教材] ・「グリーンスリーブス」(イングランド民謡) 教科書、プリント教材 他 1. 鑑賞を通して音楽の知識や美しさを理解させる。 [使用教材] ・歌曲集「冬の旅」(シューベルト) ・交響曲第5番ニ短調(ショスタコーヴィチ) 他	【評価の観点】 ・音楽に対する思考力、判断力、表現力。 ・音楽やそれを取り巻く背景等の知識。 ・歌唱器楽の応用的な技能。 【評価方法】 1. 実技 歌唱においては、曲種に応じた発声や美しい言葉の表現、曲の仕組み、それを取り巻く背景等の知識を踏まえて、曲にふさわしい歌唱表現を身につけているか。 器楽においては、ふさわしい音色や奏法を判断し、それを取り巻く背景等の知識も踏まえながら曲に生かして表現をする技能を身につけているか。
2 学 期	1. 歌唱 2. 鑑賞	1. ドイツ歌曲の取り組み。 歴史的にも有名な歌曲を通して、文化的・歴史的背景などの知識を基に、思考力を働かせ美しく歌う。 [使用教材] ・「Heidenroeslein」(ヴェルナー・シューベルト) ・「Ich liebe dich」(ベートーヴェン) ・「子守唄」(ブラームス・シューベルト) 他 2. 日本歌曲の取り組み。 我が国の背景などを基に、伝統や文化の理解として歌詞に応じた発声の判断力を働かせ美しく歌う。 [使用教材] ・「小さな空」(武満徹) ・「この道」(山田耕筰) ・「椰子の実」(大中寅二) 他 3. 合唱曲への取り組み。 混声三部～混声四部合唱までの合唱曲に取り組む、声のアンサンブルによる表現力を養いながら美しく歌う。 [使用教材] ・「フィンランディア」(シベリウス) ・「春に」(木下牧子) ・「夕焼雲」(山田耕筰) 他 1. 鑑賞を通して音楽の知識や美しさを理解させる。 [使用教材] ・交響詩「魔法使いの弟子」(デュカース) ・ピアノソナタ第8番(ベートーヴェン) 他	2. 授業の取り組み 集団行動に参加し、主体的・協動的に集団の中での自己表現ができているか。 3. ノート プリント教材の整理、学習ノートが作成できているか。
3 学 期	1. 歌唱	1. ポピュラー曲の取り組み。 身近なミュージカル曲等から曲を選び、美しく歌唱する。 [使用教材] ・「Tonight」(バーンスタイン) ・「Climb Every Mountain」(ロジャース) ・「I Dreamed a Dream」(シェーンベルク) 他	

	2. 器楽	1. アンサンブル 管弦打楽器、鍵盤楽器、邦楽器等を用いて、異種の楽器を含めたアンサンブルに取り組む。 [使用教材] ・教科書、プリント教材 他	
	3. 創作	1. 音階を選び、曲の構成を工夫して旋律を創作し、副次的な旋律や伴奏付けをおこない、楽譜として仕上げる。 ・三部形式以上の楽曲の創作。 ・順次進行、跳躍進行を使い分けたモチーフ、フレーズ、メロディーの創作。 ・様々な和音の理解とその配置。 ・終止形の工夫。 2. 曲に変奏づけ、編曲を行う。 ・旋律に装飾を加える。 ・伴奏の形を変える。 ・調や拍子を変える。 3. 楽器またはコンピューター機器等を用いて創作曲を音に表現させる。	

高等学校 芸術科（美術）シラバス

美術 I のねらい 学習目標

美術 I の授業では「表現」と「鑑賞」の二つの領域を経験する。「表現」は絵画、彫刻、デザイン、立体構成などの実技で主に作品制作で行う。「鑑賞」は様々な芸術作品を見て、感じて、考えたり理解したりして芸術を味わうことで、教科書に載っている作品や様々な画集、ビデオ教材を用いて行う。「鑑賞」の授業を通して一般に芸術的と言われている作品を見て自分なりの思いや印象を持てるようになると同時に、他の人の感性や考え方も理解できるよう成長する。また、「表現」「鑑賞」ともに美術を通して何かを感じる力（感受性）、考える力（審美観）を身に付ける事をねらいと目標とする。

1 年次では、中学で養った絵画（平面）、立体、デザインの基本的表現力と鑑賞能力を総合的にのびやかに高め美術への感心と個々の感性を一層深めることを目指す。

2 年次では、より高度な題材を通して、ものの構造の理解、自分のイメージの的確な表現とともに、自己の内面世界の「再現」だけでなく、より高度な表現や技法（他者の感性との関連性や版画による印刷表現等）についても経験し、今後の芸術活動への理解や関心と参加へのアプローチとする。鑑賞においては美術の社会的、歴史的な広がりから自らの今日的視点から味わう。

第 1・2 学年 （芸術選択） 美術 I （2 単位）	教科書	高校美術 I（日本文教出版）
	材料用具	画用紙、鉛筆、粘土、粘土板、粘土べら、ペン、ビデオ、画集、スチレンボード、ケント紙、はさみ、接着剤、エッチングプレート（コーティング済み真鍮板）、ニードル、腐食液、インク、プレス機、パソコン、美術雑誌等

評価の観点

評価 規 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法（多様な造形表現、版画や点描等の特殊な描画表現、対象の内面深部まで迫る観察力）や美術文化に関心をもち、その表現に必要な技能（造形能力や形の把握能力）を身に付ける。	一つの課題を通して感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから自分なりの主題を発見、生成し、意図に応じて、表現方法を工夫して表現できる。創造的な表現の構想ができる。	意図に応じて、主体的に表現方法を工夫できる。美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わうとともに、自分と美術から社会と美術の繋がりを拡大して感じ取る。

学習方法

授業での制作、レポート

年間シラバス（2 年間の学習予定表）

1 年（週 1 時間）

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点
1 学期	1. 彫刻(彫塑)	1. 彫像の制作（人物頭像） ・ただ似ているだけの人形を作るのではなく対象の人物の人間性にまで迫った表現をする	・美術、課題への興味・関心 ・発想力、表現方法の理解 ・課題に適した独自の表現、技法、色彩、形、道具の使い方 ・作品の完成度、仕事量以上を総合的に提出作品で評価する。
2 学期	2. 絵画	2. 点描の制作 ・自由な題材を通して対象に対する緻密な観察力、描写力を養う	
3 学期	3. 絵画	3. 自画像の制作（美術表現はある意味では全て自画像と言える） ・デッサンとしての自画像を制作する。	

随時	4. 鑑賞	4. 作者の生き様、時代背景までを理解しながら芸術作品を鑑賞する ・作品鑑賞、作品、作者説明	レポート 独自の視点で美術作品を捉えて、感じた事を自分の言葉で文章表現できているか。
----	-------	---	---

2年〈週1時間〉

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点
1学期	1. 立体	1. 公共芸術（パブリックアート）模型 ・グループで、公共空間（公園）での野外立体展を企画、そのミニチュア模型を合同で制作	・美術、課題への興味・関心 ・発想力、表現方法の理解 ・課題に適した独自の表現、技法、色彩、形、道具の使い方 ・作品の完成度、仕事量 以上を総合的に提出作品で評価する。
2学期	2. 版画	2. 自由な題材を銅版画の技法で凹版画（エッチングプレート）を制作する ・金属版の加工、腐食、刷りといった印刷表現の技法を理解する	
3学期	3. 絵画	3. 「大切な人を描く」（人物画） ・自己イメージをもとに鉛筆による人物像を制作して授業としての美術のまとめとする	
随時	4. 鑑賞	4. 美術の社会的、歴史的広がりを自らの視点から味わう ・作品鑑賞、作品、作者説明	レポート 独自の視点で美術作品を捉えて、感じた事を自分の言葉で文章表現できているか。

高等学校 芸術科（書道） シラバス

2年間のねらい

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたって“書”を愛好する心情を育てるとともに、書に興味・関心を持ちつつ感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。

第1・2学年 〈芸術選択〉 書道Ⅰ (2単位)	教科書	書Ⅰ(教育図書)
	材料用具	筆(大・小)、固形墨、半紙(漢字用・仮名用)、半切、印材、印刀、ビデオ、作品集等

学習到達目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	・書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解している。 ・書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

学習方法

授業での制作、書の鑑賞、レポート

年間シラバス (1年間の学習予定表)

1年〈週1時間〉

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点
1学期	1. 用具・用材 2. 姿勢・執筆法 3. 書写から書道へ ●漢字の書 ◇漢字の成立と変遷 1 楷書	・書道の学習に必要な用具・用材について理解し、丁寧に扱う態度を養う。 ・腕の構え方、筆の持ち方、書く姿勢について、いろいろあることを理解する。 ・文字を正しく整えて書く学習活動から、起筆の穂先によって、さまざまな線の表現ができることを理解する。 ・漢字の成立と変遷について理解する。 ・楷書の用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、練習する。	【評価の観点】 ◇知識・技能 ◇思考・判断・表現 ◇主体的に学ぶ力・人間性等 【評価方法】 提出作品…7割 平常点…3割 (授業態度・出欠・提出物)

		・半紙作品を競書大会に出品する。	
2 学 期	●漢字の書 2行書 条幅作品の制作 ●漢字と仮名の調和の理解	・書道の学習に必要な用具・用材について理解し、丁寧に扱う態度を養う。 ・腕の構え方、筆の持ち方、書く姿勢について、いろいろあることを理解する。 ・文字を正しく整えて書く学習活動から、起筆の穂先によって、さまざまな線の表現ができることを理解する。 ・漢字の成立と変遷について理解する。 ・楷書の用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、練習する。 ・半紙作品を競書大会に出品する。	
3 学 期	●落款と篆刻	・書作品のまとめとして、落款の書き方やその効果について理解する。 ・篆刻の用具用材について理解し、篆刻の仕方について学習する。	

2年〈週1時間〉

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点
1 学 期	●漢字の書 3 隸書	・隸書の成立について学び、その特徴を理解する。 ・隸書の基本用筆として、横画、縦画、波磔、転折等の書き方を練習する。 ・古典の臨書・鑑賞し、その美を理解する。 ・半紙作品を競書大会に出品する。 ・学習した古典を、大きな紙に多字数を臨書する。 ・国際高校生選抜書展に出品する。	【評価の観点】 ◇知識・技能 ◇思考・判断・表現 ◇主体的に学ぶ力・人間性等 【評価方法】 提出作品... 7割 平常点... 3割 (授業態度・出欠・提出物)
2 学 期	●漢字の書 4 草書 ●制作 I	・草書の成立について学び、その特徴を理解し練習する。(筆や硬筆で) ・工芸的な要素を取り入れ、創作の楽しさを体感する。(刻字など)	
3 学 期	●仮名の書 ●制作 II	・仮名の成立や種類など理解する。 ・仮名の用具用材と特徴について理解する。 ・仮名の基本線・運筆・連綿などについて理解し練習する。 ・自宅に飾れる小作品を作る。(短冊・色紙・葉書など) ・飾る場所に合った内容、表現方法を工夫し、今までに学んだもの、個性を十分に発揮する。	

高等学校 家庭科 シラバス

ねらい、学習目標

家庭科では、家庭生活に必要な知識や技能を身につけるとともに、暮らしや社会の課題を結び付けて考え、新しい価値観や行動を生み出すことを目指している。

環境や社会、経済について総合的に考え、持続可能な社会への課題と向き合う。そして、家庭科で学んだ知識や技能を生かして、持続可能な社会を構築する暮らしの担い手になろう。

第1学年	教科書	家庭基礎（教育出版）
家庭基礎 （2単位）	材料用具	最新 生活ハンドブック（第一学習社）、オリジナルプリント

学習到達目標

- ・将来のライフコースを描き、自立に必要な衣食住や育児・介護についての知識について考えていく。
- ・家族に関する知識・法律などを身につける。
- ・被服の働きと性質や取り扱いについて知り、被服の選び方を考える能力を身につける。ミシンを使ったエプロンの制作を行い、ミシンの使い方や衣服の制作の仕方を身につける。
- ・栄養素の働きを知り、バランスのとれた献立を考えることができる能力を身につける。1学期に制作したエプロンを使って、調理実習をすることで、基礎的な調理方法を身につける。
- ・悪質商法について学び、被害にあうことがないように、また経済的な管理を出来る能力を身につける。
- ・快適で安全な住居について学び、快適な住居をデザインする能力を身につける。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境など基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現することなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の向上を図るために実践しようとしている。

学習方法

オリジナルプリントを中心とした授業で、知識を身に付け、自分自身で考えプリントに記入していく。ミニレポートを行い、お互いの考え方を知り、知識の定着を促す。被服実習ではエプロンを作り、基本的な裁縫技術を身につける。衣服の機能や・素材・手入れについて学び、家庭での洗濯の実習に取り組む。食事の意味を考え、高校生に必要な栄養素を学び、バランスのよい献立を考える。調理実習では基本的な調理法を身につける。様々な消費者トラブルや悪質商法について知り、身を守る方法を身に付ける。住居では快適で安全な住居について学び、将来住みたい家の設計をデザインする。

年間シラバス（1年間の学習予定表）

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
--------	---------	--------------	-----------

1 学期	1. 導入 2. 家庭生活 ①ライフコースを考える ②家族についての知識・法律 3. 衣生活 ①エプロンの制作 ②衣服の機能・素材・手入れの仕方	1. 知的好奇心の育成をはかる。 2. 家庭生活 ①様々な生き方について考え、自分自身がどのようなライフコースを歩みたいかを考える。 ②家族についての知識や法律を身につける。自分なりの意見を考える。 3. 衣生活 ①エプロンの制作を通して、アイロンの仕方、ミシンの使い方、ボタンの付け方などを身につける。 ②衣服の目的・素材の特徴・洗濯などの方法などを学ぶ。	【評価の観点】 ・知識・技術 ・思考・判断・表現 ・主体的に学ぶ力 【評価方法】 ・定期考査 ・製作・製作物 ・プリント・レポート ・平常点
2 学期	1. 食生活 ①食中毒予防 ②五大栄養素 2. 調理実習（2回） ①味噌・ケーキ ②ピザ・ゼリー ③麻婆豆腐・味噌汁	1. 食生活 ①食中毒予防方法を学ぶ。 ②五大栄養素について学ぶ。 2. 基本的な調理方法を身につける。 ①発酵や膨張などについて学ぶ。 ②包丁の使い方グルテンや発酵、ゼラチンについて学ぶ。 ③衛生的な肉の取り扱い方、だしのとおり方について学ぶ。発酵した味噌を観察し、味わう。	
3 学期	1. 食生活 ①栄養バランス ②食物の安全・選び方 2. 消費生活 ①悪質商法 3. 住生活 ①快適で安全な住まい ②住まいのデザイン	1. 食生活 ①栄養バランスのよい食事を考える。 ②食物の安全性やこれからの食について考える。 2. 消費生活 ①悪質商法について学ぶ。 3. 住生活 ①快適で安全な住まいについて学ぶ。 ②自分の住みたい住まいをデザインする。	

高等学校 情報科シラバス

2年間のねらい、学習目標

情報科では、4項目（（1）情報社会の問題解決（2）コミュニケーションと情報デザイン（3）コンピュータとプログラミング（4）情報通信ネットワークとデータの活用）を通じた問題の発見・解決に向けて、情報に関する科学的な見方・考え方を重視し、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識及び技能を身に付け、実際に活用する力を養い、情報社会に主体的に参画する態度を育むことを目標として、「情報Ⅰ」という科目を設けている。「情報Ⅰ」各項目でのねらい・目標は以下の通りである。

- （1）情報社会の問題解決では、問題を発見・解決する方法を理解するとともに、情報技術が人や社会に果たす役割と影響、情報モラルなどについて理解し、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決し、望ましい情報社会の構築に寄与する力を養う。
- （2）コミュニケーションと情報デザインでは、目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通じて、メディアの特性やコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解するとともに、効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し、コンテンツを表現し、評価し改善する力を養う。
- （3）コンピュータとプログラミングでは、コンピュータの仕組みとコンピュータでの内部表現などを理解し、アルゴリズムを表現しプログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークの機能を使う方法や技能を身に付けるようにし、モデル化やシミュレーションなどの目的に応じてコンピュータの能力を引き出す力を養う。
- （4）情報通信ネットワークとデータの活用では、情報通信ネットワークや情報システムの仕組みを理解するとともに、データを蓄積、管理、提供する方法、データを収集、整理、分析する方法、情報セキュリティを確保する方法を身に付けるようにし、目的に応じて情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを安全かつ効率的に活用する力やデータを問題の発見・解決に活用する力を養う。

第1・2学年	教科書	最新情報Ⅰ（実教出版）
情報Ⅰ （2単位）	副教材	プリント類

学習到達目標

〈第1学年〉

- コンピュータの基本操作を理解し、適切に活用することができる。
- 情報の特性について理解し、情報化が進展する社会の特質について説明することができる。
- 効果的なコミュニケーションや問題解決のために、主体的に情報を整理したり、わかりやすく伝達したり、操作性を高めたりする努力をしている。
- コンピュータによる演算や数値計算の仕組みについて関心を示し、理解しようとしている。

〈第2学年〉

- 情報通信ネットワークの構成について理解し、IPアドレスやドメイン名、ルーティングの基本的な仕組みや働きについて説明することができる。
- アルゴリズムの基本制御構造（順次、選択、反復）の違いについて理解し、簡単なアルゴリズムを図で表現することができる。
- 問題解決のためのアルゴリズムを考え、プログラムを制作することができる。
- 表計算ソフトを活用した問題解決を行い、適切にデータの分析を行うことができる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
--	-------	----------	--------------

評価規準	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会の特質及び情報社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結びつきの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会とのかかわりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
------	---	--	--

学習方法

〈第1学年〉

教科書やノート、プリントではなく、コンピュータ中心の授業を行うなどといったコンピュータに慣れることを意識した学習方法を採用する。

〈第2学年〉

コンピュータを用いた実習中心の学習方法を採用することで、情報機器やコンテンツのブラックボックス化されている部分に焦点を当てる。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

〈第1学年 情報Ⅰ 週1時間〉

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. オリエンテーション 2. 情報社会 1) 情報社会と情報 2) 情報の特性 3) 情報モラル 3. 情報社会の法規と権利 1) 知的財産 2) 情報の利用と公開 3) 個人情報の保護	・制作実習を通して、ファイルの保存や読み込み、提出について理解する。 ・情報の特性について知る。 ・情報の特性を活用した事例と情報の特性によって生じる事例を挙げることができる。 ・知的財産権について知る。 ・個人情報及びプライバシーの概念を理解し、保護や管理の方法について説明することができる。	【評価の観点】 ・知識・技能 ・思考・判断・表現 ・主体的に学ぶ力 【評価方法】 1. 定期考査 2. 制作物 3. プリント 4. 平常点
2 学期	1. メディアとコミュニケーション 1) メディアの特性 2) コミュニケーションの形態 3) インターネットのコミュニケーション 2. 情報デザイン 1) 社会の中の情報デザイン 2) 情報デザインの工夫 3) 情報デザイン実践 3. 情報システムの構成 1) コンピュータの構成と動作 2) ソフトウェアとイン	・メディアの特性について理解し、目的に応じたメディアを選択することができる。 ・インターネットを活用したコミュニケーションの特徴について理解する。 ・社会の中で利用されている情報デザインについて理解し、工夫して制作活動を行う。 ・コンピュータの構成と動作の仕組みについて理解する。 ・ソフトウェアの種類とインタフェースについて理解する。	

	タフエース	
3 学 期	1. 情報のデジタル化 1) アナログとデジタル 2) 2進数と情報量 3) 演算の仕組み 4) 数値と文字の表現 5) 数値の計算 6) 情報のデータ量	・アナログとデジタルの違いや2進法と情報量の関係について理解する。 ・数値や文字、画像、音声などをデジタル化するための原理を説明することができる。 ・コンピュータでの数値の計算方法について理解する。

<第2学年 情報Ⅰ 週1時間>

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	1. 情報通信ネットワーク 1) ネットワークの構成 2) 情報通信の取り決め 3) Web ページの仕組み 4) データ圧縮 2. 情報セキュリティ 1) 安全対策 2) 情報セキュリティ	・情報通信ネットワークの構成について理解する。 ・ネットワークを効率的に利用するための取り決めについて理解する。 ・情報セキュリティの3つの基本的な考え方について説明することができる。 ・コンピュータウイルスや不正アクセスなどの被害や対策について理解する。 ・情報を安全に取り扱うための技術について理解する。	【評価の観点】 ・知識・技能 ・思考・判断・表現 ・主体的に学ぶ力 【評価方法】 1. 定期考査 2. 制作物 3. プリント 4. 平常点
2 学 期	1. プログラミングの方法 1) アルゴリズムとその表記 2) プログラミング言語 2. プログラミングの実践 1) プログラミングの方法 2) 関数を使用したプログラム 3) 探索と整列のプログラム	・アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。 ・簡単なアルゴリズムを文章やフローチャート等の図で表現できる。 ・プログラミング言語の種類とその特徴について理解する。 ・変数を使用して選択構造や反復構造のプログラムを制作する。 ・配列を使用して反復構造等のプログラムを制作する。 ・関数を使用して簡単なプログラムを制作する。 ・多くのデータから目的のデータを探し出すプログラムを制作する。 ・問題解決のためのアルゴリズムを考え、プログラムを制作する。	
3 学 期	1. データの活用 1) データの収集と整理 2) データの可視化 3) データ分析の手法 4) データベースとは	・データを収集したり、整理したりする方法について理解する。 ・表計算ソフトを活用して、データを適切なグラフや図に表現する方法を理解する。 ・問題解決の目的に応じて、適切にデータ分析を行い、分析結果を表現するための資料を制作する。	

高等学校 聖書科 シラバス

「3年間のねらい、学習目標」

同志社の建学の精神であるキリスト教主義と創立者新島襄の思想を学び、キリスト教主義による世界観・人間観・生命観を基礎にしながら、創立者の言葉「良心の全身に充満した丈夫（ますらお：若者）」として成長することを目指す。

そのために3年間を通して、創立者の生涯、聖書とイエス・キリスト、および現代のキリスト教倫理を学ぶ。それにより、一人一人の自由で主体的な思考力・表現力・対話力などを涵養し、自己と他者の生命と尊厳を大切に、現代社会において真に「善く生きる力」を育成する。

第1学年	教科書	なし
聖書 (1単位)	副教材	『聖書 新共同訳』日本聖書協会、ほか配布資料

学習到達目標

高校生最初の学年であるため、創立者新島襄の生涯を中心とした、同志社の建学の精神を学ぶ。高校からの入学者は初めて新島襄と出会い、内部進学生にとっては復習となるが、中学生とは違い、ただ伝記的に新島襄と同志社の歴史を学ぶのではなく、新島と自分の生き方を比較し、その時代背景を現代社会と重ねて見つめながら、同志社人としてふさわしく、かつ自分らしい生き方を見つけ出すことを試みる。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	創立者や建学の精神についての知識をしっかりと身につけ、それらを現代的な課題と結び付けつつ、自らの考えや人生観を形成する材料として用いることができる。	創立者の人生や学校の創立の歴史について学んだことを、自分の置かれている現代の文脈と重ねて考察し、それを適切な言葉で表現することができる。	創立者や建学の精神についての学びを現代的諸課題と結び合わせた上で、書籍やインターネット上のサイトなどを適切に利用しながらそれらについての情報を収集し、自らの視野を広げようと努めることができる。

学習方法

創立者新島襄を中心に、関連する人物の生き方、歴史的背景などを、配布資料などを使って共に読み解いてゆく。その上で、社会問題や哲学的なテーマについて個別に考えたり、グループでまとめたりする。その際、教師から一方的な解を与えることは基本的にせず、各々が自分なりの言葉で考え出すことに重点を置く。

成績評価は期末考査を中心としつつ、授業内に取り組むコメント提出や学期末に行うスピーチなどを、ルーブリック評価を基に平常点として算入する。また、本校中学校で行ってきたキリスト教会の礼拝に参加して報告する「教会探検隊」（教会レポート）、学校礼拝の感想を書く「礼拝レポート」などを自由提出にて受け付け、多面的な評価の材料とする。

年間シラバス （1年間の学習予定表）

〈週1時間〉

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点・補講等
1 学 期	1. 建学の精神を学び、自らの生き方を考える（1）	1. 新島襄の誕生 2. 新島襄の少年時代・青年時代	【評価の観点】 ・同志社についての学びに対する関心・意欲・態度

2 学 期	2. 建学の精神を学び、自らの生き方を考える (2)	3. 新島襄の脱国 4. 新島襄の留学 5. 新島襄の帰国 6. 同志社の創立・新島襄の結婚	・ 創立者や建学の精神についての最低限の知識 ・ 自らの置かれている社会的文脈を客観視して考察する力 ・ 自らの考えを持ち、言語化する力
3 学 期	3. 建学の精神を学び、自らの生き方を考える (3)	7. 新島襄の死 8. 新島襄の遺言 9. 同志社大学設立の旨意について	【評価方法】 1、定期考査の成績 定期考査においては、授業で取り上げられたトピックについての知識の定着、理解度を問う。 2、平常点 (1) 授業への関心・態度 (2) コメントなどの提出状況とスピーチの完成度、またそれらの批評性 (3) 教会探検隊、礼拝レポート

第2学年	教科書	なし
聖書 (1単位)	副教材	『聖書 新共同訳』日本聖書協会、 富田正樹『キリスト教との出会い 新約聖書』日本基督教団出版局、 ほか随時プリントなどを配布する

学習到達目標

「現代社会とキリスト教」というテーマで、世界の人びとに影響を保ち続けるキリスト教を中心に、社会に広く目を向け、様々な問題と自分との繋がりを見出し、それに対する自分なりの考えを言語化する作業に慣れることを目指す。

同志社の建学の精神であるキリスト教と、それと関わりの深い一神教の（ユダヤ教、イスラーム）の世界に触れ、その文化や価値観を学び、それらが現代社会における人間の生き方とどう関わるのかを知る。またそれにより、生徒自身の世界観や人間観を深め、自己の生き方を考えるための授業とする。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	キリスト教を始めとする伝統的な世界宗教についての知識、および現代の社会問題についての基礎的な知識を得るための調査方法を身につけている。	問題意識を持って宗教と社会問題を関連付けて調査し、何が自分たちにとって重要なのかを判断し、論文としてまとめ、他者に論理的にわかりやすく伝えることができる。	興味を持って文献に当たって調査し、インターネットを補足的に利用し、調査内容にしたがって自分の社会における生き方まで積極的に考えて行動に結び付けるような態度を身につけている。

学習方法

文献、新聞記事データベース、インターネットによる資料などを活用した調べ学習を中心とする。
 独創的なテーマの設定、調査の目的、調査の方法、調査、考察などによる論文作成を中心に、自分の調べたいことを自分で見つけ、調べ、自分自身の考えを言語化する練習を行う。そのことにより、キリスト教（およびユダヤ教、イスラーム、仏教などの伝統的世界宗教）が、どのようなメッセージを投げかけているのかを知り、自分自身の考えと照らし合わせていく。

成績評価は論文提出を中心とする。また、自由提出の「教会探検隊」、「礼拝レポート」は高校1年生

と同様、継続して受け付ける。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

〈週1時間〉

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1学期	1. 導入：授業の方法説明 2. 図書館の活用方法 3. マインドマップ作成 4. テーマ設定 5. 論文作成	1. キリスト教に関連した調査論文を作成する趣旨を理解する。 2. 図書館の活用方法や新聞記事データベース、論文検索などの使用方法を理解する。 3. 発想を広げ、論文のテーマを設定する。 4. 実際に調査を行い、論文を作成する。	【評価の観点】 ・宗教学および社会問題一般への関心・意欲・態度 ・宗教一般についての最低限の知識 ・問いを自ら見つけ、調べる能力 ・調べたことを基に自分自身の生き方を見つめ直す力
2学期	1. テーマ設定 2. マインドマップ作成 3. 論文作成	1. キリスト教と諸々の社会問題について、1学期とは異なるテーマで論じるための準備をする。 2. 1学期に学んだ調査方法を活用し、発想を広げ、論文のテーマを設定する。 3. 実際に調査を行い、論文を作成する。	【評価方法】 各学期末に提出する論文によって評価する。テーマの独創性、調査の緻密さや論理性、考察の独自性、使用した資料が豊富であるかななどを基準とする。 2. 平常点 (1) 課題などの提出状況 (2) 教会探検隊、礼拝レポート
3学期	1. テーマ設定 2. 奨励作成	1. ショート礼拝の奨励原稿を自分で作ってみるによって、聖書と自分の生き方を関連付け、それを他者に伝えるための準備をする。 2. 1学期に学んだ調査方法を活用し、発想を広げ、奨励のテーマを設定する。 3. 実際に原稿を作成する。	

第3学年 聖書 (1単位)	教科書	なし
	副教材	『聖書 新共同訳』日本聖書協会ほか随時プリントなどを配布する

学習到達目標

「宗教と生命倫理」というテーマで、生命にまつわる様々な現代社会事象について知り、それぞれの問題に関して多様な観点があることを学ぶ。それらを通して自分なりの意見をまとめ、他者の考えにもよく耳を傾けることで、対話によって視野を広げることを目指す。また、自分の意見の言語化、文章化に習熟する。

前半は主に「死（脳死、尊厳死、葬送儀礼など）」、後半は主に「生（生殖補助医療、出生前診断など）」「性（ジェンダー、セクシュアルマイノリティなど）」について学ぶ。これらの学びを通して、全ての人間の命を尊厳あるものとして認識し、これからの人生や社会との関わりを豊かにすることを目指す。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	いのちを巡る現代的な諸課題についての知識をしっかりと身につけ、それらを多様な観点から批判的に検証し、自らの考	いのちを巡る問題について、宗教的な視点を含む多様な観点を踏まえた上で批判的に考察し、自分なりの価値観に基づい	いのちを巡る問題について関心を持ち、書籍やインターネット上のサイトなどを適切に利用しながら様々な意見を収集

	えを深める材料として用いることができる。	た意見を適切な言葉で表現することができる。	し、自らの視野を広げようと努めることができる。
--	----------------------	-----------------------	-------------------------

学習方法

テーマごとに教員が基本的な知識、問題点を提示する。必要に応じて随時レジュメや資料を配布する。「コメントシート」用紙による自分の意見の記述、口頭での質問や意見交換を通じて、自分の意見の言語化、文章化、他者の意見を注意深く聴き取る訓練、それを通して自らの考察をさらに多面的に検証し、深めていく経験を積む。

成績評価は期末考査を中心としつつ、コメントの批評性、思考力、表現力などを平常点として評価し、算入する。期末考査では、その学期に扱ったテーマに関する知識の定着を問う筆記試験を行う。また、自由提出の「教会探検隊」、「礼拝レポート」は高校1年生、2年生と同様、継続して受け付ける。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

〈週1時間〉

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 概論「宗教と生命倫理」 2. 「死」について考える	1. いのちは誰のものか、いのちの決定権 2. グリーフとグリーフケア 3. 宗教における死、葬送儀礼 4. 脳死臓器移植、尊厳死 5. 自死、死刑制度	【評価の観点】 ・いのちを巡る諸課題への関心・意欲・態度 ・宗教的な観点についての最低限の知識 ・自らの考えを持ち、言語化する力 ・自らの考えとは異なる主張に触れ、それを批判的な視点として活かす力 【評価方法】 1、定期考査の成績 定期考査においては、授業で取り上げられたトピックについての知識の定着、理解度を問う。 2、平常点 (1) 授業への関心・態度 (2) コメントシートなどの提出状況とその批評性 (3) 教会探検隊、礼拝レポート
2 学期	3. 「生」について考える 4. 「性」について考える	1. 不妊、生殖補助医療 2. 出生前診断、人工妊娠中絶 1. セックスとジェンダー 2. セクシュアルマイノリティ	
3 学期	5. 大学進学に向けて	1. 多様な人間の共生 2. 自分自身について考える	

高等学校 「総合的な探究の時間」 シラバス

「3年間のねらい、学習目標」

大工になろうと思えば、家や材料についての知識、道具の扱い方、家の建て方を学ばねばならない。親方（師匠）について、弟子として大工の基礎基本を学ばねばならない。高等学校の教科学習の基本原理は、大工の修行と同じである。国語や数学、理科、地理歴史、家庭などの一般的な各教科の授業は、それぞれの教科の背景にある特定の学問分野の基本的かつ重要だと考えられる内容や技能を高校生の発達の程度を考慮して、再編成し、学習者にそれらの習得を促すものである。換言すれば、各学問分野の基礎的なテーマ、成果としての知識・理解、大切だと考えられている勉強方法、応用の仕方など、各学問分野の知識と作法を、各学問分野の枠組みの中で、各学問分野の専門家である教員について習うという性格が強い。

では生徒はみな大工になるのか。あるいは国語や数学、理科や地理歴史、家庭の専門家になるのか。変化の激しい世の中であって、今ある職業の多くは機械・ロボット・AIに置き換えが進むと考えられているし、今はない多くの職業が生まれると考えられている。建築技術の進化ははやく、大工になるにしても師匠と同じ知識や技術を身につけるだけでは時代遅れになる。各教科の背景にある学問も日々進化しており、特定の分野の専門家になるなら、その分野の到達点を理解し、基本的アプローチを身につけることは必要不可欠だが、それだけに満足しては、その分野の専門家としては不十分である。何より日々新しい学問分野が生まれている。

変化の激しい時代に生きている私たちや諸君は、自分のテーマが何であり、それに対して現在までの到達点があるかを把握し、到達点の隙間を探して未解決の課題に挑むということを、その時々の変化や科学技術の発展に応じて、一生続けていく必要がある。特定の分野の専門家を志すにしても、いくつかの分野の成果やアプローチを総合したり、取捨選択したりして新しい分野や価値の創造をめざすにしても、である。

私たち教員は、探究マインドを持ち、受け持つ生徒の特性と将来性に配慮したカリキュラムデザインができるようになるべきだと言われて久しい。「総合的な探究の時間」では、各教科の専門家の末席に連なる私たち教員が今までに習った知識や勉強・学問の方法を高校生にもわかるようにアレンジして、その習得をめざしてもらうという授業や学習のスタイルからの脱却をめざしている。教員の専門分野に関心を持つなら、その教員の持つ知識や成果、アプローチを超える何かに到達できるようになって欲しい。しかし、多くの生徒諸君は実際には、教員とはどこか違った感性やこだわりのなかで生まれ、日常生活を送っているのではない。生徒諸君の個別の関心や問題意識の中に新しい価値、新しい職、新しい知の創造、諸君と人類の未来を切り開く重要な手がかりがあると、私たち教員は確信している。

最初のたとえに戻るなら、生徒諸君は、スーパー大工になってもよいし、今までの大工がしてこなかったような、環境デザインや、社会文化、人間工学、あるいはアートなどとコラボする新世代の新しい職を生み出してよい。そのためには、既存の知の枠組みの成果を継承することだけに安住してはダメで、自らの関心を核に、何が背景となる知識基盤・成果なのかを確認した上で、新しい課題を設定し、それを解くためのアプローチを自ら定め、成果を他に知らしめるという訓練が必要である。目的、目標、内容や方法、成果の他者との共有まで含めて、反復・発展させながら自立的に学べるようになること、それを習慣づけること、そして、失敗しても軌道修正しながら次の学びに向かえるようになることをめざす。

第1学年 総合的な探究の時間 (1単位)	教科書	なし
	副教材	Locus『探究テキスト』（マイナビ） Locus『探究ワークブック』（マイナビ）など

学習到達目標

探究的な見方・考え方を働かせ、社会、地域で起きている様々な課題について知り、自己の将来と職業や学問と関連づけて、課題解決方法を自分で考えることができるようになる。

- (1) ①提供される企業や公共団体、その他の法人等の具体的な問題状況に即して、社会、地域で起きている様々な課題を発見することができるようになる。

②例示される探究的な手法を理解し、運用することができるようになる。

- (2) ①提供された事例について、課題を設定し、習得した手法の中から適切なものを選択・活用して、課題の解決に向けて、運用できるようになる。

②①について、適切な方法を用いて、その過程を説明することができる。

- (3) 提供された事例に関して設定した課題の探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとする態度を養う。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	①提供される企業や公共団体、その他の法人等の具体的な問題状況に即して、社会、地域で起きている様々な課題を発見することができる。 ②代表的な探究的手法を理解し、運用することができる。	①提供された企業や公共団体、その他の法人等の具体的な問題状況に即して、個別の事例について、課題を設定し、習得した手法の中から適切なものを選択・活用して、課題の解決に向けて、運用することができる。 ②①について、適切な方法を用いて、その過程を説明することができる。	提供された企業や公共団体、その他の法人等の具体的な問題状況に即して、設定した課題の探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとする態度を備えることができる。

学習方法

- (1) 人の着想とその背景、人の解決方法とその到達点、課題を考える。

① 人はある課題について、抱えている問題状況をどうしたいと考え、どのような取り組みを行ってきたのか、そこにはどのような課題が残されているのか、先駆者の立場に立って考えて見よう。

② 先駆者の課題を自分が解決するとすれば、どのような手段を用いることができるか、可能な限り具体的に考えてみよう。

- (2) 適切な情報収集の方法を身につけ、運用できるようになる。

どのような課題であっても、誰かが一度は部分的に同じような、あるいは近い問題意識を持って考え、解決を試みたことがあるはず。それをどのような手段で収集し、整理すれば良いのか適切な方法を身につけよう。

- (3) 適切な探究課題の設定と、適切なアプローチの選択を。

みんなにとって大切でも、解決できない課題はある。もし、あなたが課題だと考えることに、先駆者がいない、先行研究や参考文献が見つからないなどということがあれば、その理由を考えて見ることが大切。例えば、難しいテストで全員が100点をとる方法があるだろうか？それを探究課題とするのは、課題の設定の仕方に問題がある。目撃者も監視カメラもない事件について、その事件がどのような事件であったのかを証明するために目撃証言を探すことは原理的に不可能である。つまり、探究が上手くいき、成果を上げることができるかどうかにとって重要なのは、探究するのに適切な課題を設定し、適切なアプローチを選択するかどうかにかかっている。

- (4) 適切な表現方法を身につけ、人に説明できるようになろう。

自身の着想や、問題意識、解決の過程を人に説明できるようになることは大事。一緒に取り組んでくれる仲間を見つけ、説得する。スポンサーを探す。いずれにせよ、自分自身の行っていることの意義を示すのはあなた自身以外にない。自分が何を問題意識に、どのような課題を設定し、どのような方法でその解決を試みているのか、説得力を持って語れるようになろう。

- (5) 協働して課題の解決ができるようになろう。

問題意識を深める。アイデアを借りる。意見を聞く。作業を分担する。課題解決に自分自身が貢献することは大切だが、それが独りよがりになっていないか、自分のやり方が適切か、魅力があるかなど、人を巻き込み協働することで、探究はより意義のあるものになるだろう。

- (6) 自身のこだわり、着想を大切にしよう。

よく似た問題状況や問題意識、課題を抱えていても、あなたと同じまったく同じ環境、まったく同じ条件の下に、まったく同じ性格で、好き嫌いも得意なことも一緒などという人間はどこにもいない。あなただけのオリジナリティが必ず見つかるはず。それがあなたの武器になり、強みになり、魅力になり、存在意義になる。大学の推薦入試の口頭試問や就職の面接で、志望動機に「探究」の過程や成

果を糸口にして、自身の当該分野への関心を述べるができるようになれば、なお良い。

(7) 社会的有用性？ それはどうした？

あなたの課題探究が社会的有用性をダイレクトに追求し、誰かを幸せにしたり、誰かの困難を解決したりするものであれば、もちろんそれはすばらしい。だが、新しい知の発見は、社会的な問題の何かを直接すぐに解決するものでなかったとしても、それ自体が人類の知の蓄積に対する貢献である。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

第1学年<週1時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 「探究」とは？ (事例探究①) ・導入講演(導入動画) ★1 (大きな課題の設定) ・問いの立て方 ・情報収集 ・課題を特定する視野 ・整理・分析の考え方 ・整理分析の手法 ・探究課題の絞り方 ・情報収集ワークショップ①	・紹介される社会的課題の事例に則して、試行錯誤して課題を発見することができる ・以下の、基本的な探究手法について理解し、活用することができる ・課題の把握、問いの立て方、課題の特定と絞り込み、情報収集、整理分析の手法、議論の仕方、探究過程の表現・発表 ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとすることができる	【評価の観点】 ・探究に必要な知識、課題発見・設定、課題解決の技能 ・探究手法の適切な選択・判断・表現 ・探究に主体的に取り組む、積極的に知的貢献・社会的貢献を図ろうとする態度
2 学期	・データサイエンスの基本 ・整理・分析ワークショップ① ・議論のワークショップ① ・まとめ・表現方法①(ポスター発表)		・定期考査は実施しないが、授業に取り組む姿勢、『探究ノート』、提出物、成果報告(発表・レポート他)等を総合的に判断する。
3 学期	2. 事例探究② ★2 ・似ているところ、ちがうところ ・テーマ設定 ・問いの設定 ・情報収集ワークショップ② ・整理・分析ワークショップ② ・議論のワークショップ② ・プレゼンテーション① 3. 事例探究③ ★3 ・似ているところ、ちがうところ ・テーマ設定 ・問いの設定	・紹介される社会的課題の事例に則して、学習内容・項目1.の既習事項の反省をふまえて、試行錯誤して課題を発見し、探究することができる ・以下の、基本的な探究手法について理解し、適切な手法を選択・判断して活用することができる ・課題の把握、問いの立て方、課題の特定と絞り込み、情報収集、整理分析の手法、議論の仕方、探究過程の表現・発表 ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとすることができる	※平常成績の総点の算出には含まれないが、具体的な提出物や成果物が提出できない場合、個人報告書の「総合的な探究の時間」の欄に記載できる事項がなくなる可能性もある。

	・アンケート調査法 ・整理・分析ワークショップ③ ・プレゼンテーション②	・課題の把握、問いの立て方、課題の特定と絞り込み、情報収集、整理分析の手法、アンケート調査の手法、探究過程の表現・発表 ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとすることができる	
--	--	---	--

★ 1～3 Locus プログラム（マイナビ社提供）より、日本環境設計株式会社、前橋市産業政策課他 13 団体・法人・企業等より適宜事例を選択する。

第 2 学年	教科書	なし
総合的な探究の時間 (1 単位)	副教材	Locus 『探究テキスト』(マイナビ) Locus 『探究ワークブック』(マイナビ) など (1 年次より継続)

学習到達目標

自身の関心を核に、探究的な見方・考え方を働かせ、各教科の学習内容を超える課題について知り、自己の将来と職業や学問と関連づけて、適切な課題解決方法を構想することができるようになる。

- (1) ①自身に固有の探究課題を発見することができるようになる。
②例示される探究的な手法を身につけ、適切に選択し、運用することができるようになる。
- (2) ①提供された事例に関する課題探究のあり方を参考に、自身の課題の解決を構想できるようになる。
②①について、適切な方法を用いて自身の構想を説明することができる。
- (3) 自身の設定した課題の探究的な学習に主体的かつ協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとする態度を養う。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	①自身に固有の探究課題を発見することができる。 ②例示される探究的な手法を身につけ、適切に選択し、運用することができる。	①提供された事例に関する課題探究のあり方を参考に、自身の課題の解決を構想できるようになる。 ②①について、適切な方法を用いて自身の構想を説明することができる。	自身の設定した課題の探究的な学習に主体的かつ協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとすることができる。

学習方法

基本的な学習方法は第 1 学年に同じ。ただし、第 1 学年次と異なり、最終的には一人一人が共通の探究事例から離れて課題設定を行うことになる。自由度は増すので、より柔軟に自身の問題関心に引きつけて学びを進めることが可能になる反面、自立的な学びに責任を負うことになる。

年間シラバス (1 年間の学習予定表)

第 2 学年＜週 1 時間＞

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	4. 事例探究④ ★ 4 ・テーマ設定 ・問いの設定 ・情報収集ワークショップ④ ・調査手法を深める	・紹介される複数の社会的課題の事例について、自身の関心に応じて領域・対象を選択し、試行錯誤して課題を発見することができる ・以下の探究手法について理解し、活用することができる	【評価の観点】 ・探究に必要な知識、課題発見・設定、課題解決の技能 ・探究手法の適切な選択・判断・表現

2 学期	文献調査 インタビュー調査 フィールドスタディ 実験 数的調査と質的調査 など ・整理・分析ワークショップ④ ・議論のワークショップ③ ・論文作成	・課題の把握、問いの立て方、課題の特定と絞り込み、情報収集、調査の手法（文献調査・インタビュー調査・フィールドスタディ・実験・数的調査・質的調査など）整理・分析の手法、議論の仕方、探究過程の論文化 ・学習内容・項目 1. 2. 3. の既習事項の反省をふまえて、試行錯誤して課題を発見し、解決を構想することができる ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとするすることができる	・探究に主体的に取り組む、積極的に知的貢献・社会的貢献を図ろうとする態度 ・定期考査は実施しないが、授業に取り組む姿勢、『探究ノート』、提出物、成果報告（発表・レポート他）等を総合的に判断する。 ※平常成績の総点の算出には含まれないが、具体的な提出物や成果物が提出できない場合、個人報告書の「総合的な探究の時間」の欄に記載できる事項がなくなる可能性もある。
3 学期	5. 固有の関心に基づく探究課題の設定（卒業研究テーマの構想と検討） 配属ゼミの配分・決定	・自身の関心に応じて領域・対象を選択し、試行錯誤して固有の課題を発見することができる ・学習内容・項目 1. 2. 3. 4 の既習事項の反省をふまえて、試行錯誤して課題を発見し、必要な手法を選択して、解決を構想することができる ・自身の課題解決に向けた構想について、適切に表現し説明することができる ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとするすることができる	

★4 Locus プログラム（マイナビ社提供）のコンテンツを活用し、各自が関心の持てる事例を選択する。

第3学年	教科書	なし
総合的な探究の時間 （2単位）	副教材	特に指定せず

学習到達目標

自身の関心を核に、探究的な見方・考え方を働かせ、各教科の学習内容を超える課題について知り、自己の将来と職業や学問と関連づけて、適切な課題解決方法を構想することができるようになる。

- (1) 自身に固有の探究課題を発見し、その解決に必要な探究的手法を適切に選択し、運用することができるようになる。
- (2)① 自身の課題の解決について、必要に応じて構想や解決に必要な探究的手法を適切な方法で説明し、再調整できるようになる。
- ②自身が設定した課題について、解決過程と結果の総括を、適切な手段で説明することができるようになる。
- (3) 自身の設定した課題の探究的な学習に主体的かつ協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとする態度を養う。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規	自身に固有の探究課題を発見し、その解決に必要な十分な探究的手法を適切に選択し、運用す	① 自身の課題の解決について、必要に応じて構想や解決に必要な探究的手法を適切	自身の設定した課題の探究的な学習に主体的かつ協働的に取り組むとともに、積極的に社

準	ることができる。	な方法で説明し、再調整できるようになる。 ②自身が設定した課題について、解決過程と結果の総括を、適切な手段で説明することができるようになる。	会に参画し、貢献しようとすることができる。
---	----------	---	-----------------------

学習方法

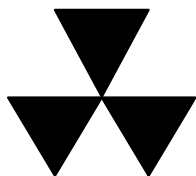
基本的な学習方法は第1学年・第2学年に同じ。ただし、最終的には一人一人が共通の探究事例から離れて課題設定を行うことになる。更に自由度は増すので、より柔軟に自身の問題関心に引きつけて学びを進めることが可能になる反面、自立的な学びに責任を負うことになる。また、各ゼミ担当教員の助言のもと、それぞれの課題について、より説得力のある効果的な手法を選択して課題解決に取り組むことが重要になる。

大学の推薦入試では、口頭試問のなかで、自身の学問的関心について説明することが求められる。本科目における探究活動への取り組みを通じ、結果として、その取り組みに関連づけて、具体的な自身の学問に対する関心を説明できるようになると良い。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

第3学年<週2時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1学期	6. 卒業研究 固有の関心に基づく課題探究の実行と成果の総括 ・構想に基づく資料収集 ・卒業研究テーマの確定 ・卒業研究の実行 調査・分析・整理 ・中間報告 ・計画の再検討・再構想	・自身に固有の探究課題を発見し、その解決に必要な十分な探究的手法を適切に選択し、運用することができる。 ・自身の課題の解決について、必要に応じて構想や解決に必要な探究的手法を適切な方法で説明し、再調整できる。 ・自身が設定した課題について、解決過程と結果の総括を、適切な手段で説明し、共有可能なものとすることができる。	【評価の観点】 ・探究に必要な知識、課題発見・設定、課題解決の技能 ・探究手法の適切な選択・判断・表現 ・探究に主体的に取り組む、積極的に知的貢献・社会的貢献を図ろうとする態度
2学期	・卒業研究の実行 調査・分析・整理の修正・補足 ・卒業研究のまとめ 報告 成果概要の執筆	・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとすることができる。	・定期考査は実施しないが、授業に取り組む姿勢、提出物、成果報告(発表・レポート他)等を総合的に判断する。 ※平常成績の総点の算出には含まれないが、具体的な提出物や成果物が提出できない場合、個人報告書の「総合的な探究の時間」の欄に記載できる事項がなくなる可能性もある。
3学期	以上をゼミ担当教員の助言のもと自立的に実行する		



Doshisha Kori Jr. & Sr. High School

同志社香里中学校・高等学校

〒572-8585 大阪府寝屋川市三井南町 15-1

TEL 072-831-0285 FAX 072-834-3750

<https://www.kori.doshisha.ac.jp>

(2022 年 3 月 作成)